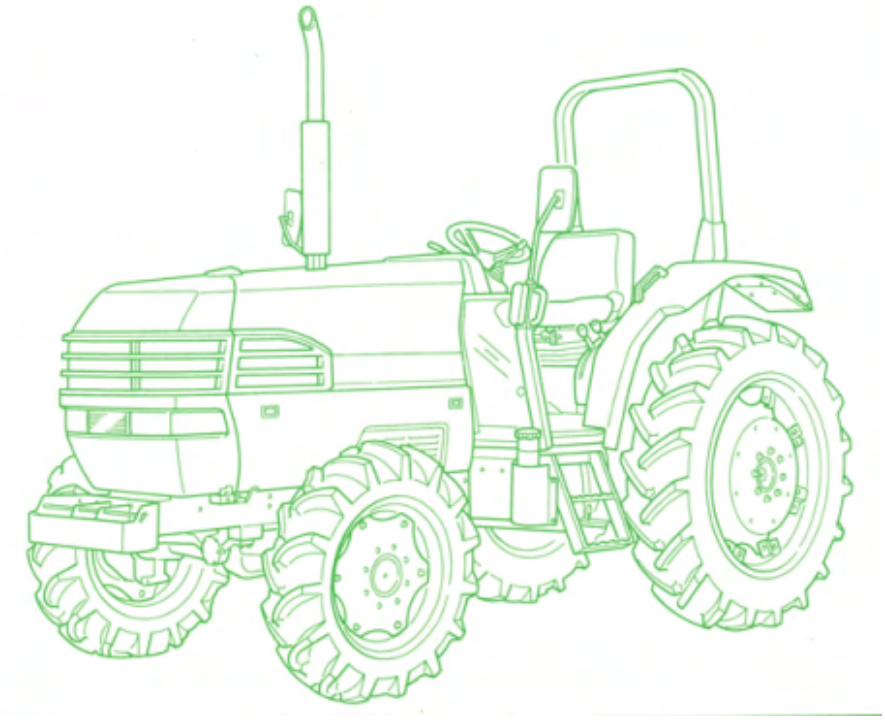
トラクタ

取扱説明書

MT520・620・720



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

もくじ

安全に作業をするために 4

大型特殊自動車としての取扱い 24

サービスと保証について 25

仕様について 26

1

各部のなまえ 27

安全銘板の貼り付け位置 29

各部のはたらき 31

2

運転と作業のしかた 43

1．作業前の点検……43
2．ならし運転について……46
3．エンジンの始動・停止のしかた……46
4．作業機を上下させるには……48
5．作業機の降下速度の調節のしかた…49
6．発進・停止・駐車のしかた……49
7．道路走行のしかた……51
8．坂道での運転のしかた……52
9．ほ場への出入のしかた……52
10．ほ場での旋回のしかた……53
11．作業に適した速度の選びかた……53
12．ダイヤクイックターン(前輪増速)の運転のしかた……55
13．デフロックの使いかた……55
14．トラックへの積込み・積降しのしかた……56
15．PTOクラッチスイッチの操作のしかた……57
16．PTO変速レバーの操作のしかた……57
17．ポジションコントロールの操作のしかた……58
18．ドラフトコントロールの操作のしかた……58
19．作業機下降速度の調整……59
20．前輪・後輪車輪幅(輪距)について…60
21．スイングドローバの使いかた……67
22．トレーラコネクタ……68
23．3点リンクの取付けかた……68
24．トップリンクの調節のしかた……71
25．作業機の取扱いについての注意……71
26．一般作業機の取付けかた……72
27．油圧の外部の取出しかた……74
28．パワーステアリング取扱上の注意…75

3

JAC仕様について 76

1．各部のなまえとはたらき……76
2．基本的な使いかた……78
3．JACシリンダ外部操作スイッチの使いかた……79
4．センサ異常時の表示について……79
5．ヒューズについて……79
6．使用後の手入れ……79

4 作業後の手入れについて 80

1．作業後の手入れ……80
2．長期間使用しない場合の手入れ……80

5 手入れと点検・調整 82

1．定期点検一覧表……83
2．オイル・グリス・不凍液一覧表……84
3．給油・給水一覧表……84
4．サイドカバー・フロントカバーの開閉のしかた……85
5．各部オイルの点検・交換のしかた…86
6．各部エレメントの交換のしかた……88
7．エアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた……89
8．防塵網の掃除のしかた……90
9．冷却水の点検・交換のしかた……90
10．燃料の点検・給油のしかた……92
11．燃料の空気(エア)抜きのしかた……92
12．ウオータセパレータの水抜きのしかた……93
13．バッテリの点検のしかた……93
14．パイプ類の点検について……94
15．電気配線の点検について……94
16．グリスアップ(注入)について……95
17．クラッチの点検について……96
18．ブレーキの点検について……96
19．駐車ブレーキレバーの点検のしかた……97
20．ハンドルの点検について……97
21．ファンベルトの点検・調整について……98
22．タイヤの点検について……98
23．排気ガスの色について……98
24．ヒューズ・ヒュージブルリンクの点検・交換について……99
25．トーインの点検・調整について……99

6 キャビン仕様について 100

1．各部のなまえ……100
2．ドアの開閉のしかた……101
3．リヤウインド・サンルーフの開閉のしかた……101
4．スイッチの使いかた……103
5．ヒューズの点検・交換について……104
6．エアコンの使いかた……105
7．FM・AM付ラジオカセットの使いかた……107
8．その他……107

キャビン仕様の手入れと点検・調整 109

1．エアコン定期点検一覧表……109
2．日常点検のしかた……110
3．フィルターの清掃のしかた……112
4．ドアストッパーの調整について…112

7 不調診断 113

1．エンジン関係……113
2．クラッチ・ブレーキ関係……115
3．油圧関係……115
4．電装関係……116

用語解説 118

仕様 119

標準付属品 120

安全に作業をするために

ここに記載されている注意項目を守らないと、
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

● 一般的な注意項目

⚠警告　排気ガスには十分に注意する

締め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



2010901

⚠警告　こんなときは運転しない

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。


2010902

⚠警告　作業に適した服装をする

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを付け、だぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。


2010903

⚠警告　シートベルトを必ず装着する

トラクタを運転するときは必ずシートベルトを締めてください。

【守らないと】

転落・転倒事故をおこした場合に、死亡または重傷を負うおそれがあります。


2010904

⚠警告　操作時ハンドルはチルトハンドルを固定する。

ハンドルの調節時以外には必らず、チルトハンドル操作レバーは「ロック」位置に固定し、テレスコハンドル操作ノブは「LOOK」方向に廻してハンドルを固定してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2010926

⚠警告　機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2010905

⚠警告　運転者以外に人を乗せない

このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。



2010906

⚠警告　エンジン始動時は必ず運転席にすわり周囲の安全確認をする

エンジン始動時は必ず運転席にすわり、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。



2010966

⚠注意　マフラの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラは高温ですので、触れないでください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010970

⚠注意　機械の改造禁止

純正以外の部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。

改造をしないでください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2010907

⚠注意　点検・整備を行なう

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2010908

⚠注意　定期点検整備を受ける

1年毎に定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、パワーステアリングのホース、ブレーキのホースは2年毎に交換してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



2010908

●作業前後の確認時の注意項目

⚠危険　注油・給油はエンジンが冷めてから行なう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれあります。



2010910

⚠危険　燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



2010911

⚠危険　バッテリ点検時は火気厳禁

バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリに引火、爆発してヤケドなどを引きおこすおそれがあります。



2010913

⚠危険　バッテリ液は体につけないようにする

バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。



2010914

⚠危険　燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



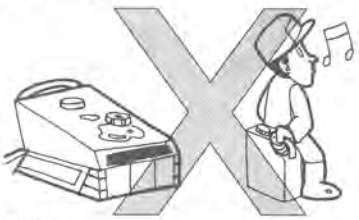
2010915

⚠危険　燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010916

⚠警告　点検整備は平坦で安定した場所で行なう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2010922

⚠警告　マフラ・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010924

⚠警告 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



⚠警告 ブレーキ・ハンドルの点検を必ず行なう

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



⚠警告 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、作業機を下げて油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



⚠注意 バッテリの取り付け取外しは正しい手順で行なう

バッテリの取り付けるときは＋側をさきに取り付け、取り外すときは－側から取外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



⚠注意　点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2010918

⚠注意　カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010920

⚠注意　点検整備は過熱部分が十分冷めてから行なう

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010921

⚠注意　使用していないPTO軸にはカバーをつける

PTO軸を使用しないときは、グリスを塗りカバーを付けておいてください。

【守らないと】

巻き込まれたりして傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010944

⚠注意　目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。また点検調整に必要な工具はトラクターに常備しておいてください。

【守らないと】

整備不良で事故を引きおこすおそれがあります。



2010927

●作業機に関する注意項目

⚠警告　作業機の着脱は平坦な場所で行なう

作業機の着脱は、平坦で安定した場所でおこなってください。夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。

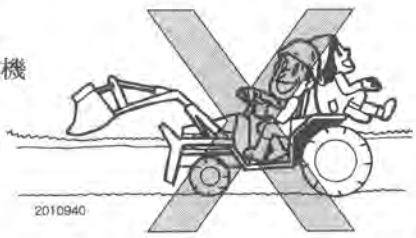

2010939

⚠警告　人や物をウエイト代りにしない

バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。


2010940

⚠警告　トラクターと作業機の周辺に人を近づけない

トラクターを移動して作業機と着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。


2010941

⚠警告 重い作業機を付けるときはウエイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロント、またはリヤにバランスウエイトを付けて、バランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩し事故を引きおこすおそれがあります。



2010942

⚠警告 トラクターに作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書を必ず読む

トラクターに作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】

傷害事故や機械の破損をひきおこします。



2010973

⚠警告 傾斜地やけん引作業をするときは、トレッドを広くして使用してください。又、左右で異なるトレッドにしないでください。

【守らないと】

転倒事故を引きおこすおそれがあります。



2010943

⚠警告 作業機を付けたときは旋回に注意

作業機によってはかなりの長さになるものがありますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。

【注意しないと】

作業機が衝突したりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010988

⚠警告 トレーラをけん引するときの注意

トレーラ側のブレーキとトラクターのブレーキを連動（大型特殊自動車）してください。また、坂道での変速はしないでください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



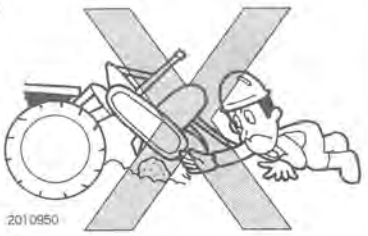
2010947

⚠警告 作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。


2010950

⚠警告 ローダー作業時は前後バランスに注意

ローダー作業時は、前後の一方向にバランスがかたよらないように、ウエイトまたは作業機を装着してください。

【守らないと】

バランスを崩し転倒事故を引きおこすおそれがあります。


2010951

⚠警告 作業機指定の PTO 回転を守る

低速回転用の作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引きおこします。


2010956

●運搬時の注意項目

⚠危険　積込み、積降しするときは左右のブレーキペダルを連結する

積込み、積降しするときは、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

緊急時ブレーキ操作を行なった際、ブレーキが片ぎきして転落などの事故を引きおこします。



⚠警告　あゆみ板の上では、だ性運転はしない

あゆみ板の上での走行は十分注意しておこなってください。
クラッチを踏んだり、主変速、副変速・シャトルを「中立」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



2010935

⚠警告　強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用する

積込み、積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップのしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



2010961

⚠警告　登るときは後退、降りるときは前進で行なう

トラックに積込むときは後退で、降りるときは前進で行なってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



⚠警告 ロープでトラックに確実に固定する

トラックにのせて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、ギヤを入れて強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。

【守らないと】

荷台からトラクターが転落したりして、事故を引きおこすおそれがあります。



2010963

●移動・ほ場出し入れ時の注意項目

⚠警告 関係法規を守り安全運転を行なう

道路を走行するときは、関係法規を厳守し、ヘルメットをかぶってください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。


2010928

⚠警告 周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

傷害事故をおこすおそれがあります。



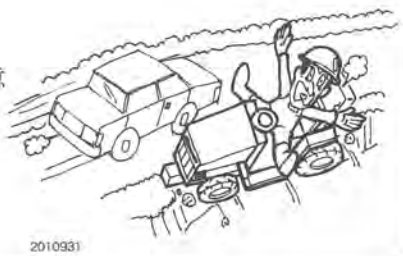
2010929

⚠警告 移動時は路肩に注意

溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。

【注意しないと】

転落事故をおこすおそれがあります。


2010931

⚠警告 移動走行時は左右のブレーキペダルを連結する

移動走行時には、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

ブレーキ操作の際、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。



2010932

⚠警告 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ 禁止

発進・停止はゆっくりと行なってください。旋回をするときは、充分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。


2010933

⚠警告 坂道・あゆみ板の上では変速禁止

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道やあゆみ板の上では、変速をしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。


2010934

⚠警告 坂道やあゆみ板の上では、だ性運転はしない

坂道やあゆみ板の上での走行は十分注意しておこなってください。クラッチを踏んだり、主変速、副変速・シャトルを「中立」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



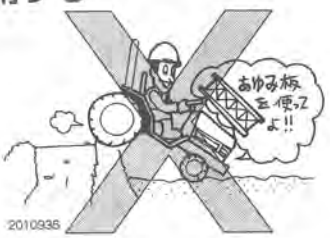
2010935

⚠警告 溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用する

ほ場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るとき、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をおこすおそれがあります。

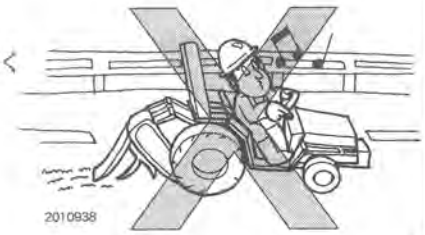


⚠警告 公道走行時は作業機の装着禁止

公道走行をするときは、ロータリなどの作業機を取り外してください。

【守らないと】

道路交通法違反です。事故を引きおこすおそれがあります。



⚠警告 公道走行をするときは道路交通法規を厳守してください

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。



⚠注意 暖機運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】

トラクターが自然に動きだし、事故をひきおこすおそれがあります。



●作業時の注意項目

⚠警告 ハウス内での作業では換気を十分にする

排気ガスが充満しないように、十分に換気を行なってください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



2010948

⚠警告 爪に巻き付いた草などを取るときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



2010949

⚠警告 子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010952

⚠警告 ロータリ作業ではダッシュに注意

地面が硬かったり、石の多いところでは、ロータリをゆっくりと地面に降ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛出す（ダッシュ）ことがあります。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



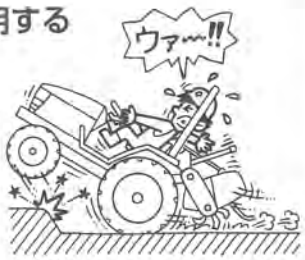
2010953

⚠警告 あぜ越え、段差越えのときはあゆみ板を使用する

田・畑への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときはあゆみ板を使用し、地面に接地しない程度に作業機を下げ重心を低くしてください。

【守らないと】

バランスを崩して転倒するおそれがあります。



2010954

⚠警告 わき見、手放し運転はしない

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010955

⚠警告 エンジン始動時は、作業機が下がっているか確認

エンジン始動時は、ポジションレバー「最下」、にして、作業機が下がっていることを確認してください。

【守らないと】

作業機が不意に下り、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010958

⚠警告 機械から離れるときは平坦地に置き エンジンを止める

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。また、作業機は地面に接地してください。

【守らないと】

トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。


2010958

⚠警告 旋回時はデフロックを解除する

必ずデフロックを解除して旋回してください。

【守らないと】

思うように旋回ができずに、事故を引きおこすおそれがあります。



2010957

⚠警告 けん引作業はドローバを使用

けん引作業は必ずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどでのけん引は絶対しないでください。

【守らないと】

転倒のおそれがあります。



2010986

●作業終了後・格納時の注意項目

⚠危険 注油・給油はエンジンが冷めてから行なう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれあります。



2010910

⚠危険 ラジエタが熱いときはキャップを開けない

ラジエタが過熱しているときには、絶対にラジエタキャップを開けないでください。

【守らないと】

熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。



2010912

⚠危険　シートは機械が十分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラやエンジンが十分冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010965

⚠警告　点検整備は平坦で安定した場所で行なう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2010922

⚠警告　マフラ・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010924

⚠警告　電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



2010925

⚠ 警告　長期格納時はバッテリとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合はバッテリを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



2010964

⚠ 注意　長期格納時はクラッチを切っておく

長期間格納する際には、必ずクラッチペダルをロック「切」状態にしてください。

【守らないと】

クラッチが切れなくなり、事故を引き起こすおそれがあります。



2010969

⚠ 注意　高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、作業機を下げて油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010967

⚠ 注意　バッテリの取り付け取外しは正しい手順で行なう

バッテリの取り付けるときは＋側をさきに取り付け、取り外すときは－側から取外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010917

⚠注意　点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2010919

⚠注意　カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010920

⚠注意　点検整備は過熱部分が十分冷めてから行なう

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



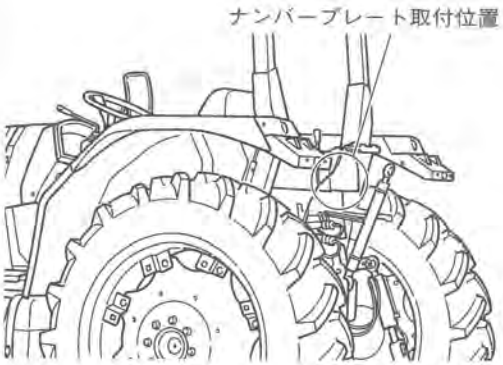
2010921

大型特殊自動車としての取扱い

このトラクターは、大型特殊自動車として、次の手続きが必要です。くわしいことは、お買上げいただいた販売店にご相談ください。

登録について

大型特殊自動車として登録申請し、ナンバープレートの交付を各陸運事務所で受けなければなりません。
交付されたナンバープレートは、ナンバープレートブラケットに取付けてください。



自動車保険

大型特殊自動車の運行には、自動車損害賠償責任保険が必要です。

免許

このトラクターの運転には、大型特殊自動車の免許が必要です。（自動車の普通免許では運転できません。）道路走行時には、必ず免許証と、自動車検査証を所持してください。

車検

自動車検査証の有効期間は、2年間です。有効期間の切れるまでに車検を受けなければなりません。

整備

このトラクターを運転する場合、1日1回は運転の前に点検を行なってください。また、6箇月ごとに点検整備をしなければなりません。なお、くわしくは82ページの**「手入れと点検・調整」**の項を参照してください。

輪距

道路走行は、必ず次の輪距にして走行してください。これを怠ると、「道路運送車両の保安基準」違反になり、道路走行はできません。

(mm)

型式	前輪		後輪	
	タイヤサイズ	輪距	タイヤサイズ	輪距
MT520	8.3-20	1320	12.4-32	1340
MT620	8.3-24	1370	12.4-36	1440
MT720	9.5-22	1440	16.9-30	1440

公道走行をするためには

- 勝手に構造等を変更した場合は、大型特殊自動車の対象外になり、公道を走行することができなくなることがありますのでご注意ください。
- 作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。必ず作業機を取外して走行してください。
- 作業により変更した輪距などは、必ず標準状態に戻してから走行してください。

⚠警告

- **公道走行するときは、道路交通法等の関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

サービスと保証について

保証書について

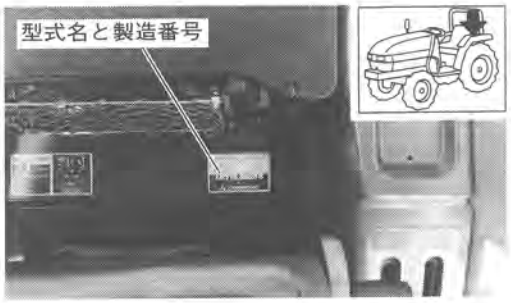
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

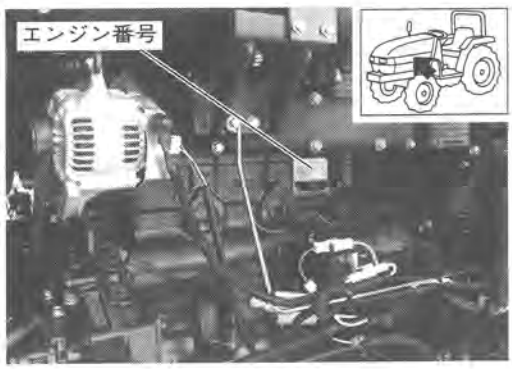
アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに、113ページの「不調診断」に従って点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの弊社支店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。





補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

トラクターの保証

※エンジンおよび本機で封印されている所はさわらないでください。性能を大きく悪くするばかりか、封印が外れたと認められる場合は、一切の保証を受けられなくなります。

なお、詳しくは保証書をご覧いただくようお願いいたします。

仕様について

本機には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もあります。

仕様記号

ダイヤクイックターン……標準
JAC……J
キャビン……X
ズームトレッド……Z

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場においてのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業及び路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは決して行なわないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

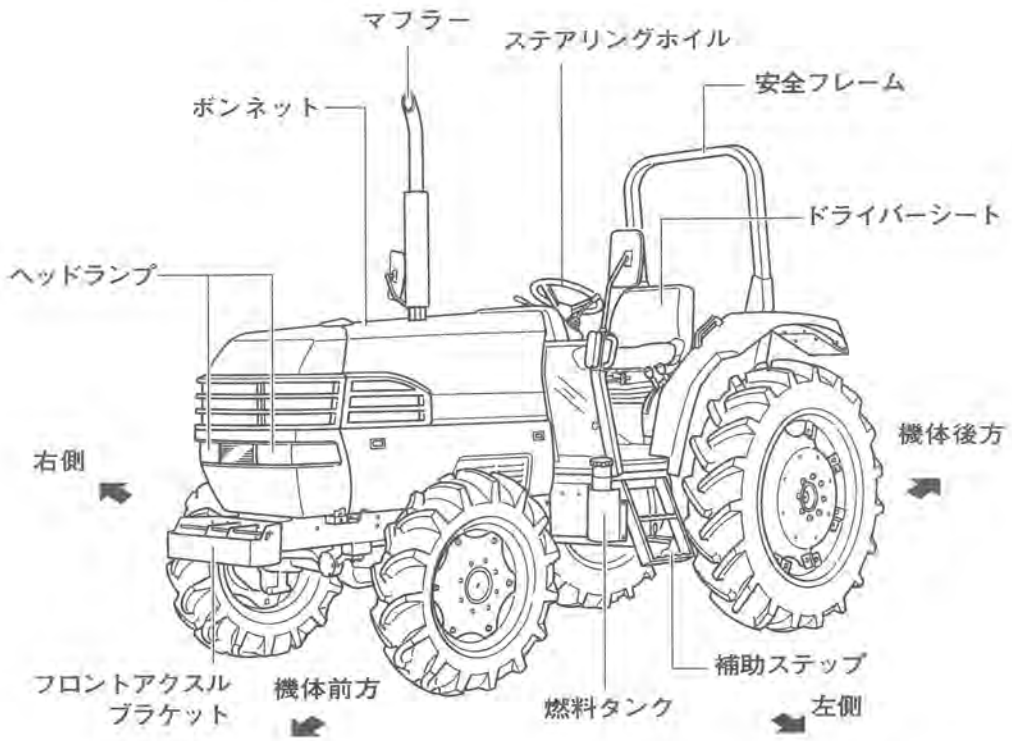
方向・位置マークについて

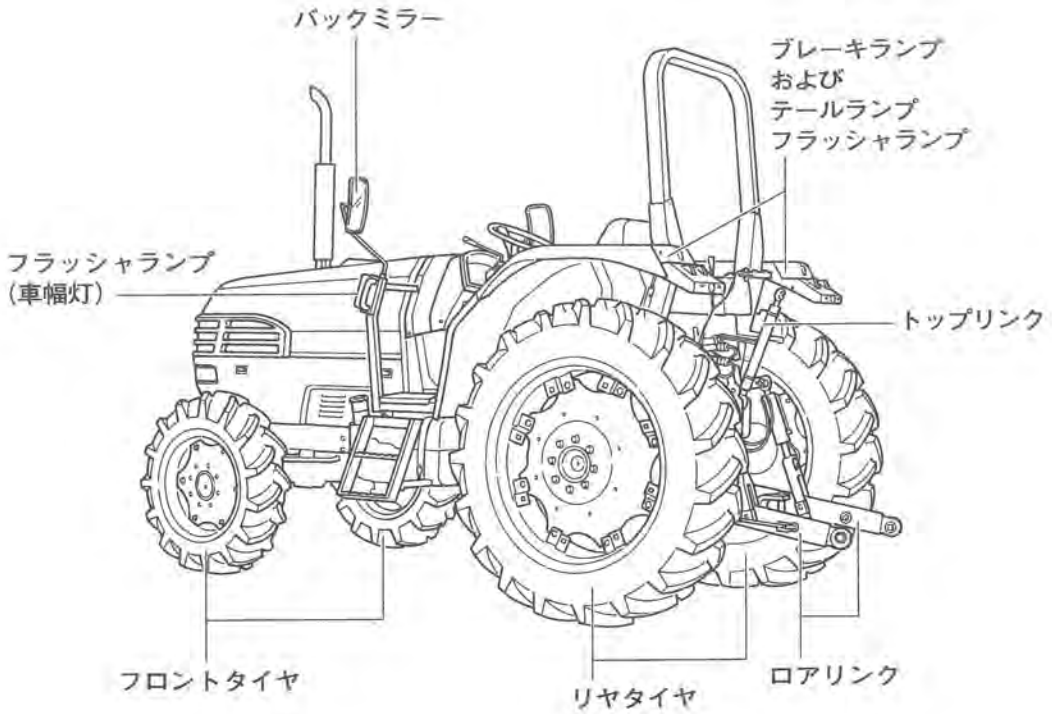


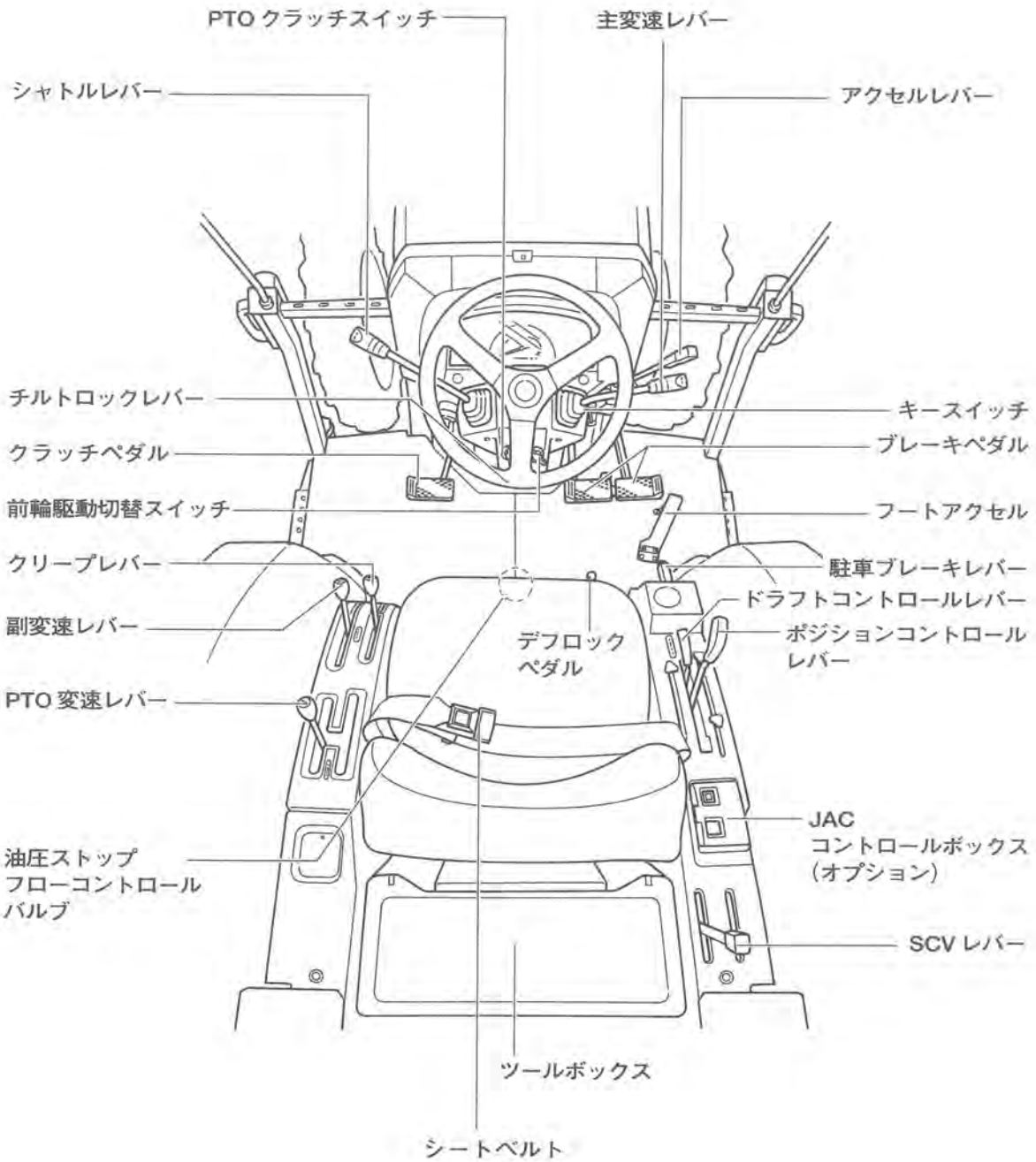
本機のどの位置にあるか、
「見ている方向（⬅印）」を
あらわしています。

各部のなまえ

説明図はMT620を基準にしています。

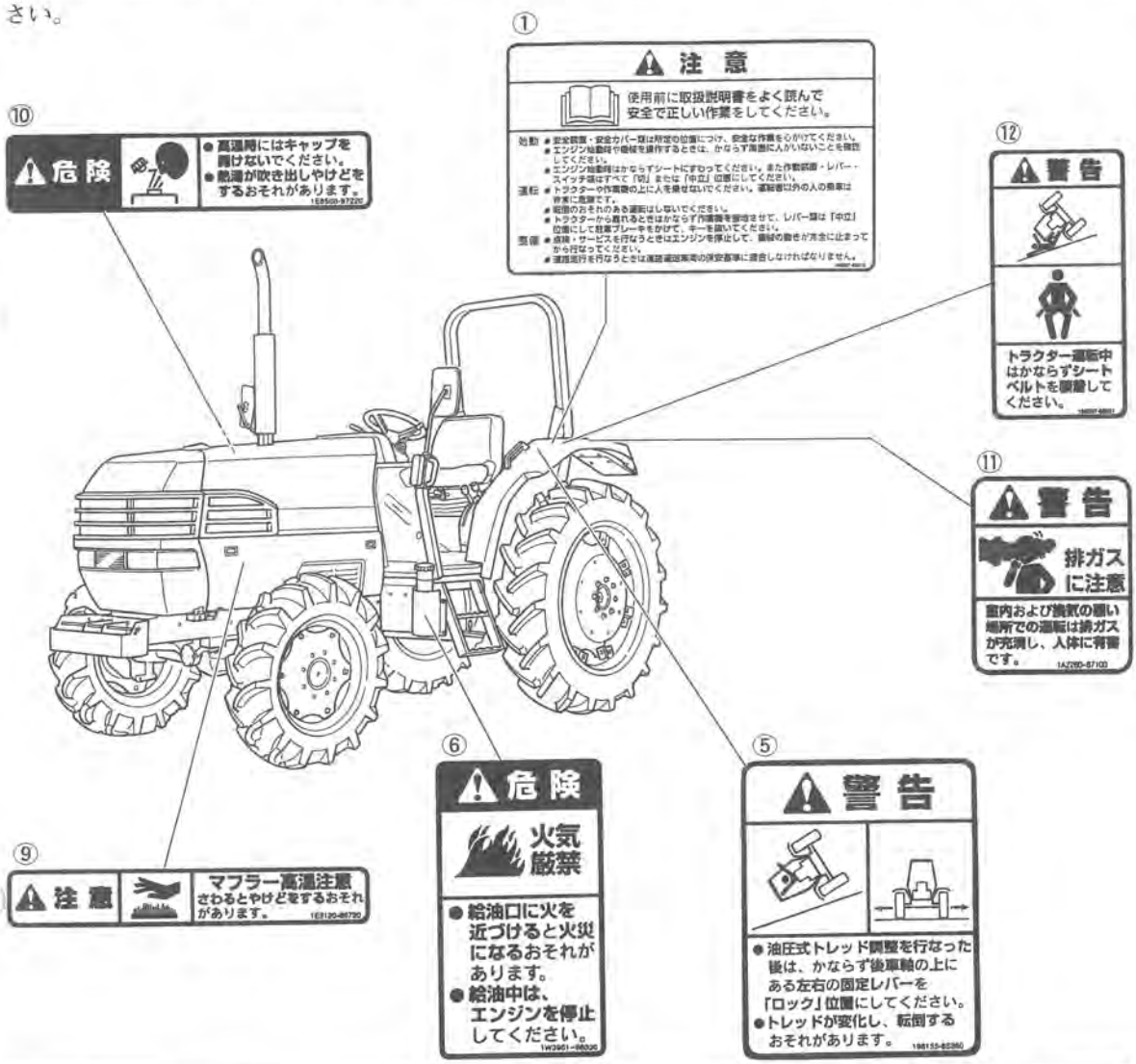




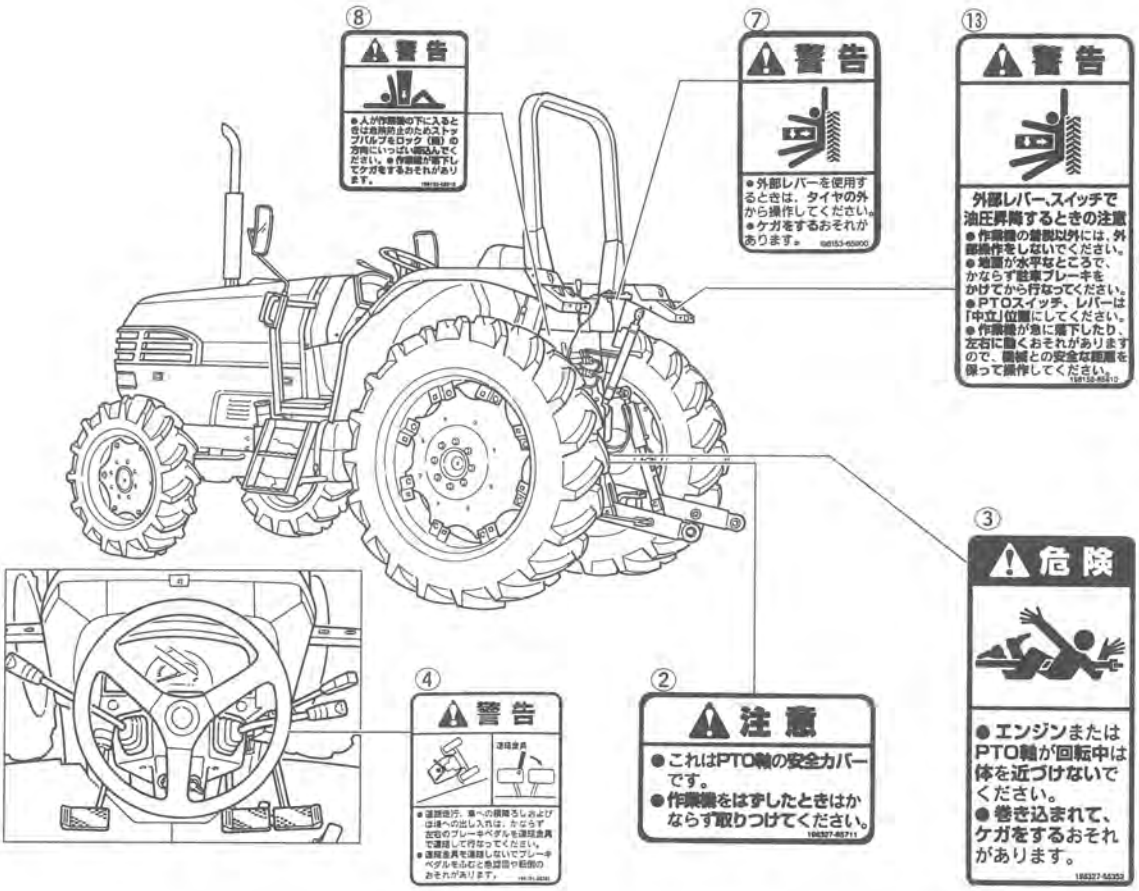

PTO クラッチスイッチ
主変速レバー
シャトルレバー
アクセルレバー
チルトロックレバー
キースイッチ
クラッチペダル
ブレーキペダル
前輪駆動切替スイッチ
フートアクセル
クリープレバー
駐車ブレーキレバー
ドラフトコントロールレバー
副変速レバー
デフロック
ペダル
ポジションコントロール
レバー
PTO 変速レバー
JAC
コントロールボックス
(オプション)
油圧ストップ
フローコントロール
バルブ
SCV レバー
ツールボックス
シートベルト

安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ちもし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
①	9030 0029 300	注意(安全運転)	⑧	9030 0029 380	警告(油圧)
②	9030 0029 310	注意(PTOカバー)	⑨	9030 0029 390	注意(高温注意)
③	9030 0029 320	危険(回転軸危険)	⑩	9030 0029 400	危険(ラジエタ)
④	9030 0029 330	警告(ブレーキペダル)	⑪	9354 0000 090	警告(排気ガス)
⑤	9035 0000 060	警告(油圧トレッド調節)	⑫	9030 0029 420	警告(シートベルト)
⑥	9030 0029 350	危険(火災)	⑬	9030 0000 070	警告(外部油圧操作)
⑦	9034 0000 110	警告(外部油圧操作)			

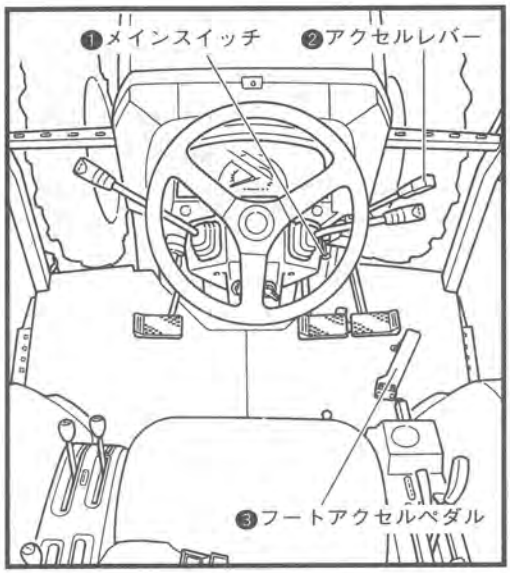

⑧
警告
●人が作業機の下に入るときは油圧回路上のためストップバルブをロック（閉）の方向にいっぱいに締込んでください。●作業機が落下してケガをするおそれがあります。
⑦
警告
●外部レバーを使用するときは、タイヤの外から操作してください。●ケガをするおそれがあります。
⑬
警告
外部レバー、スイッチで油圧昇降するときの注意
●作業機の昇降以外には、外部操作をしないでください。
●地面が水平なところで、かならず駐車ブレーキをかけてから行なってください。
●PTOスイッチ、レバーは「中立」位置にしてください。
●作業機が急に降下したり、左右に動くおそれがありますので、機械との安全な距離を保って操作してください。
③
危険
●エンジンまたはPTO軸が回転中は体を近づけないでください。
●巻き込まれて、ケガをするおそれがあります。
④
警告
運転席
●運転席方、車への乗降ろしおよびは座への出し入れは、かならず左右のブレーキペダルを運転席具で連結して行なってください。
●運転席具を運転しないでブレーキペダルをふむと急旋回や転倒のおそれがあります。
②
注意
●これはPTO軸の安全カバーです。
●作業機をはずしたときはかならず取りつけてください。

キャビン仕様


⑤
警告
●油圧式トレッド調整を行なった後は、かならず後車軸の上にある左右の固定レバーを「ロック」位置にしてください。
●トレッドが変化し、転倒するおそれがあります。
⑫
警告
トラクター運転中はかならずシートベルトを装着してください。
⑪
警告
排ガスに注意
室内および換気の悪い場所での運転は排ガスが充満し、人体に有害です。

各部のはたらき

エンジンコントロール関係



❶メインスイッチ



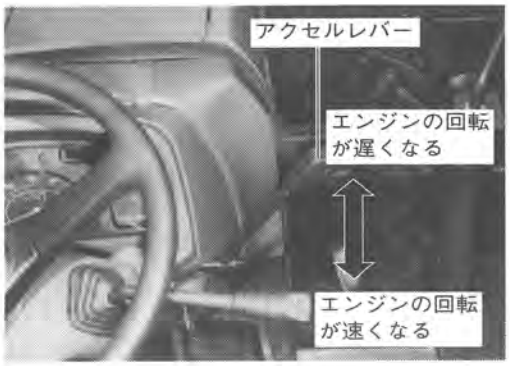
エンジンの始動に使用します。

「OFF」　エンジンが停止し、電流が流れません。(キーを抜き取れます)

「ON」　各電装品スイッチに電流が流れます。
エンジンが停止している場合、エンジン油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯します。

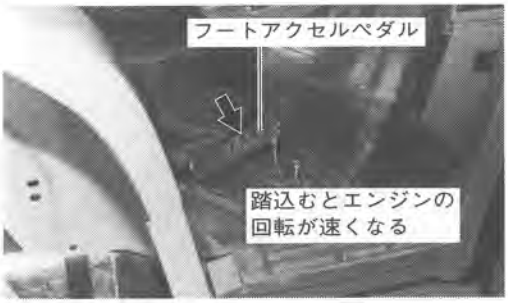
「START」　セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動しますとキーから手を離してください。キーは自動的に「ON」の位置に戻り、連続運転に入ります。

❷アクセルレバー



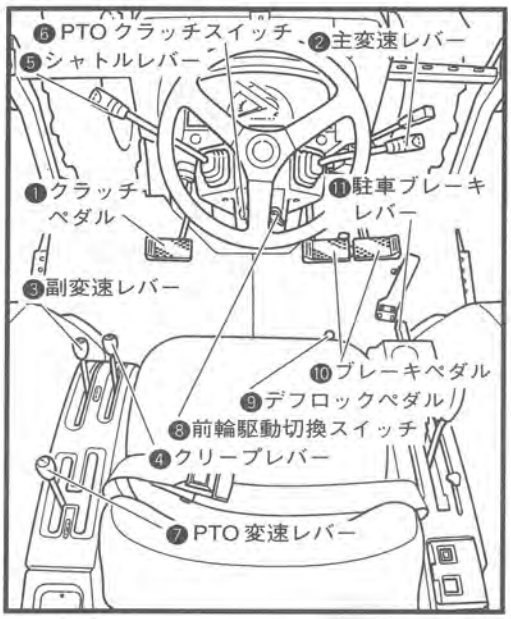
エンジンを早く回転したり、遅くしたりするのに使用します。一定回転で作業する場合に使用します。

❸フートアクセルペダル



エンジン回転を早くしたり、遅くしたりするのに使用します。主に路上走行時に使用します。

走行・PTO関係



❶クラッチペダル



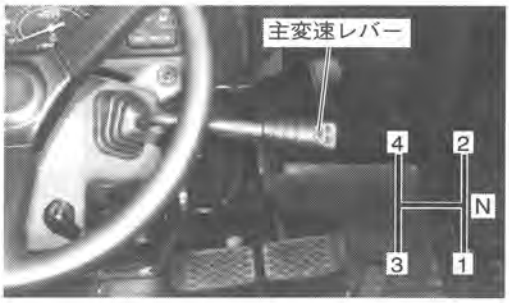
ペダルをいっぱいに踏む……クラッチが切れます。

ペダルから足をはなす……クラッチがつながります。

⚠注意

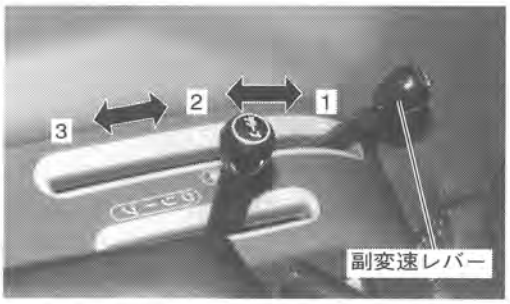
- **クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。半クラッチ状態となり、クラッチの寿命を低下させます。**

❷主変速レバー



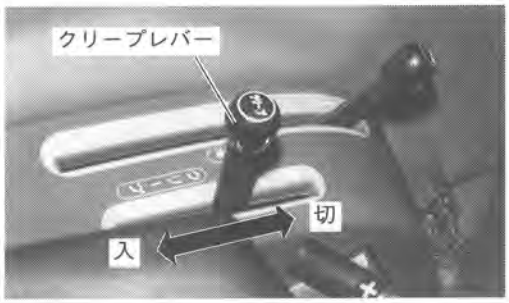
走行速度を4段に変速できます。フルシンクロメッシュを採用してますので、トラクターが停止しなくてもクラッチペダルをいっぱいに踏込んで変速ができます。

❸副変速レバー



副変速レバーは3段階に変速でき、主変速とクリープの組合せで、前進24段、後進24段の変速ができます。

❹クリープレバー

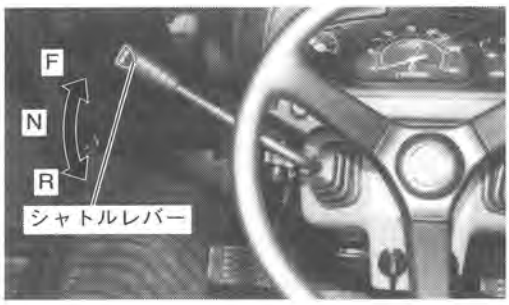


超低速（クリープ速度）の入・切に使用します。

【取扱いの注意】

- **超低速（クリープ速度）の入切使用と取扱いを誤ると故障の原因となります。**
  53ページの「11.作業に適した速度の選びかた」を参照してください。

❺シャトルレバー

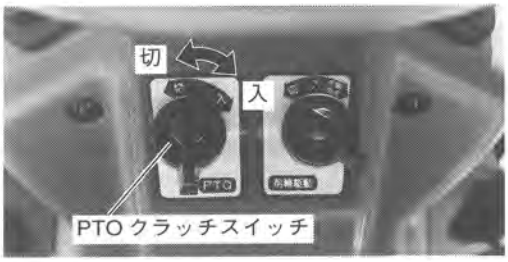


前進・後進の切換えはクラッチペダルをいっぱいに踏込んで変速してください。
シンクロメッシュを採用していますので、トラクターが停止しなくても変速ができます。

【取扱いの注意】

- **中立「N」位置ではレバーが自動的にロックされます。レバーを持上げてから操作してください。「N」位置では計器盤のパイロットランプが点灯します。**
- **中立「N」位置でないとエンジンが始動しません。**

❻PTO クラッチスイッチ



PTO のクラッチを切換えるときに使用します。

「入」　PTO クラッチスイッチを「入」にすると、計器盤の PTO クラッチパイロットが点灯し、PTO クラッチが接続されます。

「切」　PTO 軸が回転しません。

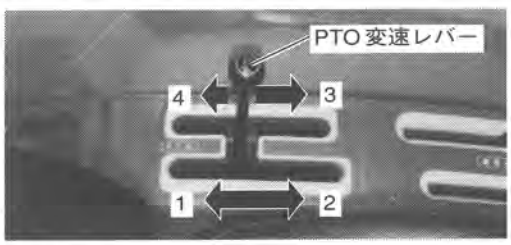
【取扱いの注意】

- **PTO クラッチスイッチ「入」位置では、クラッチペダルを踏み込んでも PTO 軸の回転は停止しません。**
- **PTO クラッチスイッチ「切」位置でないと、エンジンが始動しません。**

❼PTO 変速レバー

⚠注意

- **作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。守らないと、作業機が壊れ事故をおこすおそれがあります。**



PTO 軸（動力取出し軸）の回転数は4段階に変速できます。変速するときは、PTO クラッチスイッチを「切」にして行なってください。

❽前輪駆動切換スイッチ

⚠警告

- **ダイヤクイックターン位置での路上走行や、フロントローダ作業および傾斜地での作業はしないでください。守らないと転倒などの事故をおこすおそれがあります。**



「切（2駆）」「入（4駆）」「ダイヤクイックターン」の切換えができます。停止時・走行時にかかわらず、クラッチペダルを踏まずにスイッチを切換えてください。（パイロットランプが点灯します。）

「ダイヤクイックターン」位置にすると、旋回時にハンドルを切ると（切れ角35度以上）、前輪が後輪の約1.8倍の速さで回転し、スムーズな旋回ができます。

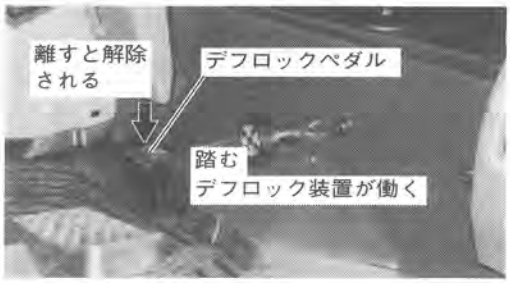
【取扱いの注意】

- **副変速レバーを3速に入れると、ダイヤクイックターンはいったん解除となりますが、ダイヤクイックターンのパイロットランプは点灯したままです。**

❾デフロックペダル

⚠警告

- **必ず、デフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに事故をおこすおそれがあります。**



後輪の片輪が空転した場合、両車輪を一体に駆動させる装置で、スリップして走行しにくいときに役立ちます。ペダルを踏込むとデフロック状態になり、離すと解除されます。

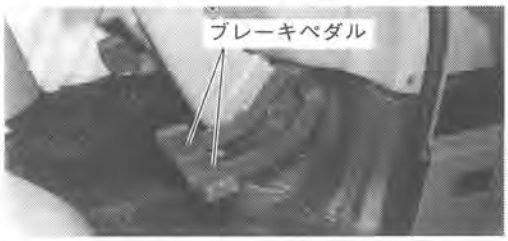
【取扱いの注意】

- **ペダルを離しても解除されないときはステアリングを切るか、片ブレーキを作動させると解除されます。**

⑩ブレーキペダル

⚠警告

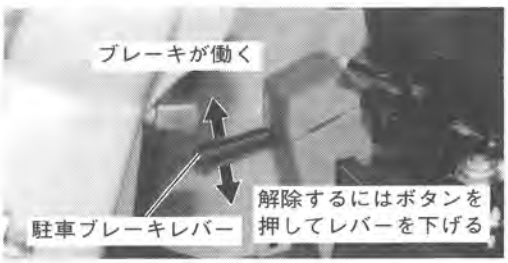
- **移動走行時には、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。さもないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。**



ブレーキペダルは左右独立しています。ほ場内で小回りする場合に旋回したい側のブレーキペダルを踏み込むと、踏み込んだ側の後輪の動力がたたれ、ブレーキがかかり、小回りできます。

路上走行時やトラックへの積込み・積降ろし時は、必ず連結金具で左右のブレーキペダルを連結して走行してください。

⑪駐車ブレーキレバー



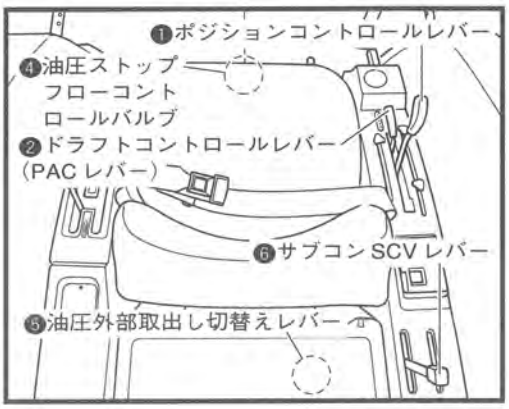
レバーを上に引き上げると駐車ブレーキが働き、解除するときにはレバー先端のボタンを押して、レバーを下げます。

※駐車ブレーキレバーを引くと、パイロットランプが点灯します。

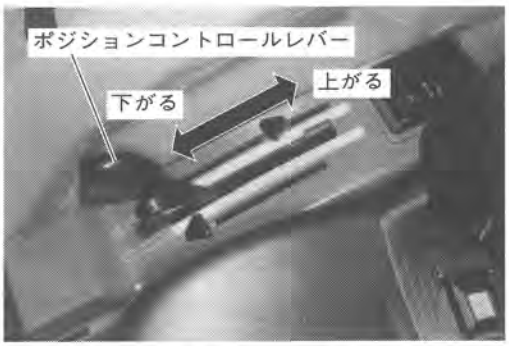
【取扱いの注意】

- **駐車ブレーキを引いたまま走行するとブレーキの早期磨耗などにつながります。**

油圧関係



❶ポジションコントロールレバー

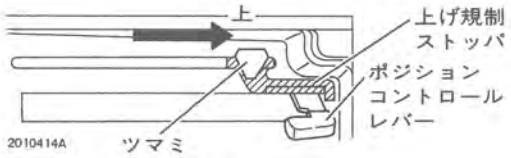


作業機を任意の位置に設定し、一定に保ちます。

上げ規制ストッパは、ポジションコントロールレバーの操作範囲を制限したいときに使用します。ストッパを移動させたいときは、ツマミをゆるめて行います。

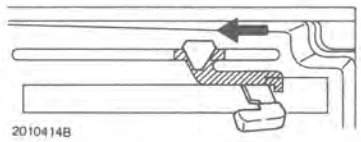
● 上げ規制ストッパ格納時

ツマミを一番上の位置にセットします。



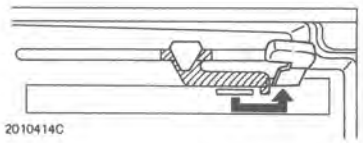
● 上げ規制を行うとき

ツマミを希望の位置へ移動させます。



● 作業機の落下防止

レバーを図の位置にセットします。



❷ドラフトコントロールレバー (PAC レバー)



ロータリーおよびプラウ作業の耕深調節に使用します。

❸外部昇降レバー

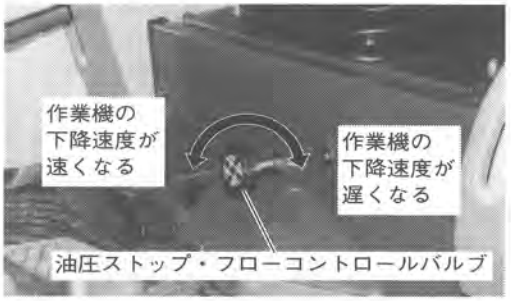
⚠警告

●外部昇降レバーを操作するときは、必ずタイヤの外側から操作してください。
作業機にはさまれてケガをするおそれがあります。



外部昇降レバーは、内部のポジションコントロールレバーに連動されています。作業機の着脱に便利です。

❹油圧ストップ・フローコントロールバルブ



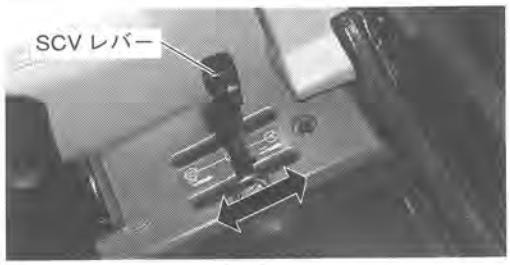
作業機の降下速度を調節するのに使用します。(フローコントロール機構)
また、右へいっぱい回すと作業機昇降装置への油圧がストップします。

❺油圧外部取出し切換えレバー



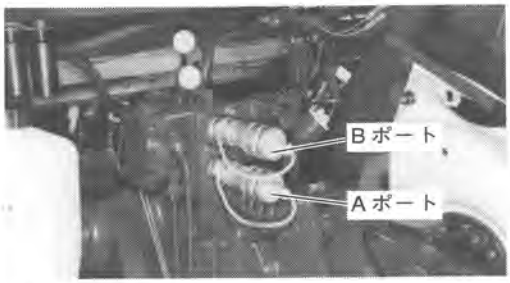
外部油圧接続口を使用する場合に、切換えレバーを「**外部**」位置にし、外部取出口に作業機のバルブを配管してください。

❻サブコン（油圧補助コントロール）SCV レバー



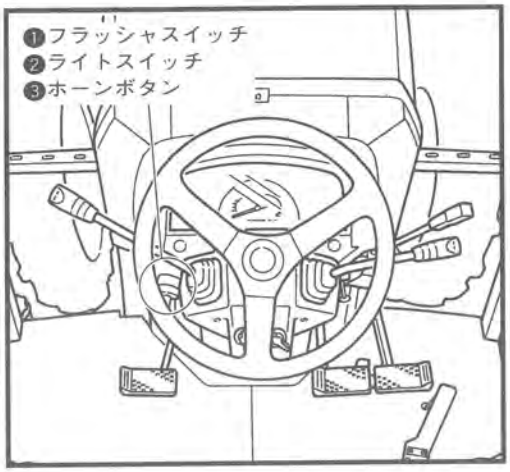
SCV レバーで作業機側の「**単動**」「**複動**」のシリンダを操作できます。

	複　動		単　動	
SVCレバー	ポート Ⓐ	ポート Ⓑ	ポート Ⓐ	ポート Ⓑ
⇨Ⓐ	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出	——
Ⓑ⇦	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	——

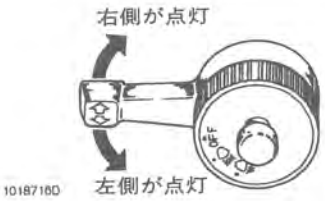


単動シリンダを使用するときは、Aポートに配管してください。

電装関係

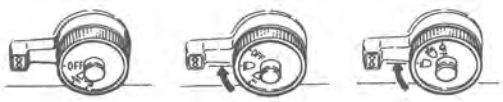


❶フラッシャスイッチ



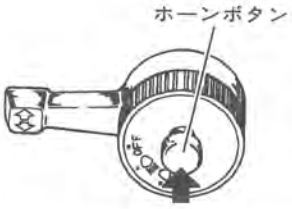
メインスイッチを「**ON**」位置にしてフラッシャスイッチを上に上げれば右側、おろせば左側のフラッシャランプが点灯します。点灯しないときは、116ページを参照してください。

❷ライトスイッチ



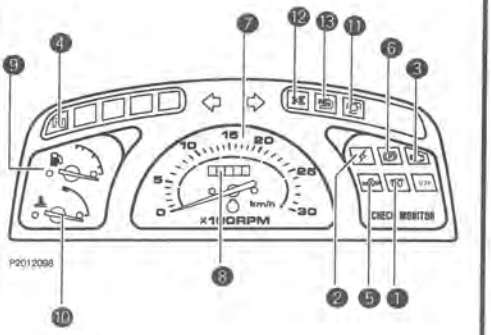
メインスイッチ「**ON**」でライトスイッチを右側に1段廻すと上向照射、2段廻すと下向照射になります。
点灯しないときは、116ページを参照してください。

❸ホーンボタン

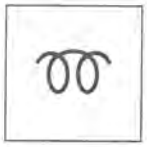


メインスイッチを「ON」位置にしてホーンボタンを押せば、ホーンが鳴ります。
鳴らないときは、116ページを参照してください。

計器盤



❶サーモスタートパイロットランプ



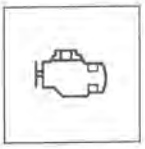
メインスイッチを「ON」の位置にすると点灯してヒーターに通電したことを示します。ランプが消えてから「START」位置に回しエンジンを始動します。
サーモスタートランプ点灯時間は、
冷却水温5℃以上……
1秒以下
冷却水温5℃以下……
3～15秒
(冷却水温により、ヒーターの通電時間が変わります。)

❷チャージパイロットランプ



メインスイッチ「ON」の位置で、ランプが点灯しており、始動後エンジン回転が上がり充電し始めるとランプが消えます。ただし、エンジン回転が1000rpm以下では充電しません。充電するときは、1500rpm以上にしてください。

❸センサトラブルランプ



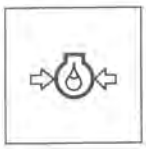
センサ類に異常があると、ランプの点滅で知らせます。
すぐにエンジンを停止して不具合箇所への原因を調べてください。
※キースイッチ「ON」時約1秒間は点灯します。

❹ニュートラルランプ



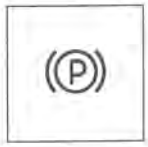
シャトルレバーが「N」位置のときに点灯します。
運転が終わり、トラクターから離れるときは、ランプの点灯を確認してください。

❺エンジン油圧パイロットランプ



メインスイッチを「ON」にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。
エンジン回転中に、油圧ランプが点灯するときは、潤滑油回路に異常が発生したからです。すぐエンジンを停止して不具合箇所の原因を調べてください。

❻駐車ブレーキパイロットランプ



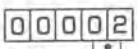
駐車ブレーキレバーを引き上げるとランプが点灯します。
運転をするときには、必ずランプが消えていることを確認してください。

❼エンジン回転計



エンジン回転数を指針で示します。

❽アワメータ



トラクターの使用時間を数字で示します。
6倍すると「分」
「時間」

❾燃料計



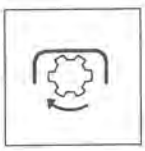
燃料の残量を指針で知らせます。針が赤色区域を示した場合は早めに燃料を補給してください。

❿水温計



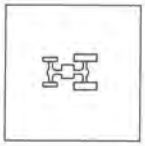
運転中の冷却水温を指針で示します。針が赤色区域位置を示した場合は、作業を中断して点検してください。

⓫PTO クラッチパイロットランプ



PTO クラッチスイッチが「入」位置のときに点灯します。

⑫前輪駆動ランプ



前輪駆動切換えスイッチ「入」の位置でランプが点灯します。

⑬ダイヤクイックターンランプ

⚠警告

- **前輪駆動スイッチが「ダイヤクイックターン」位置の状態で路上走行や傾斜地では使用しないでください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。**



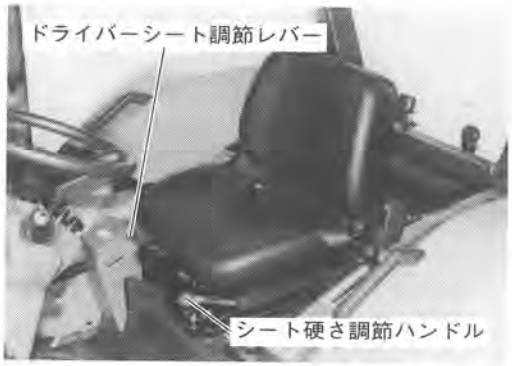
前輪駆動スイッチ「ダイヤクイックターン」の位置でランプが点灯します。

ランプ点灯の状態でも副変速「3速」にするとダイヤクイックターンはいったん解除されますが、また、他の変速段に入れますともとのダイヤクイックターンの状態に戻ります。

その他

❶ドライバーシートの調節

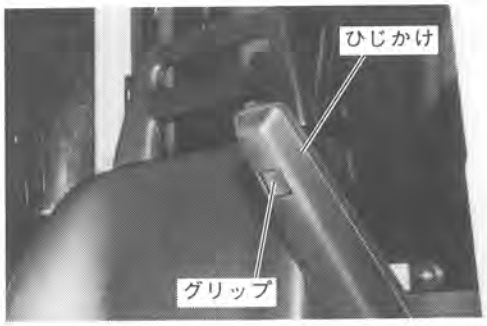
可倒式アームレスト付です。運転者の体格に合わせて前後、リクライニング（角度調節）および体重調節ができます。



- **ドライバーシート調節レバー**
  ドライバーシートの前後位置の調節に使用します。
  運転者の体格に合わせて調節してください。
- **シート硬さ調節ハンドル**
  運転者の体重に合わせて、シートバネの強さが調節できます。
  好みの強さに調節してください。
  ハンドル上面に⊕の表示が出ている状態で、ハンドルを左右に動かすとシートバネは硬くなります。
  ハンドル上面に⊖の表示が出ている状態で、ハンドルを左右に動かすとシートバネはやわらかくなります。
  ハンドル横の目印を目安に調節してください。
  ⊕⊖の表示の入れかえはハンドルを手前に引き回転させます。



- **リクライニング調節レバー**
  レバーを上側に引いて、背もたれの角度を4段階に変えられます。
- **ランバーサポート調節グリップ**
  背もたれの中央部が前・後ろに調節できます。
- **ひじかけ**
  ひじかけ下部のグリップを回すと、上下に角度を設定できます。

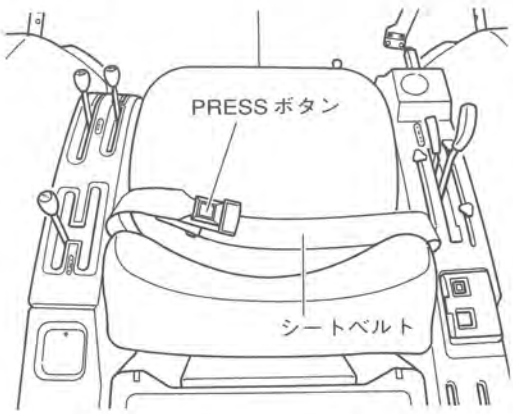


❷シートベルト

⚠警告

- **トラクターを運転するときは、必ずシートベルトを着用してください。**
  守らないと、転落、転倒事故のとき死亡または重傷のおそれがあります。

ドライバーシートを正しい運転姿勢位置にし、上体を起こしてすわります。腰骨にかかる位置にベルトがねじれないようタングプレートをバックルの中へ「**カチリ**」と音がするまで差し込みます。
外すときは、バックルのPRESSボタンを押します。

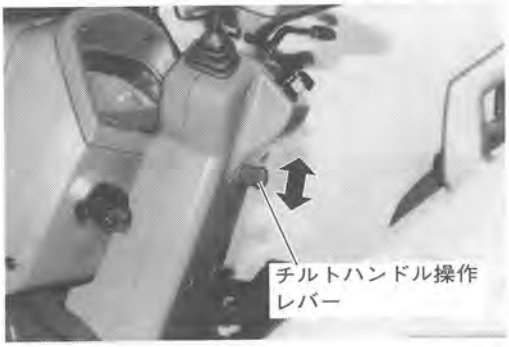


❸チルトハンドル操作レバー

⚠警告

- **ハンドルの調節時以外には必ず、チルトハンドル操作レバーは「ロック」位置に固定してください。守らないと、思うように旋回ができずに事故をおこすおそれがあります。角度は3段階に調整できます。**

ハンドルを前後に調節するには、チルトハンドル操作レバーを「**フリー**」位置にし、運転しやすい位置に動かして、操作レバーを「**ロック**」位置にしハンドルを固定します。



❹リヤボックス

車検証、取扱説明書、小物類が入れられます。



外部電源取り出し

12V20A を越える外部電源を取り出します。バッテリから直に電源を取り出しますのでキー連動しません。また、ヒューズも作業機側に必ず設けてください。



12V20A 以下の外部電源を取り出しできます。
キー連動方式でヒューズも本機に組込まれています。



1.作業前の点検

⚠危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので、必ず点検してください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

- 点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをした上で行なってください。守らないと、機械が転倒するなど事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の下へ入るときは、油圧ストップバルブをいっぱいに締め込んで油圧をストップさせてください。守らないと、何らかの原因で、作業機が急に下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 点検・整備の修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行なってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

安全で快適な作業を行なうには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行なうようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了時も異常がないかチェックしてください。点検は次の順序で行なってください。

❶前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検します。

❷トラクターのまわりを回ってみて

- 各部の変形・損傷・汚れ
- タイヤの空気圧、摩耗度合、損傷…98ページ


2010567

- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ
- ホイールのボルトのゆるみ
- 車輪取付ボルト、リムとホイルの組み替えボルトのゆるみ…60ページ

❸ボンネットを開けてみて

- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷…92・94ページ


2010569

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ…86ページ


2010568

- 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷…91・94ページ


2010549

- バッテリ液の量…93ページ


2010570

- エアクリーナーの汚れ…89ページ


2010571

- 冷却ファンベルトの張りと損傷…98ページ


2010572

- ラジエータグリルやエンジンルーム内のホコリやゴミ…90ページ


1016521A

- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ…94ページ


2010562

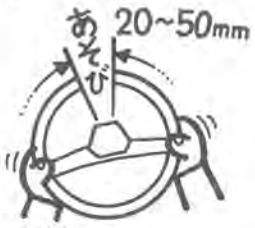
❹運転席に座ってみて

- ブレーキの作動具合と遊び量…96ページ



2010564

- ハンドルの遊び量…97ページ



2010565

- クラッチペダルの作動具合と遊び量…96ページ



2010564

❺エンジンを始動してみて

- エンジン始動後の異音



2010566

- 排気ガスの色…98ページ



2010557

- ランプ・メータ類の作動…37～40ページ


2010558

❻作業機側へ回ってみて

- ドライブシャフトロックピンのPTO軸への挿入状態
- 各部のRピンの差し込み状態


2010563

詳しくは作業機の取扱説明書をご覧ください。

2.ならし運転（最初の50時間）について

新車は使用時間50時間までの取扱いが大変重要です。
トラクターの寿命、性能に大きく影響します。この期間中は、次の点に注意して、正しく取扱って下さい。

①急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
②必要以上のスピードや負荷をかけないでください。
③運転はエンジンが十分に暖まってから行なってください。
④悪路や傾斜地では、速度を落としてゆっくり走行してください。
⑤使い始めて最初の50時間目には、84ページの表に従い各部の点検、オイルの交換等をして下さい。

3.エンジン始動・停止のしかた

⚠警告

- エンジン始動時は、必ず運転席に座ってレバーの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 閉めきった室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

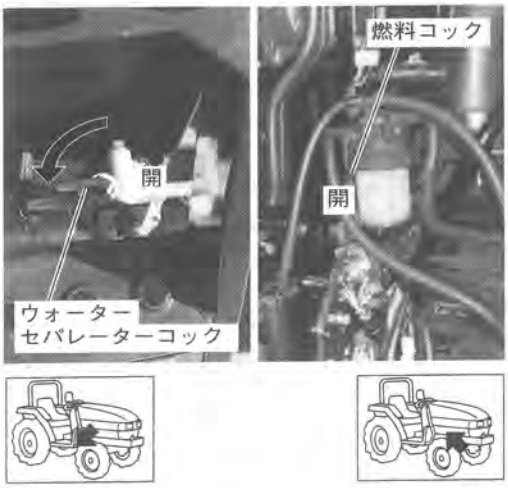
- 機械を使う前と後には、必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。
- 暖気運転中は駐車ブレーキをかけてください。守らないと、何らかの原因でトラクターが走りだし、事故をおこすおそれがあります。

始動のしかた

⚠注意

- **ポジションコントロールレバーが「下」位置でない場合はエンジンを始動しないでください。守らないと、作業機が急に上がって、傷害事故をおこすおそれがあります。**

①燃料こし器とウォーターセパレータのコックを「O」（開）の位置にします。

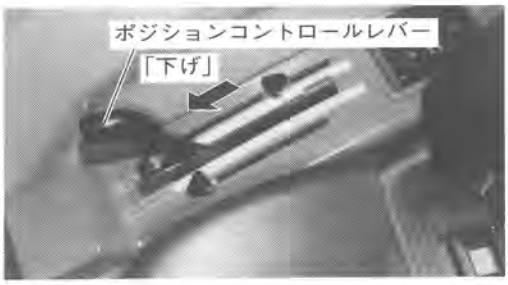


②主変速レバー・副変速レバーとPTO変速レバー、シャトルレバーを「N」位置にし、PTOクラッチレバーを「切」位置にします。



2012101

③ポジションコントロールレバーを「下げ」にします。



④アクセルレバーを「最高回転」位置にします。

⑤サーモスタートランプが消灯してからクラッチペダルをいっぱいに踏込んで、メインスイッチを「START」（スタート）位置にします。

※シャトルレバー「N」位置（計器盤のパイロットランプの点灯を確認）PTOクラッチスイッチを「切」にしないと安全スイッチが作動してセルモータが回りません。

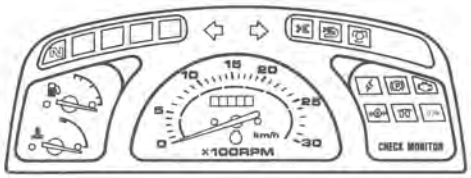
⑥エンジンが始動したら、すみやかにメインスイッチから手を離してください。



1013215D

※エンジンが暖まっているときは、サーモスタートランプは瞬時に消えます。

⑦エンジンを1500回転ぐらいに下げ、約5分間は負荷をかけずに暖気運転を行なってください。



P2012098

【取扱いの注意】

- **セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。**
  (10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、⑤の操作を繰返してください。)
- **エンジン回転中は、絶対にメインスイッチを「START」(スタート)位置にしないでください。**

停止のしかた

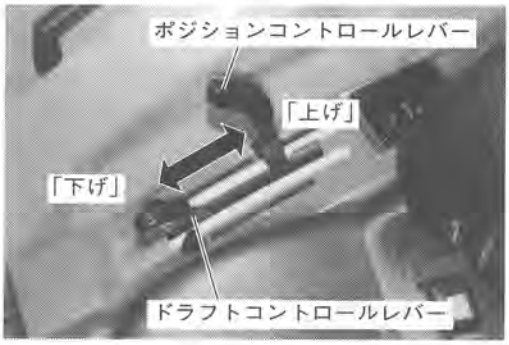
①アクセルレバーを「低速回転」位置にして、メインスイッチを「OFF」位置にするとエンジンが停止します。



1013912A

4.作業機を上下させるには

ポジションコントロールレバーを前後に操作して、作業機を上下させてください。



【取扱いの注意】

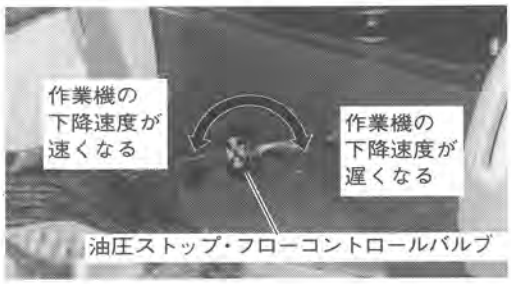
- **ロータリ作業やプラウ作業以外のときは、ドラフトコントロールレバーを「深」位置にし、規制金具で固定してください。**

5.作業機の降下速度の調節のしかた

⚠警告

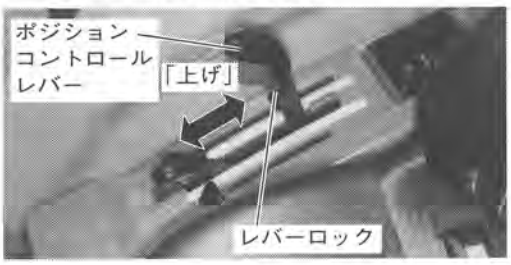
- **作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。守らないと、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。**

作業機の降下速度を調節する場合は、油圧ストップ・フローコントロールバルブを「左」方向に回すと作業機は速く降り、逆に「右」方向に回すと作業機の降下速度は遅くなります。右方向にいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。



【取扱いの注意】

- **路上走行するときは、油圧ストップバルブは開いたままで、ポジションコントロールレバーを「上げ」位置にして、レバーロックをセットして走行してください。36ページを参照してください。**



- **油圧をストップさせたまま、作業機昇降レバーを操作しないでください。守らないと油圧部品の破損をひき起こします。**

6.発進・停止・駐車のしかた

⚠警告

- **発進するときは、周囲の人に合図して周囲の安全を確認した上で、急発進しないようにゆっくり発進してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。**
- **移動走行時には、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回したり、転倒したりするおそれがあります。**
- **トラクターからはなれるときには、平坦で安定した場所に置き、必ず駐車ブレーキをかけ、シャトルレバーと副変速レバーを「中立」位置にし、作業機を接地させてエンジンを止め、車止めをしてください。守らないと、トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。**

発進のしかた

①ブレーキペダルが連結金具で、左右連結されていることを確認します。

②アクセルレバーでエンジン回転を約1500回転ぐらいにします。

③ポジションコントロールレバーを「上げ」方向に操作して、作業機を最高位置に上げます。

④クラッチペダルを踏込んで、副変速レバー・クリープレバー・主変速レバー・シャトルレバーを希望の位置に確実に入れます。速度は53ページを参照してください。

⑤クラッチペダルをゆっくり離しますと、トラクターが動きはじめます。



2012102



【取扱いの注意】

- **走行中・作業中は、絶対にクラッチペダルの上に足を乗せないようにしてください。**

停止・駐車のしかた

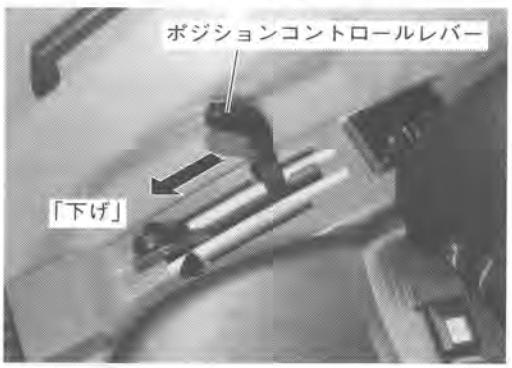
①アクセルレバーを低速側に戻して、スピードを落します。クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んで停止し、主変速レバーを「N」位置にします。
シャトルレバーも「N」位置にします。



2012104

②駐車ブレーキレバーを上方に引いて駐車ブレーキを掛けます。

③作業機を取り付けている場合は、作業機を降ろしてください。(ポジションコントロールレバー「下げ」にします。)



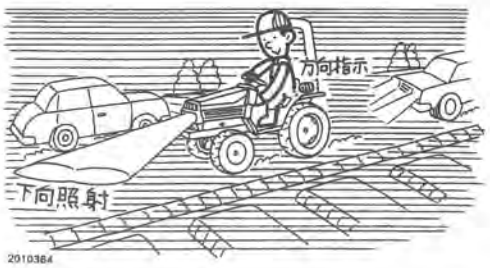
7.道路走行のしかた

⚠警告

- **路上走行時やあぜ越え時には必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。**
- **公道を走行するときは、道路交通法等関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**
- **このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

⚠注意

- **公道走行するときは、ロータリーなどの作業機を取り外してください。守らないと、道路交通法違反で、事故をおこすおそれがあります。**
- PTOクラッチスイッチを「**切**」位置、PTO変速レバーを「**N**」位置にして、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
- 走行スピードはアクセルレバー（フートアクセルペダル）で調節してください。
- 進路変更するときは、フラッシャスイッチによって進行方向を他の車に知らさなければなりません。
- バックミラーで後続車に注意し、追越しの妨害にならないようにしてください。
- 夜間走行時、対向車とすれ違うときは、ライトスイッチを下方照射とし、対向車の妨害にならないようにしてください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。



8.坂道での運転のしかた

⚠警告

- あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道の上では、変速しないでください。
- 坂道では各変速レバー（シャトルレバー・主変速レバー・副変速レバー・クリープレバー）を「中立」位置にしないでください。
- 坂道では駐車しないでください。

守らないと、トラクターが坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。

坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行してください。急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。
坂の途中ではクラッチペダルを踏まないでください。トラクターがすべり落ちて大変危険です。また、上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落してゆっくりと発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。
変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキレバーを引いて駐車ブレーキを掛け、主変速レバーを「中立」位置にして停車してください。



2010366

9.ほ場への出入のしかた

⚠警告

- 必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、転倒するおそれがあります。
- ほ場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、作業機を下げ重心を低くしてください。
- 急な傾斜を登る場合は、後進で、降りる場合は前進で行なってください。

守らないと、バランスをくずし、転倒・転落のおそれがあります。

ほ場への出入りは、ほ場に対して、直角に出入りしてください。登り始めは、作業機を低くして重心を下げ、トラクターの前・後輪があぜにあがると同時に作業機を上げてください。



2010365

10.ほ場での旋回のしかた

⚠警告

- **必ず、デフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに事故をおこすおそれがあります。**

旋回するときは、エンジンの回転を落し、ゆっくりなめらかに旋回してください。
ほ場での旋回は、左右ブレーキペダルを連結させているコネクタを外し、ハンドルを切ると同時に旋回しようとする側のブレーキペダルを踏込むと、小回りができます。作業機は上げて旋回してください。



2010367

ダイヤクイックターン仕様は、「ダイヤクイックターンの運転のしかた」(55ページ)を参照してください。

11.作業に適した速度の選びかた

主変速レバー・副変速レバー・シャトルレバー・クリープレバーとの組合せにより、前進24段・後進24段の変速ができます。下表を参考にして、作業に合った速度を選んでください。



2012103

作業速度段の選び方

	変速段	主変速レバー	副変速レバー	クリープレバー	MT520	MT620 MT720
					km/h	km/h
前進	1	1	1	入	0.18	0.19
	2	2			0.23	0.25
	3	3			0.30	0.32
	4	4			0.38	0.41
	5	1	2		0.47	0.51
	6	2			0.61	0.66
	7	3			0.79	0.85
	8	4			0.99	1.07
	9	1	3		1.25	1.35
	10	2			1.62	1.75
	11	1	1	切	1.92	2.07
	12	3	3	入	2.06	2.23
	13	2	1	切	2.48	2.68
	14	4	3	入	2.61	2.82
	15	3	1	切	3.16	3.42
	16	4			4.01	4.33
	17	1	2		5.01	5.42
	18	2			6.49	7.02
	19	3			8.28	8.95
	20	4			10.49	11.34
	21	1	3		13.18	14.25
	22	2			17.12	18.51
	23	3			21.76	23.52
	24	4			27.56	29.79

※後進速度は前進速度とほぼ同じです。

【取扱いの注意】

クリープ速度は使用と取扱いを誤ると故障の原因になります。次のことに注意して使用してください。

(1) 使用できる作業

- **ロータリーでの深耕、細土耕うん作業**
- **ロータリー耕うんで、ほ場が硬く標準速度で耕うんできないとき**
- **プランタによる移植作業**
- **農業用トレンチャによる作業**
- **トラックへの積降し**

(2) 使用できない作業（故障の原因となります）

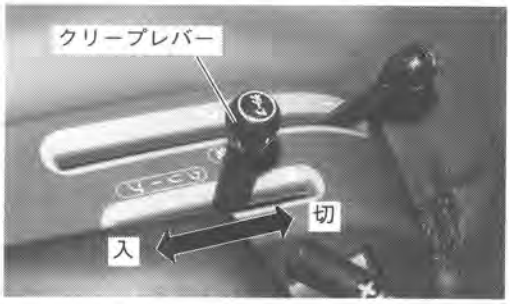
- **湿田での脱出時**
- **重けん引作業**
- **フロントローダ作業**
- **フロントブレード作業**
- **土木作業**

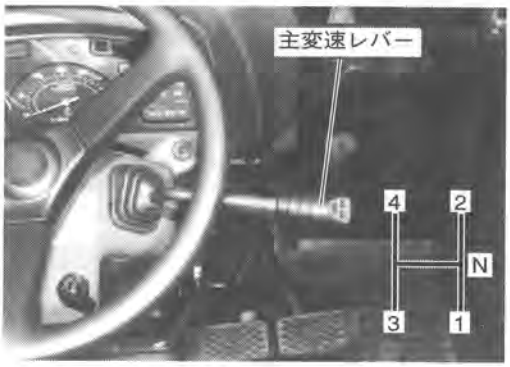
(3) 発進・停止時について

クリープ速度では車軸の回転が大変強くなるので、ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはききません。また、故障の原因となりますので、必ず次のことを守ってください。

- **発進は駐車ブレーキを必ず外してから行なってください。**
- **停止はクラッチペダルを踏込んで、クラッチを切ってからブレーキをかけてください。**

※クリープレバー「**入**」位置のとき、副変速レバーの操作が重くなることがあります。このときは、一旦、主変速レバーを「**N**」位置にすると、軽く変速できます。





12.ダイヤクイックターン(前輪増速)の運転のしかた

⚠警告

- 「ダイヤクイックターン」位置の状態では、路上走行・傾斜地作業やローダ作業に使用しないでください。
- ほ場から出る前には、必ず切換えスイッチを「ダイヤクイックターン」以外の位置にしてください。

守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

停車中・走行中でも、クラッチペダルを踏まずに、切換えスイッチにより「切(2駆)」「入(4駆)」「ダイヤクイックターン」が選択でき、パイロットランプが点灯します。



ダイヤクイックターン(前輪増速)をほ場内で使うとスムーズに小回りができ、「旋回跡が荒れない」「旋回径が小さい」「旋回時間が短い」などの特長を生かせます。

13.デフロックの使いかた

⚠警告

- 必ずデフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回できずに事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 路上走行中は、絶対にデフロックを使用しないでください。守らないと、走行が不安定になり事故をおこすおそれがあります。

デフロックペダルを踏むと、作動装置がロックされ左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。また、湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいとき、または直進性の悪いときに使用すると効果があります。このトラクターには、4輪駆動に入れると自動的に前輪のデフロックが働くオートデフロック機構が装備されています。



【取扱いの注意】

- デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行なってください。
- 抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを軽く踏んでください。

- デフロックの必要のないときは、デフロックペダルに足をのせないでください。
- クリープ（超低速）での使用は絶対にしないでください。

14.トラックへの積込み・積降しのしかた

⚠危険

- トラックへの積込み・積降ろしは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて低速速度で行なってください。守らないと、転落などの事故をおこすおそれがあります。

⚠警告

- トラックへの積込み・積降しは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。
- トラックへの積込みは後進で、積降しは前進で行なってください。
- トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。守らないと、トラクターが転落するなど、事故をおこすおそれがあります。

〈積込み〉

①十分な強度と長さのあゆみ板を使用します。

②ブレーキペダルは必ず連結してください。

③バックアップスイッチは「切」の位置にしてください。（エコトラ仕様のみ）

④変速は低速位置で、シャトルレバーを「R」位置でエンジン回転を低速にして積込んでください。

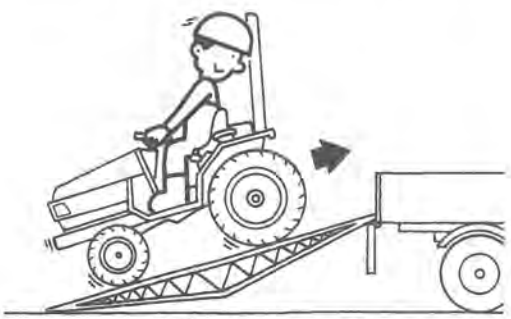
⑤前輪駆動スイッチを「入」にし、落輪しないように、ハンドルは慎重に操作してください。

⑥途中でエンジンがストップした場合は、一旦下まで降りてエンジンを再スタートしてください。

⑦積込みが終了したら、キースイッチを外して駐車ブレーキをかけ、ロープで本機を確実に固定してください。

〈積降し〉

①積込みと逆の手順で行なってください。



強度のあるあゆみ板

2010539

15.PTO クラッチスイッチの操作のしかた

⚠警告

- このクラッチは油圧式になっておりますので、低温時にPTO クラッチ「切」位置でもつれ回りする場合があります。作業機取付時には、十分注意してください。
- ロータリー作業時トラクターがダッシュする場合があります。次の点に十分注意してください。

  守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- PTO クラッチスイッチ「入」位置の場合は、必ずPTO クラッチスイッチを「切」位置にしてください。クラッチペダルを踏み込むと一層ダッシュします。

作業に合せて、PTOの「入」「切」などを切替えることができます。切替えは「入」・「切」があり、「入」位置では、クラッチペダルを踏込んでもPTOの回転は停止しません。PTO クラッチスイッチ「入」時には、計器盤のパイロットランプが点灯します。

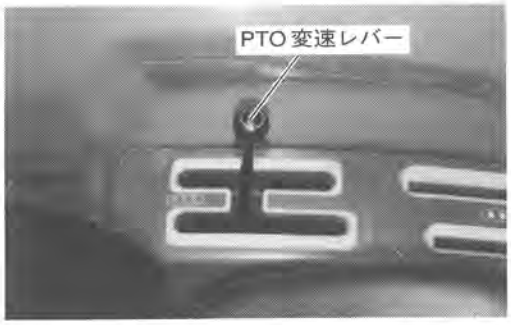


16.PTO 変速レバーの操作のしかた

⚠注意

- PTO 軸を使用しないときは、PTO 軸の安全カバーを必ず取り付けてください。守らないと、巻き込まれたりして、ケガを負うおそれがあります。
- 作業機指定のPTO 回転速度を厳守してください。守らないと、作業機がこわれ、事故をおこすおそれがあります。

作業に合せて、PTOの回転速度を4段階に変速できます。変速操作は、PTO クラッチを完全に切ってから行なってください。なお、路上走行時などPTOを使用しない場合は、PTO 変速レバーを「N」位置にしてください。

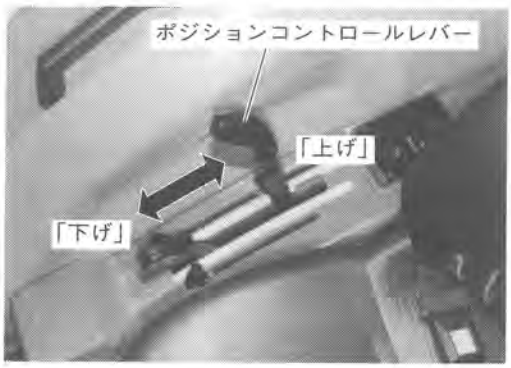


PTO 回転数

PTO 変速	PTO 回転数（rpm）
1	588
2	773
3	1025
4	1319

17.ポジションコントロールの操作のしかた

ポジションコントロールは、作業機の高さや作業深さを調節、コントロールする装置です。一般には、ロータリー・ブロードキャスタ・モア・カルチベータなどの作業に使用します。ポジションコントロールレバーを前後に操作して、作業機の上下調節を行なってください。



18.ドラフトコントロールの操作のしかた

プラウ、カルチベータなど3点リンクに装着した作業機でけん引作業をする場合に使用します。作業機の抵抗が大きくなると、ドラフトが作用して作業機が持ち上げられ、抵抗が小さくなると元に戻ります。

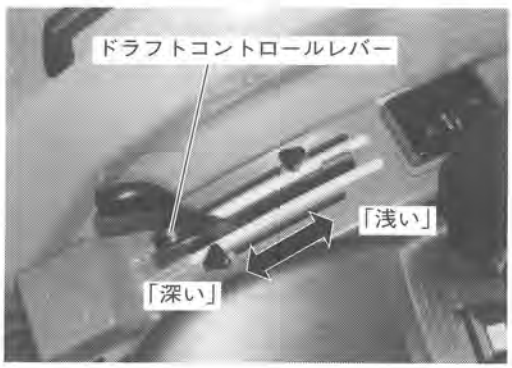
〈使用時〉

- **耕深を深くするとき**（けん引力を大きくする）
  ドラフトコントロールレバーを、前方向に動かします。

- **耕深を浅くするとき**（けん引力を小さくする）
  ドラフトコントロールレバーを、後方向に動かしますとわずかなけん引抵抗で、作業機が持ち上げられます。

通常、ドラフトコントロールで作業する場合、ポジションコントロールレバーは、一番前に倒しておきますが、同一ほ場内で、ほ場内条件が著しく異なる場合や、土が軟らかくて、次第に深くなってしまう場合は、ポジションコントロールレバーを、上昇側にセットしますと、それ以上は深くならないように、規制することができます。

ドラフトコントロールで作業中、旋回するときなど作業機を上げる場合は、ポジションコントロールレバーを使って上げてください。



ドラフトコントロールを使用しない作業機は、固定ピンで、トップリンクヒンジを固定してください。

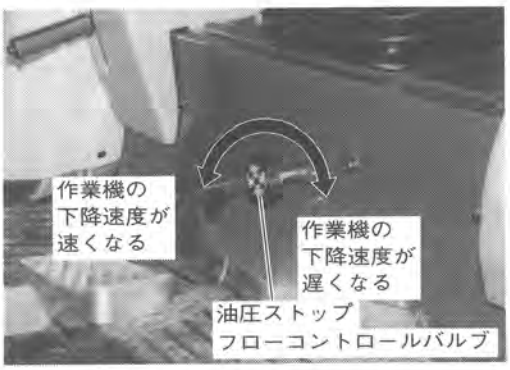


19.作業機下降速度の調整

⚠警告

- **作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。守らないと、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。**

作業機の降下速度を調節する場合は、油圧ストップ・フローコントロールバルブを「左」方向へ回すと速く降り、逆に「右」方向へ回すと作業機の降下速度は遅くなります。「右」方向へいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。



【取扱いの注意】

- **油圧ストップ・フローコントロールバルブを閉じたまま、ポジションコントロールレバーを操作しないでください。油圧部品の破損につながります。**

20.前輪・後輪車輪幅（輪距）について

作業の種類・作物の条間に合わせ、トラクターの車輪幅を調節できます。また、傾斜地作業やけん引作業には、車輪幅を広げて使用してください。

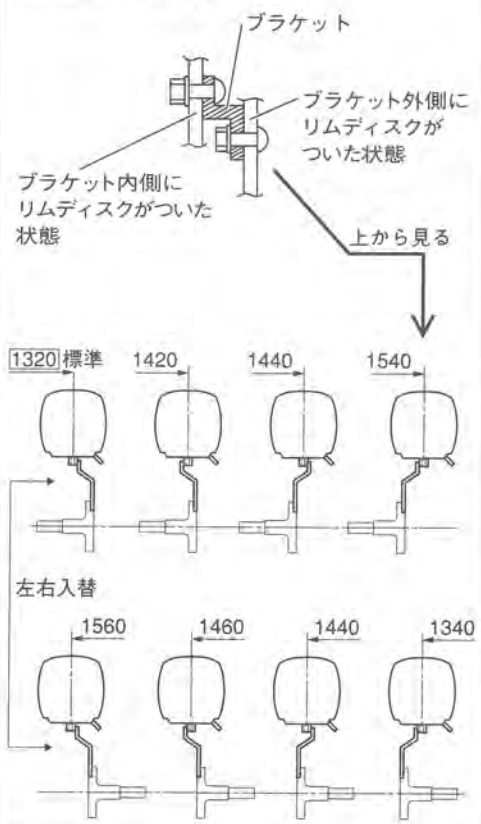
※車輪幅の調節については、販売店にご相談ください。

締め付けトルクについて

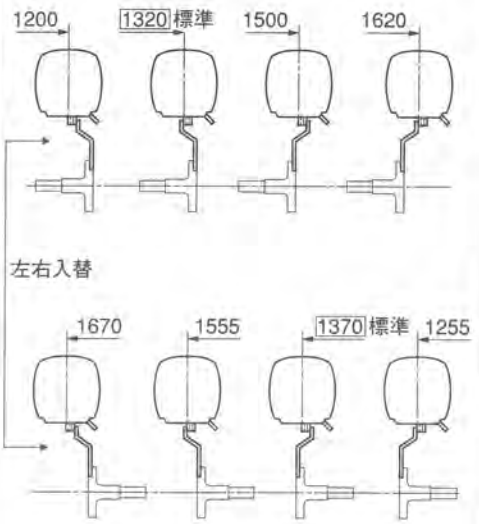
リムとディスクの取付ボルト	17 kgf-m
ホイルとアクスシャフトの取付ボルト	19 kgf-m

〈前輪輪距調節〉

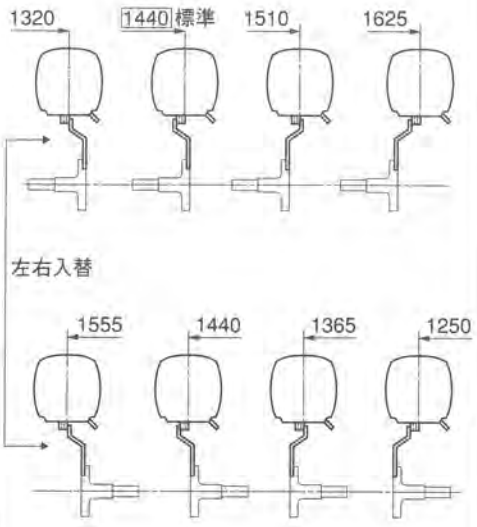
MT520 ： 8.3-20



MT620・720 ： 8.3-24

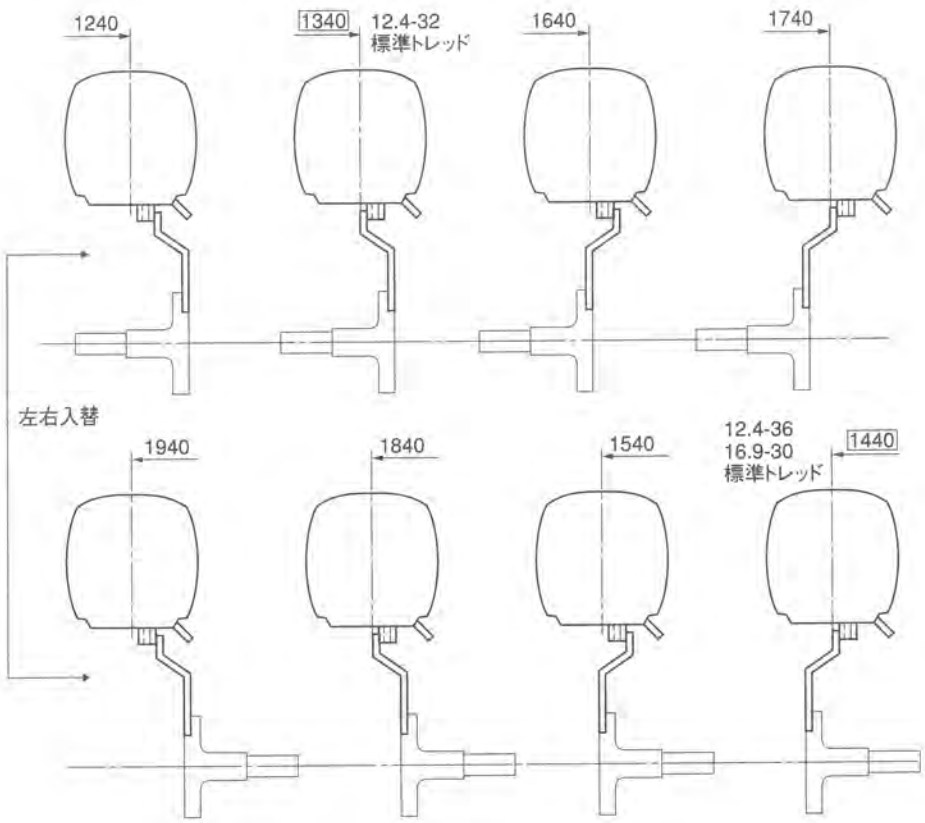


MT620・720 ： 9.5-22



〈後輪輪距調節〉

MT520 ： 12.4-32
MT620 / MT720 ： 12.4-36
16.9-30



※16.9-30のみ1240には調節できません。

ズームトレッド仕様（Z仕様）

⚠警告

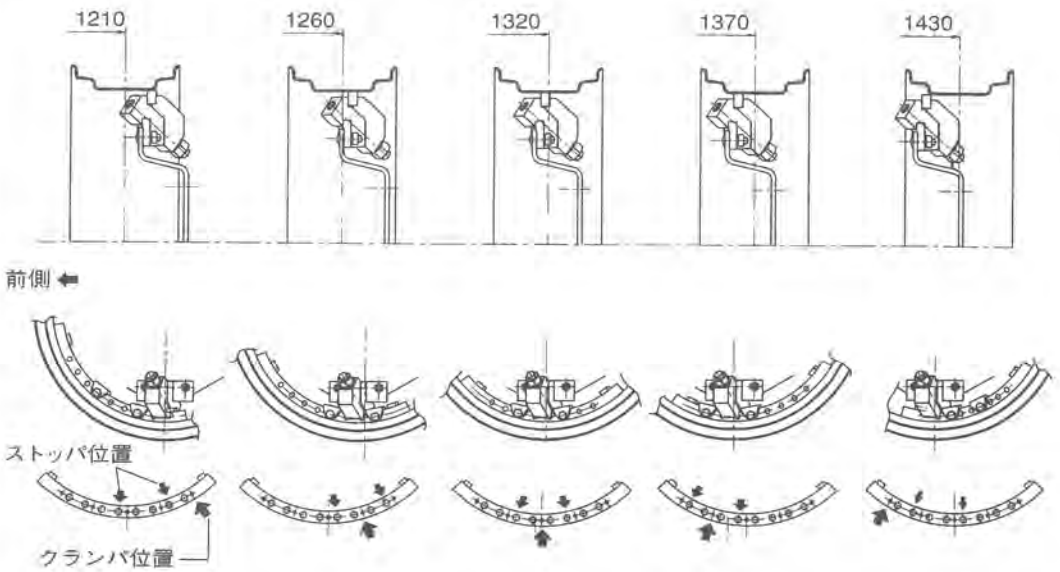
- 平坦な場所で調節してください。
  守らないと思わぬ事故をひきおこすおそれがあります。
- トレッド調節をするときにはトラクターのまわりに人を近づけないでください。
  守らないと思わぬ事故をひきおこすおそれがあります。
- 後車軸上のロックレバーは必ずロックの状態で走行や作業を行ってください。
  守らないと左右のトレッドが変化し、車体が不安定になり事故をひきおこすおそれがあります。
- 運転中は取出切替えレバーを必ず油圧取出位置にしてください。
  守らないと事故、ケガ、機体の故障をまねくおそれがあります。
- トレッド調節後は必ず、前輪ロックレバーを「切」位置にし、前輪がロックされていないことを確認してください。
  守らないと前輪のステアリングがきかなくなり、危険です。

⚠注意

- トラクターに作業機やウェイトなどを取り付けた状態でトレッド調節をしないでください。
  守らないとケガ、機体の故障をまねくおそれがあります。
- 運行前に、必ずフロントホイールのロックナットの締付トルクのチェックを行ってください。
  守らないと思わぬ事故をひきおこすおそれがあります。

〈前輪輪距調節〉

前輪輪距はリム、ディスクの締め替えなしに畦幅にあわせ5段階の調節ができます。

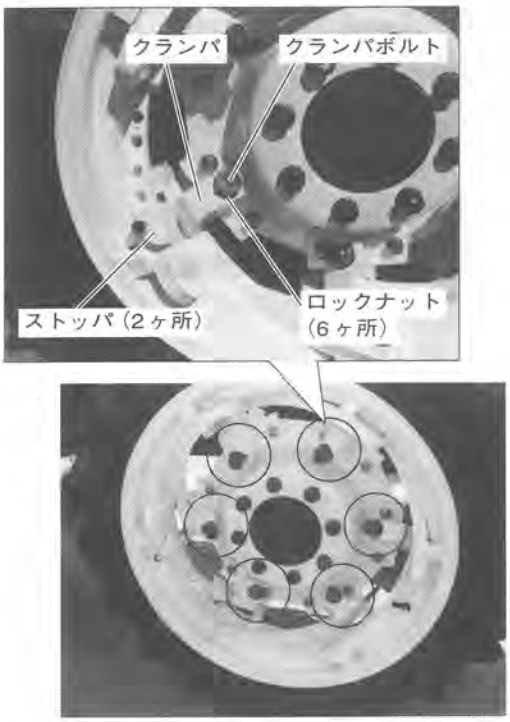


〈トレッドの調節方法〉

トレッドの調節は、平たん地の路面の硬い場所（コンクリート上等）を選んでください。

また、トレッドの調節は片側づつ行います。

1.クランパを締め付けているロックナット（6ヶ所）を3～4回転ゆるめてください。



2012131

2.変更する軸距にあわせ移動側ストッパを固定します。

①ストッパはボルトをゆるめると外れます。変更する軸距の調節穴にストッパをあわせてボルトを締め付けてください。

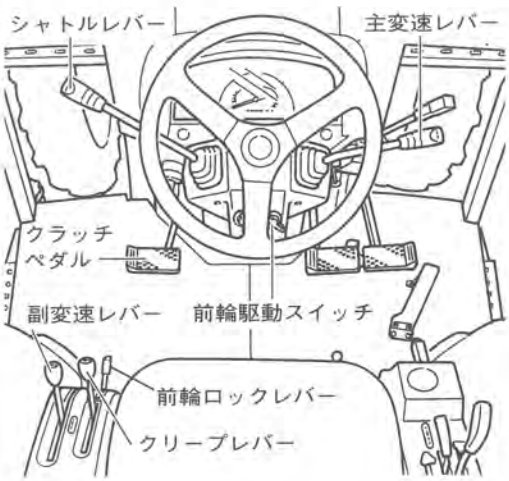
②ストッパはクランパの前後2ヶ所についています。（最拡時1430、最締時1210は片側のみ）

トレッドを拡げる時は前側の、また、トレッドを縮める時は後側のストッパを移動してください。

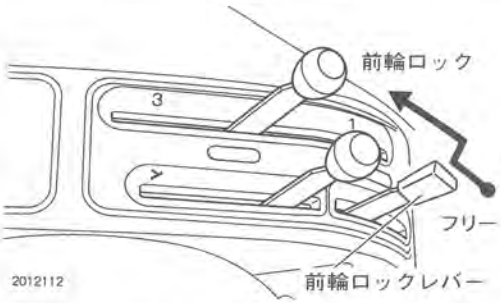


2012132

3.各変速レバー、スイッチを次の手順で操作して輪距を調節します。

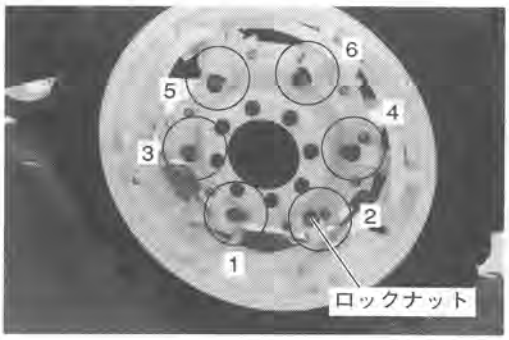


①シャトルレバーを「**N**」位置にします。
②エンジンをかけます。(アイドリング回転)
(作業機が装着されている場合は、油圧ポジションレバーを使って作業機を地面から浮かせてください。)
③前輪駆動切替えスイッチを「**切**」位置にしてください。
④クラッチペダルをいっぱいに踏み込み、クリープレバーを「**入**」に副変速レバーを「**1速**」に、また主変速レバーを「**4速**」に変速します。
⑤輪距を拡げる時には、シャトルレバーを「**F**」位置に、また縮める時は「**R**」位置に変速します。
⑥前輪ロックレバーを押し込み、レバーのロックを解除してからレバーを引き上げます。



⑦クラッチペダルを徐々にはなしていくと、トラクタがゆっくり動きながら輪距が変わっていきます。クランパがストッパにあたるまでフロントロックレバーを引き上げながら走行します。
(ストッパにあたると前輪タイヤが滑り出します。)
⑧前輪タイヤが滑り出したら、フロントロックレバーから手をはなし、クラッチペダルを踏みトラクタを止めます。
⑨エンジンを停止します。

4.次の手順でロックナット（6ヶ所）を締め付け、変更した輪距にタイヤを固定します。
①ロックナット6ヶ所を下図の順に（下側のナットより順次上のナットへ）軽く締め付けます。
(締付けトルク　10～15kgf-m)

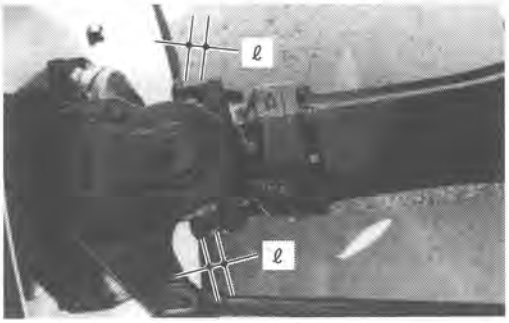


②トラクタをゆっくり前後方向へ各5m程度づつ動かしてください。(4～5回繰返す)
③ロックナット6ヶ所を再度①の順に締め付けてください。
締め付けは附属の工具を使っていっぱい締め込んでください。
(締付けトルク　30kgf-m)
④もう一度前後進を4～5回繰返し、ゆるみを確認してください。ゆるんでいるナットは増締めしてください。

5.フリーになっているストッパをクランパが動かない位置に移動し固定します。

タイヤ切れ角度の調節方法

輪距を狭くした場合、旋回時にタイヤが本体に接触することがありますから、次の要領でタイヤ切れ角度を調節してください。



(mm)

輪　距	ℓ寸法（2ヶ所）
1210	27
1260	23
1320	16
1370 1430	7

【取扱いの注意】

- **トレッド調節する際は必ず増速スイッチを「切」位置にしてください。**

〈後輪輪距の調節〉

- 操作方法（ほ場の中で操作してください）

1.最初に❶取出切替レバー❷左右切替レバー❸ロックレバーを下の表の位置にセットしておきます。

変更前の輪距	変更後の輪距	❶取出切替レバー位置	❷左右切替レバー位置	❸ロックレバーの位置	❹油圧レバーの操作
1220	1330	トレッド	左	中間（1330）	「Ⓐ側」
1330	1440	トレッド	左	中間（1330）	「Ⓐ側」
1330	1220	トレッド	左	中間（1330）	「Ⓑ側」
1440	1330	トレッド	左	中間（1330）	「Ⓑ側」

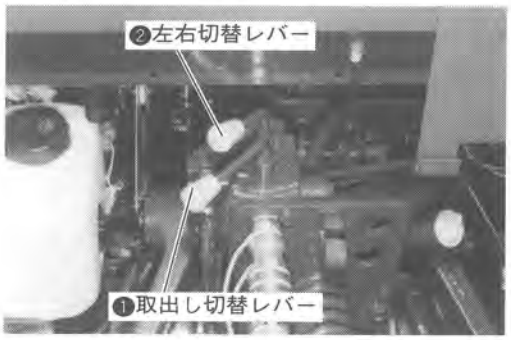
2.（ほ場の中で）運転席でエンジンをかけ、低速で徐行します。

3.徐行しながら、❹油圧レバーを上表のように操作します。（「Ⓐ側」または「Ⓑ側」にレバーを押します）ロックレバーが「」ロック」位置になったら油圧レバーから手をはなします。-以上は左側の操作です-

【取扱いの注意】

- 徐行しないで、トラクターを定位置のまま❹油圧レバーを操作すると車軸に大きな力が働き破損することがあります。

4.❷左右切替レバーを右にして、徐行しながら❹油圧レバーを前項の3と同じ側に押します。







【取扱いの注意】

- 輪距が1220,1330,1440になるとロックレバーは、「ロック」位置になり車軸が機械的にロックされます。但し、1330のロックは1440から1330に調整した時のみロックされます。
- 操作は片側ずつしますが、左右両方操作して表の変更後の輪距になります。
- 1220,1330,1440以外の輪距にする場合は、❸ロックレバーを「フリー」にしてから❹油圧レバーで操作してください。この場合は油圧ロックになりますので、作業の合間に輪距が狂っていないか点検してください。
- 道路走行のときは、輪距を必ず1440とし、ロックレバーが「ロック」位置になっていることを確認してください。
- ズームトレッド仕様のトラクターでは重負荷作業はしないでください。

21.スイングドローバの使いかた

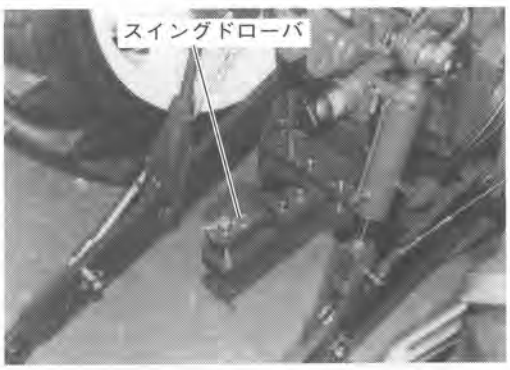
⚠警告

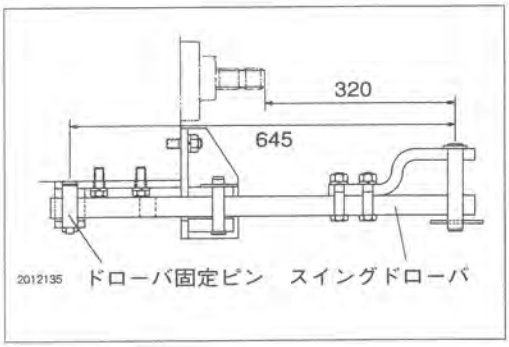
- **けん引作業は、かならずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどでのけん引は、しないでください。守らないと転倒のおそれがあります。**

けん引作業機を使用する場合は、必ずスイングドローバをお使いください。
3P（PTO 駆動）で使用する作業は、スイングドローバを縮めた状態で、左側へ固定してください。
スイングドローバは、前後に2段階と左右に調節ができます。

前後の調節

①ドローバを支え、ブラケットのドローバ固定ピンをボルトを外し抜き取ります。
②ドローバを前後にスライドさせ、ピンを差替えてドローバ固定ピンをセットし、①で外したボルトを締付けて固定します。





重量物けん引

重量物けん引の場合、スイングドローバは1番縮めた状態でけん引してください。

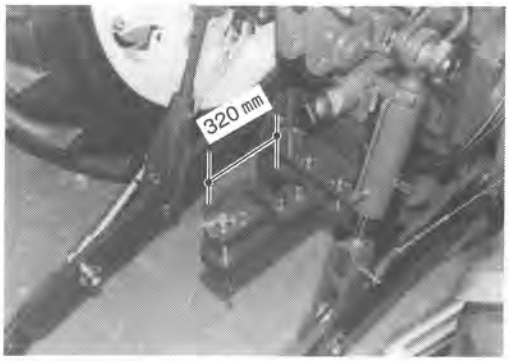
左右の調節

振れ止めピンを抜いて調節します。



PTO 駆動とけん引作業を併用

PTO 駆動とけん引作業を併用する場合は、スイングドローバは中央の位置で、長さを320 ㎜（スイングドローバを伸ばした状態）にセットして使用してください。



【取扱いの注意】

- **作業機を装着する前には、作業機の取扱書をよく読んでください。作業機によっては特殊な操作が必要なものがあります。**

22.トレーラコネクタ（オプション）

トレーラをけん引する場合は、トレーラ側の電装品を使用するために、トレーラコネクタが必要です。トレーラコネクタは別売りとなっていますので、購入された販売店にお問い合わせください。

23.3 点リンクの取付けかた

このトラクターはカテゴリⅠ・Ⅱいずれの作業機も使用できます。（標準仕様はカテゴリⅡです）

カテゴリⅡ

①ロアリンクピンにロアリンクを取付け、ロックピンで固定します。

※ロアリンクの左右は共通ですが、前後があります。リフトロッド取付用穴が後ろにくるように取付けてください。

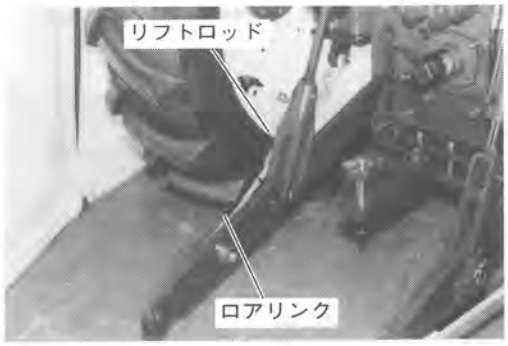


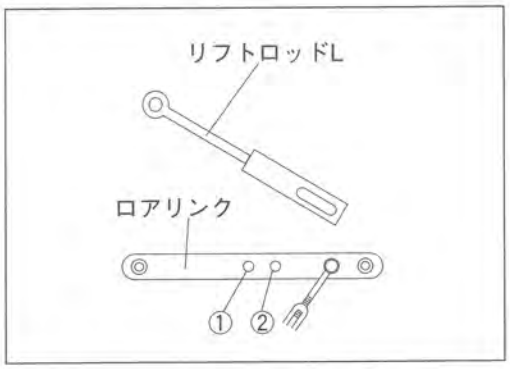
②チェックチエンを、チェックチエンブラケットとロアリンク取付穴（最後部）に固定します。



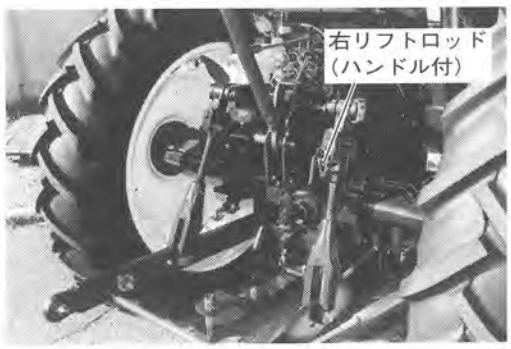
③リフトロッドをリフトアームとロアリンクに連結します。

プラウその他一般作業機の場合
リフトロッド穴をロアリンク①穴へ
大きな揚力が必要な場合
リフトロッド穴をロアリンク②穴へリフトロッドをリフトアームとロアリンクに連結します。





※リフトロッドには、左右があり、ハンドル調節できる方を右側に、取付けてください。



※左側はネジを回して547㎜に調整してください。(取付作業機の取扱説明書に指定の長さがある場合はその表示長さに合わせてください。)

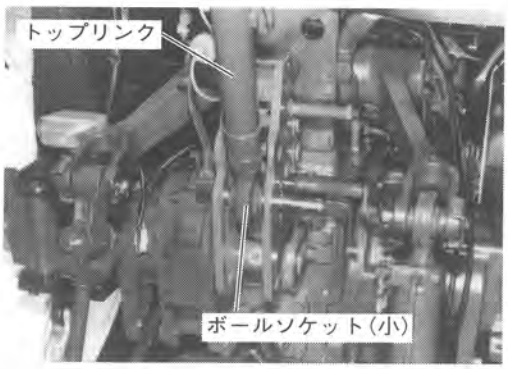
※ロータリー耕うんのような幅の広い作業をする場合は、フローティングに切替えると、凹凸あるいはうねりの多いところでも均平な作業ができます。
(リフトロッドピンを抜いて90° 向きを変えればフローティングになります。)



④標準のトップリンクをトップリンクヒンジの穴に取付けます。(作業機により ⓐ ⓑに調節してください)



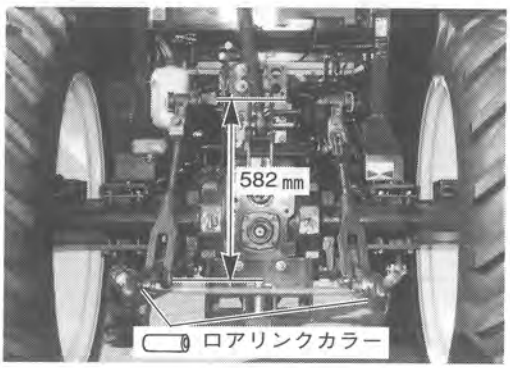
トップリンクは下図の向きに取り付けてください。



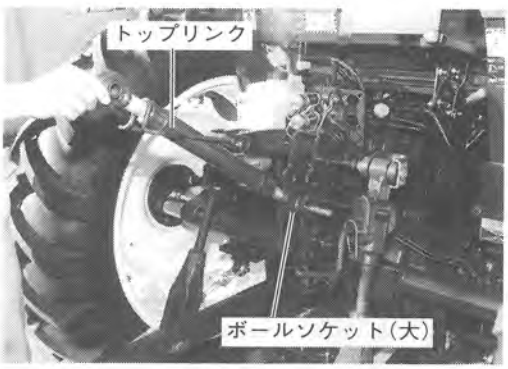
カテゴリⅠ

下記の点を変更することによってカテゴリⅠの作業機も使用できます。

①ロアリンクのボールソケット部に標準付属品のロアリンクカラーを装着します。
②左側のリフトロッド長さを582㎜に調整します。

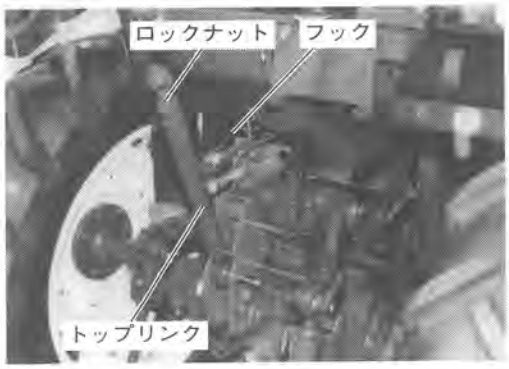


③トップリンクを前・後逆につけかえます。(トップリンクヒンジピンは兼用で使えます。)



24.トップリンクの調節のしかた

トップリンクのロックナットをゆるめ、ターンバックルを回すとトップリンクの長さを調節できます。作業機を装着しないときは、フックに引掛けておいてください。



25.作業機の取扱いについての注意

⚠警告

- トラクターを移動して作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の着脱は、平坦で安定した場所で、行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。
- 重い作業機を装着した場合には、前後にバランスウエイトをつけて、バランスを保ってください。
- 作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、PTO クラッチスイッチが「切」位置にあることを確認したうえで行ってください。
- けん引作業をするときは、かならずけん引ヒッチ（別売）を使用し、それ以外で引っ張らないようにしてください。
- けん引作業、傾斜地での作業などは、輪距（左右のタイヤの間の幅）を広くして使用してください。
- 作業機によっては、かなりの長さになりますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。
- バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
- フロントローダー作業時は、後方に作業機をつけるなどして前後バランスを保ってください。
- 装着する作業機の取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

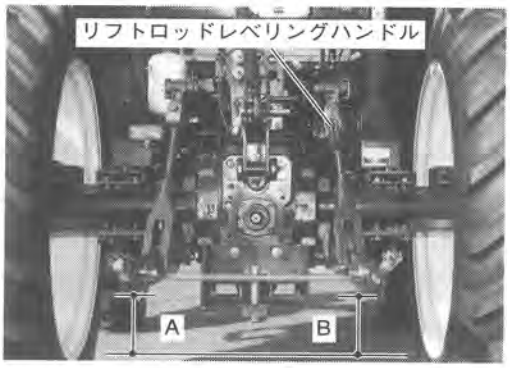
守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- PTO軸を使用しないときは、PTO軸の安全カバーをかならず取付けてください。守らないと、巻き込まれたりして、ケガを負うおそれがあります。
- 作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。守らないと、作業機がこわれ、事故をおこすおそれがあります。

26.一般作業機の取付けかた

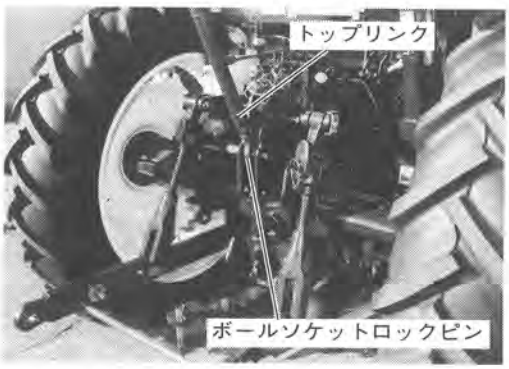
①右側のリフトロッドレベリングハンドルを回して、左右のロアリンクの高さを、同じにしてください。(A＝B)



②平坦なところで、作業機の中心にほぼトラクターの中心を合わせて止めます。

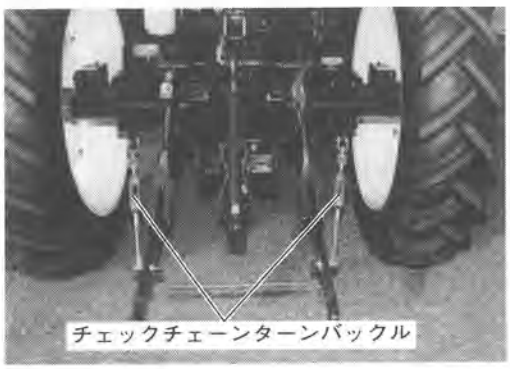
③左側ロアリンクを先に作業機に取付け、次に右側のロアリンクを取り付けます。もし、右側のロアリンクのピン穴と作業機が合わないときは、リフトロッドレベリングハンドルを回して調節して取り付けます。

④標準のトップリンクを、トップリンクヒンジにボールソケットロックピンで固定します。

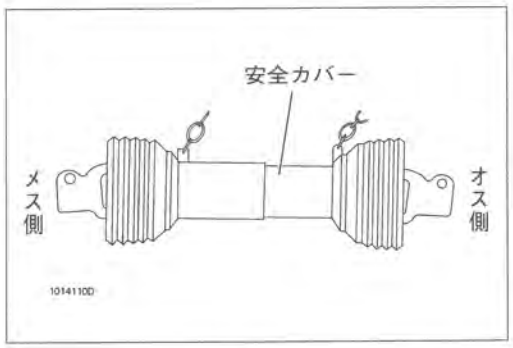


⑤作業機をいったん油圧で持ち上げ、作業機の中心とトラクターの中心が合うようにチェックチェーンターンバックルで調節します。作業機が中心位置で、左右に10㎜程度ゆれる位に余裕を残して固定します。

⑥作業機を地面まで降ろして、トップリンクのターンバックルで作業機の姿勢を調整します。



⑦動力を必要とする作業機を取付けるときは、ドライブシャフトの安全カバーのメス側をトラクターに、オス側を作業機に取付けます。



⑧作業機を少し上げて水平になっているかどうか確かめ、水平でなければリフトロッドレベリングハンドルで調節します。

⑨作業機を最高の位置まで上げ、作業機が円滑に回るかどうか、手で回してみて、もし回転が円滑でなかったら、トップリンクを伸縮して調節してください。

※取外しは、取付けの逆の手順で行なってください。

27.油圧外部の取り出しかた

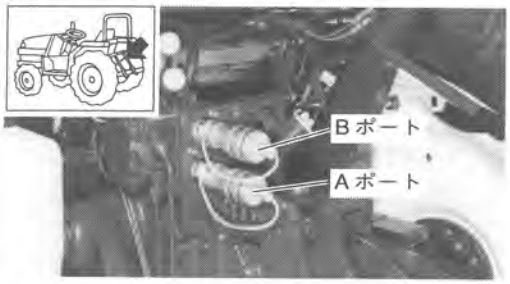
⚠注意

- **油圧取出口のプラグを外したり、配管の取り付け、取り外しを行なうときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。**

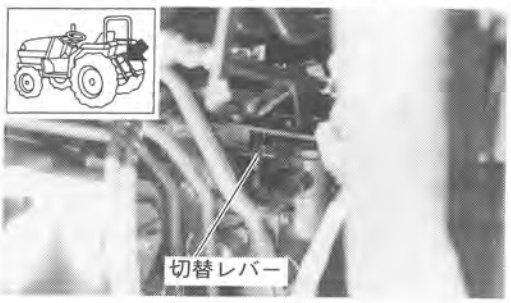
トラクター側のバルブを操作する場合

①単動・複動兼用のサブコントロールバルブが取り付けてあります。
・セット圧　200kg/㎠
・油流量　35ℓ/分

②油圧取出口（A,B）はトラクター後部にあり、サイズはR（PT）1/2です。作業機と配管します。
単動の場合はAポートを使用します。



③単動・複動の切替えはサブコントロールバルブ上部の切替レバーを回します。
単動：切替レバーを右へまわす
複動：切替レバーを左へまわす



④油圧切替レバーを油圧取出にします。（Z仕様のみ）



⑤油圧レバーで操作します。
Ⓑ側へ倒す：作業機が下がる
Ⓐ側へ倒す：作業機が上がる



油圧モータなど油を循環させて使用する場合はロック金具でレバーを固定することができます。
「A」ポートより取出し「B」ポートに戻します。複動、単動どちらの切替えでも同じです。
油圧レバー指示板上の「A」「B」と取出口の「A」「B」を合わせておきます。

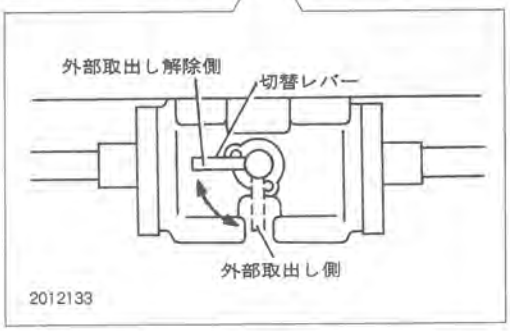
【取扱いの注意】

- **油圧取出口の配管を外した場合は必ず元の中立にもどしておいてください。（ロックレバーを解除する）そうしないとリリーフ状態となりポンプが破損します。**

作業機側のバルブで操作する場合

フロントローダなどのように作業機にコントロールバルブの付いているものは、外部取出レバーとは関係なく油圧を取出すことができます。このような作業機を使用する場合は、それぞれの作業機に専用のコントロールバルブが必要となりますので、購入先またはサービス工場にご相談ください。





切替バルブとなっていますので、フロントローダ使用時などは、レバーを外部取出し側に回してください。

【取扱いの注意】

- **フロントローダなどを外して、取出口と戻し口の油の流通が遮断されたときは、レバーを外部取出し解除側に回してください。もしこれを怠ると油圧ポンプから圧送される油の出口がなく、油圧ポンプが破損しますので十分注意してください。**

28.パワーステアリング取扱上の注意

⚠注意

- **エンジン運転中は、ハンドル操作が大変軽くなっていますので、道路走行など慎重に行ってください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

パワーステアリングは、エンジン運転中のみ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは、多少ハンドルが重くなります。

【取扱いの注意】

- **ハンドルをいっぱいに切るとリリーフ弁が働き、信号音がでます。短時間であればかまいませんが、この音が鳴ったままで運転しないでください。**
- **走行しないでハンドルを切る（スエ切り）ことは、タイヤやリムなどの損傷を早めますので、必要なとき以外は操作しないでください。**

JAC 仕様について

1.各部のなまえとはたらき

通常作業に必要なもの

傾き手動・自動切換スイッチ

- **「傾き自動」で使用する場合**
  傾き手動・自動切換スイッチを押して「入」（ランプ点灯）にし、傾き設定ダイヤルで作業機を任意の角度に設定すると、トラクターの傾きにかかわらず、作業機を地面に対して一定の角度に保つことができます。

※作業機を最上昇位置にすると、作業機はトラクターと平行になり、傾き設定ダイヤルは働きません。

- **「傾き手動」で使用する場合**
  傾き手動・自動切換スイッチを押して「切」（ランプ消灯）にし、手動レバーで作業機を任意の角度に設定すると、トラクターに対して一定の角度に保つことができます。設定操作中に、作業機がトラクターに対して平行位置を通過する場合は、平行位置でいったん停止します。

※作業機を最上昇位置にしても設定された角度を保ちます。



傾き設定ダイヤル
77ページを参照してください。

手動レバー

- **「傾き手動」で使用する場合**
  トラクターに対する作業機の角度を任意に設定できます。
- **「傾き自動」で使用する場合**
  手動レバーを動かしている間だけ、作業機の角度が変わります。手を離すと傾き設定ダイヤルで設定された角度に戻ります。

JAC 操作ボックス

特定の作業に使うもの

作業条件を設定する必要のある場合は、カバーを開けて調節してください。



傾き設定ダイヤル

「傾き自動」のときに、地面に対する作業機の角度を設定することができます。

※「傾き自動」のときは、作業機を最上昇位置にすると傾き設定ダイヤルが働きません。

微調整スクリュー

「傾き自動」のときに、作業機の水平の微調節を行ないます。

【取扱いの注意】

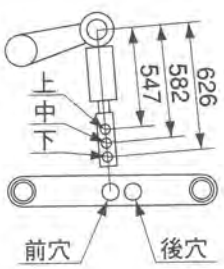
- 工場出荷時に、水平調整を行なってありますので、調整がくるった場合を除いて触らないでください。

3P 切換スイッチ

作業機を付け替えたときは、その作業機によって定まる3点リンクの取付状態（ロアリンクの内幅）に応じて下表より選択し、その位置に3P 切換スイッチを切り換えてください。

※作業機の取り付けは、68 ページの「3 点リンクについて」および作業機の取扱説明書に従って行なってください。

3P切換スイッチ	ロアリンク内幅	ロアリンク穴位置	シリンダ穴位置とリフトリンク長さ	作業機例
1	614mm	後	中 582	純正スーパーヒッチ付ロータリ（カテゴリーⅠ）
	683mm	前		カテゴリーⅠ 一般作業機
2	825mm	後	下 626	スーパーヒッチ付ロータリ（カテゴリーⅡ）
3	825mm	前	上 547	カテゴリーⅡ 一般作業機
4	825mm	後	上 547	カテゴリーⅡ（揚力アップ穴）



2.基本的な使いかた

路上走行のとき

作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、次の処置を行ってください。

①傾き手動・自動切換スイッチが点灯している場合は、傾き手動・自動切換スイッチを押して「**切**」（ランプ消灯・手動）にし、手動レバーで作業機をトラクターと平行にしてください。



P2011949

②ポジションコントロールレバーを上げ位置にして作業機を上げ、ストッパをセットしてください。

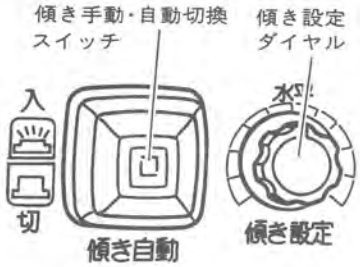


【取扱いの注意】

- **油圧ストップ・フローコントロールバルブは開いたままで、ポジションコントロールレバーを上げ位置にして、レバーロックをセットして走行してください。**
  守らないと、作業機が下がり、事故をひきおこすおそれがあります。

ロータリー作業

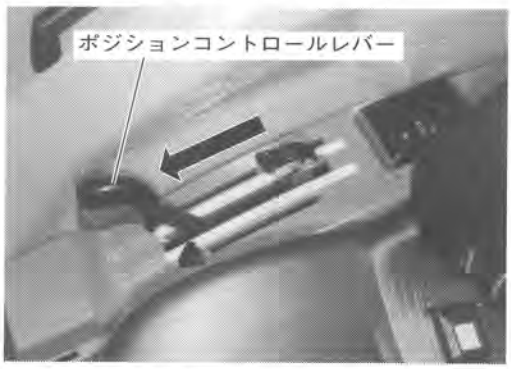
傾き手動・自動切換スイッチを「**自動**」位置にし、傾き設定ダイヤルで作業内容に適した、作業機の角度姿勢を設定してください。



P2011948

作業機を下げると「**自動**」運転になり、傾き設定ダイヤルで設定した角度姿勢を保ちます。

※ポジションコントロールレバーは、「**最下げ**」位置にしておいてください。



実際の耕深を見て、希望の耕深でないときは、PAC レバーで耕深を調節してください。

3.JAC シリンダ外部操作スイッチの使いかた

作業機の着脱時に使用します。



①傾き手動、自動切換えスイッチを手動にしてください。

②外部操作スイッチの上側を押すと、押している間はJAC シリンダが短くなっていきます。
スイッチの下側を押すと、押している間はJAC シリンダが伸びていきます。
スイッチから手をはなすと、シリンダの動きはその位置で停止します。

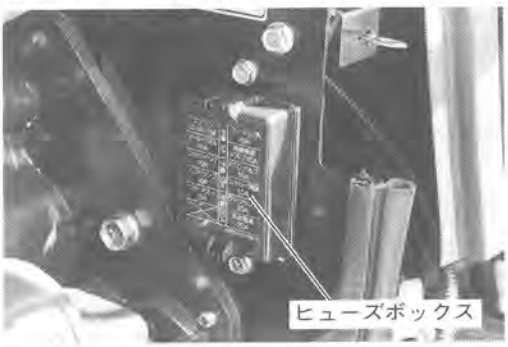
4.センサ異常時の表示について

センサ異常が発生した場合は、JAC 操作ボックスの傾き手動・自動切換スイッチが点滅します。この場合は、正常作業が行えなくなりますので、販売店までご連絡ください。



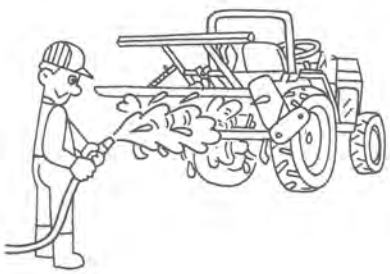
5.ヒューズについて

ハーネスのショートなどにより、JAC 関係のヒューズが切れた場合は、エンジンルームのサイドカバーを取り外し、ヒューズホルダー部のヒューズを交換してください。



6.使用後の手入れ

使用後洗車する場合（特に高圧洗車）は、コントロールボックス・電磁バルブ・センサ類および電装品への直接放水はさけてください。



長期間保管の場合は、必ずキースイッチを「OFF」にしてから抜いて保管してください。

作業後の手入れについて

正しい手入れを
一行なってください。

1.作業後の手入れ

⚠危険

- **シートをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラが十分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。**

その日の内にトラクターを水洗いし、水洗い後は水分を良くふき取って、各回転部・摺動部にたっぷり油をさしてください。
各グリス注入部（グリスニップル）にはグリスアップを行なってください。

【取扱いの注意】

- **電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。**



2011950

- **キャビン仕様の洗車の注意**
  使用後洗車する場合、高圧洗浄機を使用してキャビンへの直接放水をすると、キャビン内へ水が漏れる場合がありますのでさけてください。


1019010A

2.長期間使用しない場合の手入れ

⚠警告

格納する場合は、バッテリを取外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

トラクターを長時間使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

①乾燥した風通しの良い所で、ウェイト等は取外し、ロータリーも取外すか、降した状態にして、下には板を敷いてください。



2011951

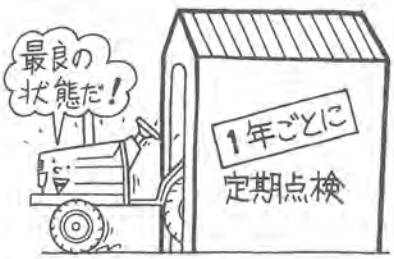
②外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

③燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。

④バッテリを完全充電し、なるべく本機から取外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取付けたまま保管するときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。
⑤冷却水を抜き取ってください。
⑥エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。
⑦タイヤには、前・後輪とも、正規の空気圧にしてください。

【取扱いの注意】
バッテリは、使わなくても自然放電します。1ヶ月に1度は充電器で完全充電してください。

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



1016519D

⚠警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- １年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプやパワーステアリングホースは２年毎に交換してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検・整備・修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、かならず取付けてください。

守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

- マフラやエンジンミッションなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

定期点検や整備は、農閑期に行い農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、１年ごとに販売店・整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプや、パワーステアリングホース、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は２年ごとに交換するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

1. 定期点検一覧表

実施項目＼アワメータ表示時間	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	550時間目	600時間目	参照ページ
エンジンオイル点検・交換	交換		交換	○	○	交換	○	○	交換	○	○	交換	86
ミッションオイル点検(交換)	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	86
フロントアクスルオイルの点検(交換)	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	87
エンジンオイルエレメント交換	交換					交換						交換	88
ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)交換	交換	○		○		交換		○		○		交換	89
ラジエータ内部の掃除	冷却水交換時												91
ミッション内オイルコシ器洗浄	○					○						○	89
燃料コシ器の洗浄およびエレメントの交換		○		○		交換		○		○		洗浄	88・89
冷却水の点検(交換)	仕業時毎に点検(1年毎に交換)												91
エアクリーナエレメント点検(交換)	○	○	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	90
防塵網のゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	90
冷却ファン・ラジエータのゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	90・98
バッテリ液量点検	仕業時毎に点検												93
バッテリ液比重点検および補充電		○		○		○		○		○		○	93
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	94
パワーステアリングのゴムホースの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	94
ラジエータホースの点検・交換	2年毎に交換												94
油圧ゴムホースの点検・交換	2年毎に交換												–
燃料パイプ・電気配線の交換	2年毎に交換												94
電気配線の点検　※1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	94
各部グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	95
ステアリング各部締付点検		○		○		○		○		○		○	–
重要ボルトナットの点検(増締)	○	○		○		○		○		○		○	–
冷却ファンベルトの点検	○	○		○		○		○		○		○	98
エンジンのブリーザパイプの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–
エンジンクランクケースの洗浄						○						○	–
吸排気弁すき間の点検												○	–
燃料噴射弁の点検												○	–
発電機、始動電動機の点検										○			–
油圧装置の点検										○			–

※1 50時間ごとに点検を基本としますが、使用時間が満たない場合は1年ごとに行ってください。
※2 交換の必要なものは、使用時間に達しなくても2年ごとに交換してください。
※3 パワーステアリングの高圧ホースは2年ごとに交換してください。

2. オイル・グリース・不凍液一覧表

種　　類	ディーゼル軽油JIS2号または特3号軽油を使用してください。		
エンジンオイル (新SAE、CC級) (JIS K2216 2種 DG または DM)	純　正　油	マルチSTOUオイル(10W-30)	その他一流メーカーのオイルでAPIサービス分類CD級オイルを使用してください。
	全　　農	クミアイエンジンオイル(ディーゼル用)	
	三菱石油	ダイヤモンドHDS-3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	
ミッションオイル 油圧兼用	純　正　油	マルチGBオイル	(80W)
	純　正　油	マルチSTOUオイル	(10W-30)
	全　　農	クミアイトラクターオイル	(80W)
	三菱石油	ダイヤモンドファームギヤオイルB	(80W)
	三菱石油	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	(10W-30)
	日本石油	アントイルB	(80W)
	昭和シェル石油	ギヤオイルHTS-56スーパー	(80W)
グリス (マルチパーパスタイプ)			300時間毎に交換してください。
不凍液 (JIS K2234 2種 パーマネントタイプ)			工場出荷時は－30℃を基準としております。
パワーステアリング オイル・ブレーキオイル	シェルテラス32（シェル） 油圧作動油…ISO VG32～46　　注）鉱物油		
クラッチオイル	コスモハイドロ　HV10		

注）気温－10℃以下のとき、燃料は特3号軽油を使用してください。

3. 給油・給水一覧表

型　　式		MT520	MT620	MT720
燃　　料		100ℓ		
冷却水	ラジエータ	11.5ℓ	12ℓ	
	サブタンク	0.45ℓ		
エンジンオイル		6.3ℓ	8.2ℓ	
ミッションオイル		40ℓ		
フロントアクスルオイル		7.5ℓ		
ブレーキオイル		0.6ℓ		
クラッチオイル		0.3ℓ		
パワーステアリングオイル		1.7ℓ		

4. サイドカバー・フロントカバーの開閉のしかた

サイドカバーの取り付け、取り外しかた

取り外しかた

①下部サイドカバーの取手口を持ち、手前へ引きます。

②上部サイドカバーのロックツマミ（前後2箇所）を起こして水平位置まで回し、手前へ引き、やや持ち上げてサイドカバーを外します。



2012105



2012106

取り付けかた

①上部サイドカバーをフックに掛け（前後2箇所）、ロックツマミで固定します。

②下部サイドカバーをフックに掛け（前後2箇所）、取手口を持ち押し付けクランプさせます。



2012107

フロントグリルの取り付け・取り外しかた

取り外しかた

①サイドカバー上部と下部を取り外します。

②フロントグリル上部の取り付けネジ（左右2箇所）を外します。

③フロントグリルを持ち上げながら前方に引き出します。

④ヘッドランプ用のカプラー（2箇所）を外し、フロントグリルを取り外します。



2012108

取り付けかた

①ヘッドランプ用のカプラー（2箇所）を取り付けます。

②フロントグリル左右の下部に、前後各2箇所のラッチにはめ込みます。



2012109

③フロントグリル上部の取り付けネジ（2箇所）で固定します。

5.各部オイルの点検・交換のしかた

⚠危険

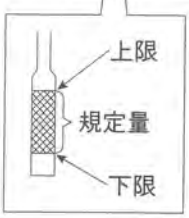
- **エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油しないでください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。**

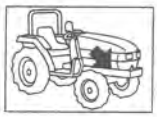
エンジンオイル

点検

エンジン部右側横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。







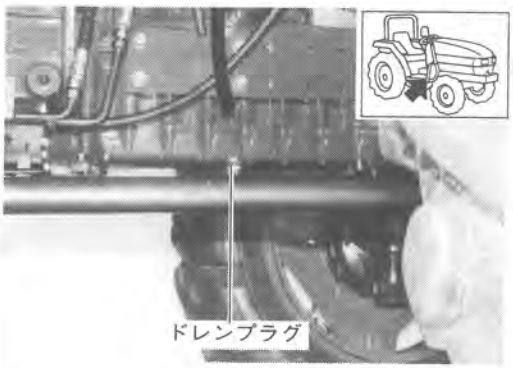
【取扱いの注意】

- **オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。**

交換

エンジン下部のドレンプラグから排油してください。給油はエンジンの給油口からしてください。

エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。



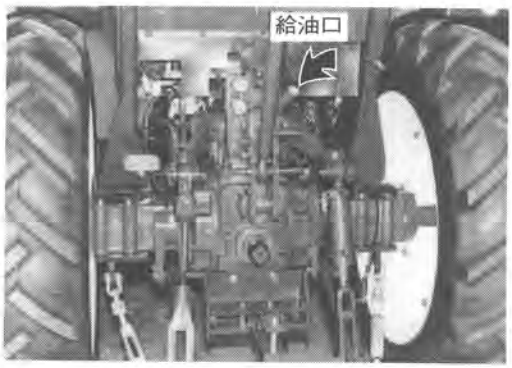
【取扱いの注意】

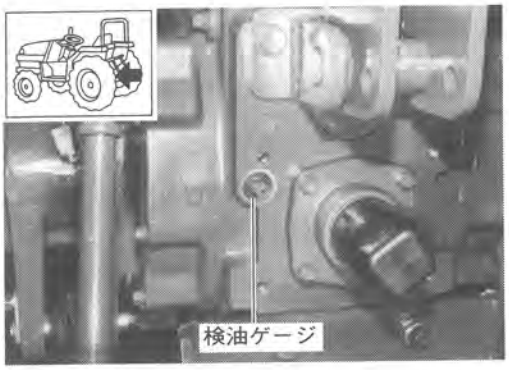
- **排油のときは、オイルが少しあたたかいときに行なってください。**

ミッションオイル

点検

ミッション後部のゲージの上限と下限の間に、オイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油窓規定量まで入れてください。





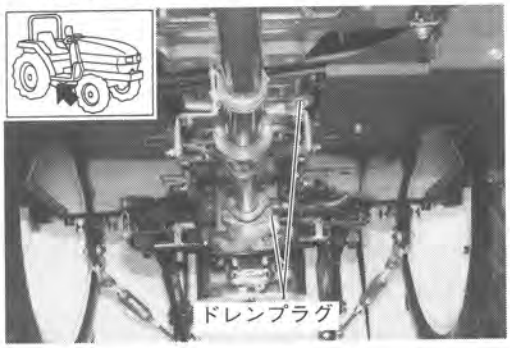
交換

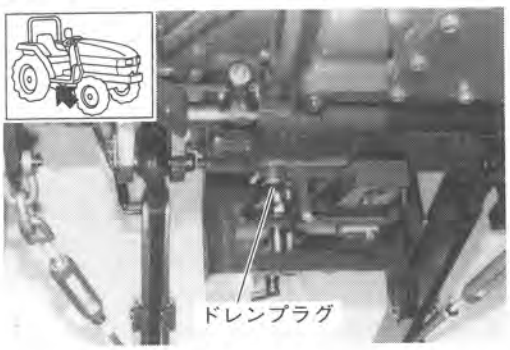
ミッションケース下側のドレンプラグ（3箇所）から排油してください。

オイルを抜くときは、ミッションが少し暖かい内に抜くときれいに抜けます。給油は後部の給油口から入れてください。

※ミッションオイルは、油圧オイルと併用しています。

※ミッションオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

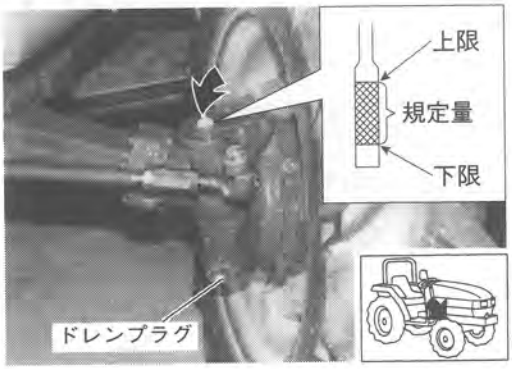


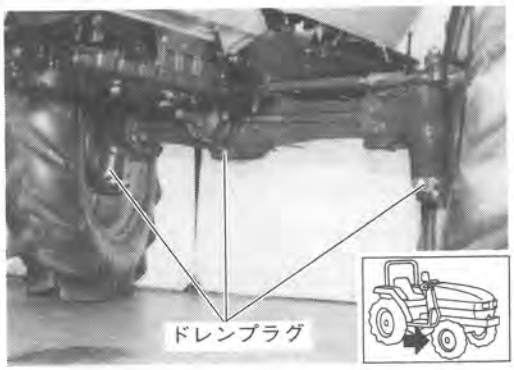


フロントアクスルオイル

点検

フロントアクスル右側上部の給油口のふたをはずして、ゲージの先端をきれいにふきネジ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。なお、油もれのないことも調べてください。





交換

フロントアクスル下部の左右ドレンプラグとセンタードレンプラグの3箇所から排油してください。

給油はフロントアクスル右側上部からしてください。

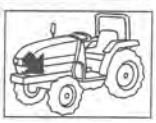
※フロントアクスルオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

パワーステアリングオイル

点検

サイドカバーとフロントカバーを外し、パワーステアリングオイルタンクの検油栓をゆるめて、オイルが流出すれば、規定量入っています。不足している場合は、補給してください。





交換

①パワーステアリングパイプのジョイント取付ボルト（M8ボルト2本）を外し、タンク・パイプ内のオイルを抜取り、ジョイントを取付けます。

②給油口より、タンク入口付近まで、新しいオイルを入れます。

③エンジンを始動し、回転を2000rpm以上に上げてから、ハンドルを左右に2～3回いっぱいに回します。

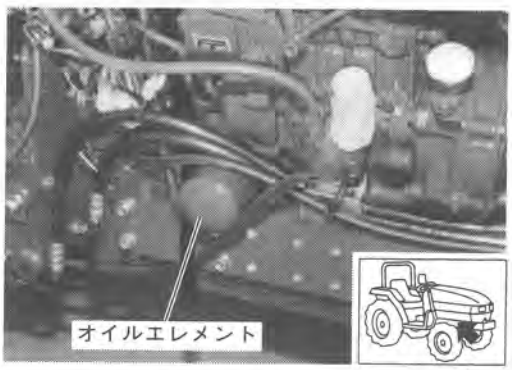
④エンジンを止め、検油栓までオイルが入っているか、確認し、不足していれば、補給します。

※パワーステアリングオイルは必ず指定オイルを使用してください。

6.各部エレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメント

最初50時間で、その後は300時間または、エンジンオイルを2～3回交換ごとにエレメントを取替えてください。



交換

①エンジンオイルを抜き取った後、カートリッジをフィルタレンチで左側に回して外します。

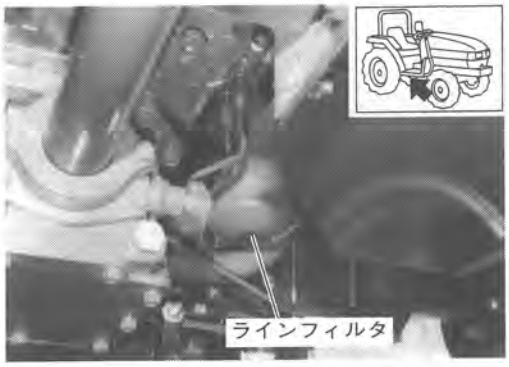
②新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、フィルタレンチで確実に取付けてください。

③エンジンオイルを交換後、エンジンを始動して油圧パイロットランプが消えるまで回してください。

④油圧パイロットランプが消えたら、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば、補給します。

ラインフィルタ（ミッションオイルエレメント）

ラインフィルタは、カートリッジタイプになっています。最初50時間でその後は300時間毎に交換してください。



交換

①ミッションオイルを抜き取った後、ラインフィルタのカートリッジを左側に回して外します。

②新しいラインフィルタの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、確実に取付けてください。

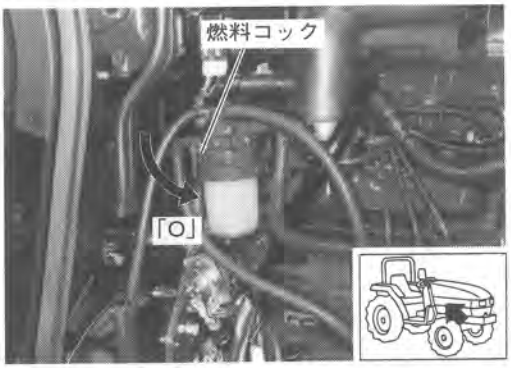
③ミッションオイル交換後、エンジンをアイドリングにして、検油ゲージでオイルの量を点検し、不足している場合は補給してください。

燃料コシ器エレメントの清掃・交換

①燃料コックを「C」（閉）の位置にします。

②コシ器を外し、コシ器内の水・ゴミを取除きます。

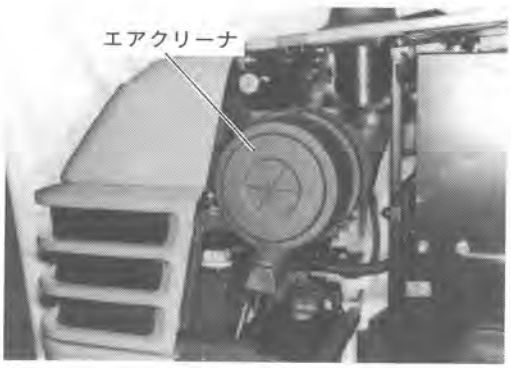
③コシ器の洗浄が終わったら元通りに取付け、燃料コックを「O」（開の状態）位置にし、燃料エア抜きを行ないます。（燃料のエア抜きのしかた92ページを参照してください。）



④コシ器内のエレメントは、300時間毎に交換してください。

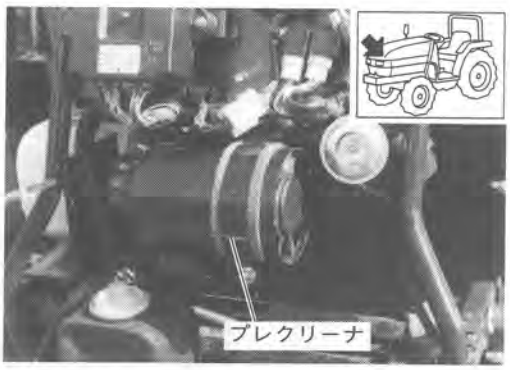
7.エアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナーは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。ホコリの多いところで作業するときは、50時間毎に掃除・400時間毎に交換してください。普通の所でも100時間毎に掃除・1000時間毎に交換してください。規定時間になってなくても、1年間でエレメントを交換してください。



〈エアクリーナエレメントの掃除のしかた〉
蓋を取外し、中のエレメントを抜き取り、エレメントの内側から、空気を吹き付けるか、振動を与えて塵を落します。フィンに傷を付けないよう気をつけてください。

ホコリの多い場所での作業でもエンジンを保護するためにプレクリーナを標準装備しています。作業終了時、プレクリーナの中に溜ったゴミを掃除してください。

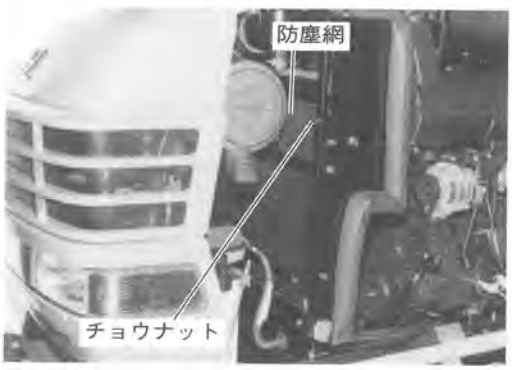


【取扱いの注意】

- **トラクターを洗浄する場合は、プレクリーナの吸入口に直接水をかけないでください。吸入口付近を洗浄する場合は、プレクリーナ吸入口の入口をふさいでから洗浄してください。**

8.防塵網の掃除のしかた

ラジエータの防塵網にゴミ・異物が溜り過ぎると、オーバーヒートの原因になります。チョウナットを外して、防塵網を取出し、掃除してください。



9.冷却水の点検・交換のしかた

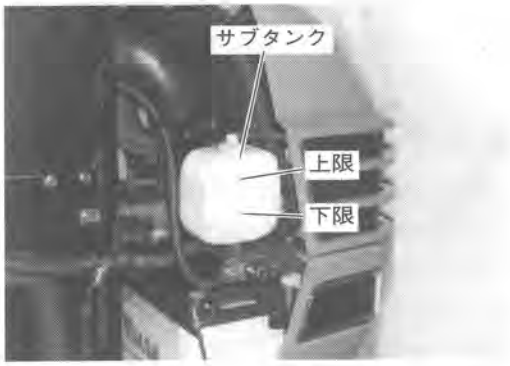
⚠危険

- **ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。エンジンが停止してエンジンが冷えてから開けてください。守らないと、熱湯が吹き出し、ヤケドを負うおそれがあります。**

点検

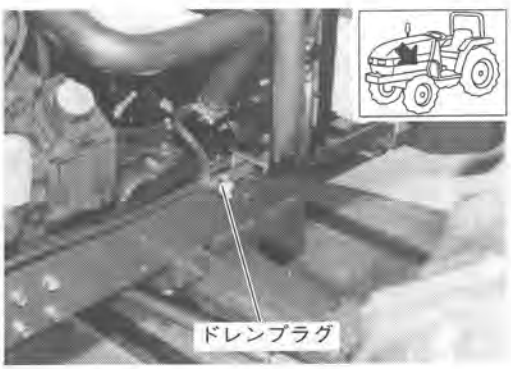
エンジンサイドカバー（右側）を開け、サブタンク内の水が「**上限**」から「**下限**」の範囲にあるか調べてください。

不足しているときは、サブタンクの給水口より清水を補給してください。



交換

①ラジエータキャップとドレンプラグを外し、ラジエータ内の水を全て抜きます。



②水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ部を洗います。

※ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいっそうきれいになります。

③ドレンプラグを取付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれるまで入れます。

④ラジエータキャップをし、エンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。

〈不凍液の取り扱いについて〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。出荷時にはオールシーズンタイプを使用しています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯等においては下表を参照の上、安全な濃度で使用してください。

なお、工場出荷時の不凍液混合比率は、外気温度-30℃としております。

不凍液混合比率表

外気温度（℃）		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率	水（%）	82	73	66	61	55	49
	不凍液（%）	18	27	34	39	45	51

【取扱いの注意】

- **新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。**
- **混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱書の指示にしたがってください。**
- **冷却水が自然に不足した場合には、清水だけを入れてください。（セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。）**
- **不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。**

10.燃料の点検・給油のしかた

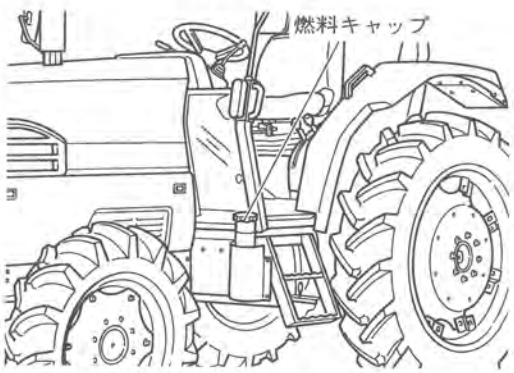
⚠危険

- **燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。**
- **燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。**
- **エンジン回転や、エンジンが熱い間は、絶対に給油はしないでください。**

守らないと、火災をおこすおそれがあります。

メインスイッチを「**ON**」位置にして、燃料計が「**E**」位置を指示したら、燃料キャップをはずして給油口より満タンに入れてください。

なお、エンジンサイドカバーを外し、燃料もれのないことも調べてください。



【取扱いの注意】

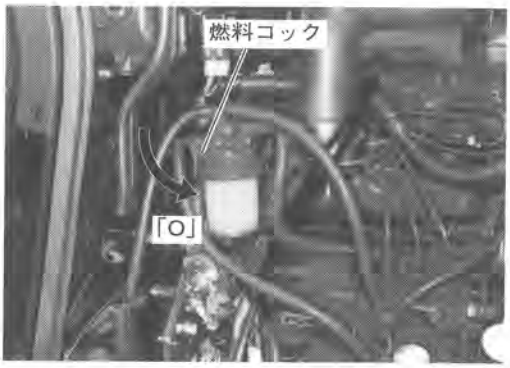
- **給油するときは、こし網を使用してください。**

11.燃料の空気（エア）抜きのしかた

燃料切れを起し、エンジンが停止したとき、または、点検整備で燃料コシ器エレメント、燃料配管を外したときは、次の手順で燃料の空気（エア）抜きをしてください。

①燃料タンクを補給します。

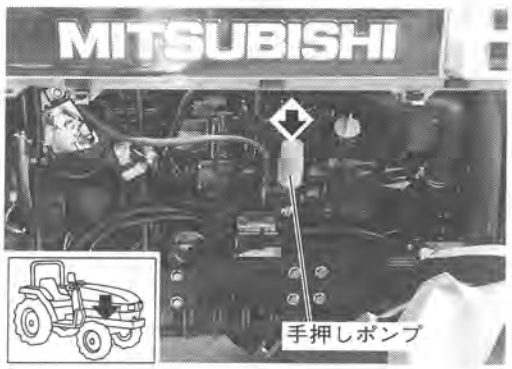
②燃料コックを「**O**」（開の状態）の位置にします。



③アクセルレバーを最高回転位置にし、「**START**」位置にしてセルモータを約10秒回してください。噴射音が聞こえたらエアー抜きは完了です。

※もし噴射音が聞こえないか、まだエンジンが始動しないときは燃料噴射ポンプ手前の手押しポンプを操作（20～30回）してエアーを抜いてください。

以上で空気（エアー）抜きは完了です。



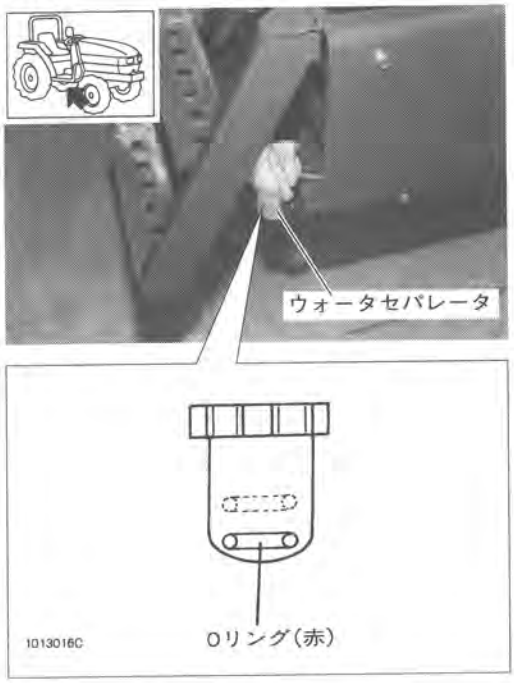
12.ウォータセパレータの水抜きのしかた

⚠危険

- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に水抜きしないでください。
- くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料タンク内の燃料があふれることがありますので、燃料が少ない状態で容器などを用意してから行なってください。
- こぼれた燃料は、きれいにふきっとてください。

守らないと、火災をおこすおそれがあります。

右ステップの下方に、ウォータセパレータ（水分離器）があります。ウォータセパレータ内の赤色のOリングが上ってきたら、透明のケースを外し、中の水を取除いてください。



13.バッテリの点検のしかた

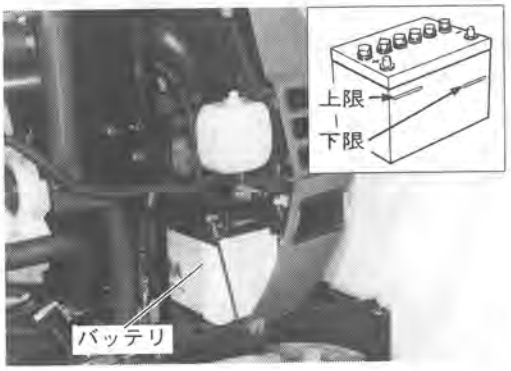
⚠危険

- バッテリの点検時・充電時・火気厳禁です。守らないと、引火爆発し、ヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。守らないと、服が破れたり、ヤケドを負うおそれがあります。

⚠注意

- バッテリの取付けは⊕側を先に取付け、取外すときは⊖側から取外してください。守らないと、ショートしてヤケドを負うおそれがあります。

バッテリの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸留水を上限のラインまで補給してください。



【取扱いの注意】

- バッテリ各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリ液が吹き出し、トラクターの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電はできるだけ避けてください。
- バッテリを充電するときは、バッテリを本機より取外して上部６個の蓋をはずして充電してください。

14.パイプ類の点検について

⚠危険

- **燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますのでかならず点検してください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。**

パワーステパイプ、燃料パイプ、ラジエータホースなど傷んで油もれ、燃料もれ、水もれがないか、また、締付バンドがゆるんでないかも調べてください。傷んでいなくとも2年毎に交換してください。



【取扱いの注意】

- **燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。**

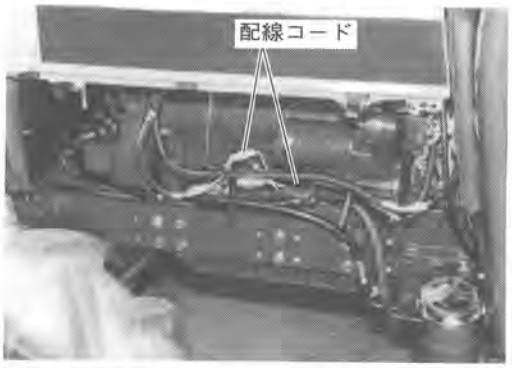
15.電気配線の点検について

⚠警告

- **配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。**
- **バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。守らないと、ショートして火災をおこすおそれがあります。**

エンジンサイドカバーを外し、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接続部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で修理してください。

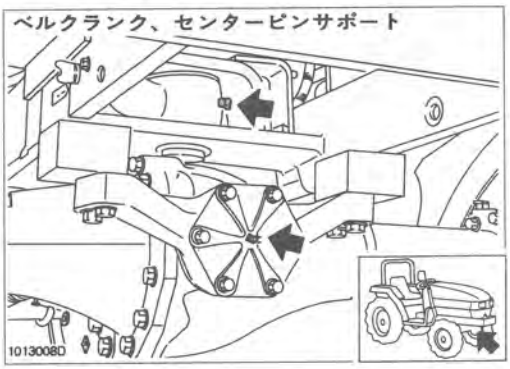
傷んでいなくても使用時間50時間毎、または1年毎に定期点検を受けてください。

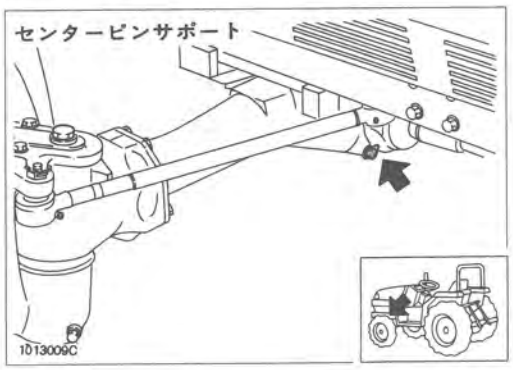


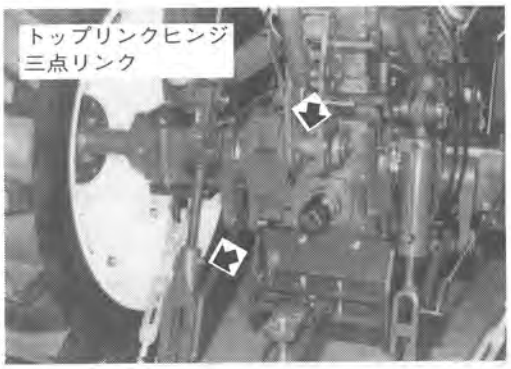
16.グリスアップ（注入）について

グリスアップは、50時間毎に行っていただきますが、作業に入る前に、各箇所のグリスの点検を行ない、必要ならばグリスアップしてください。また、代かき作業等で泥水に入った後は、作業終了後必ずグリスアップしてください。





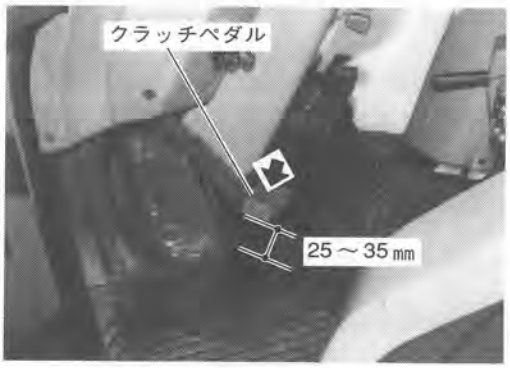


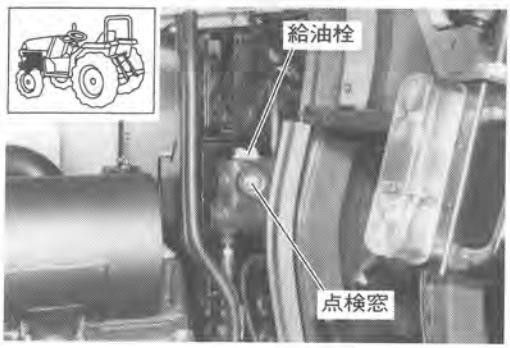




17.クラッチの点検について

クラッチペダルを踏み込んで、規定の遊び量（25～35㎜）があるかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、お買い上げいただいた販売店で調整してください。





クラッチオイルの点検

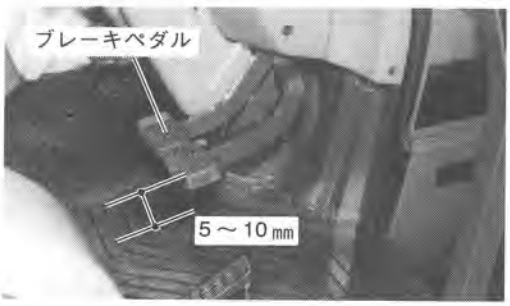
点検窓からオイルの有無を点検します。
点検窓にオイルが見えない場合は、上部の給油栓を外して、オイル量が点検窓のほぼ中央になるまで指定オイルを追加してください。

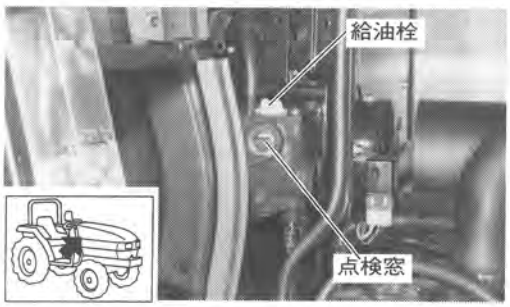
18.ブレーキの点検について

⚠警告

- **ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**
- **左右のブレーキペダルの遊び量が異なると、ブレーキの片ぎきが生じます。常に、左右の遊び量が同一であるようにしてください。守らないと、事故をおそすおそれがあります。**

ブレーキペダルを踏み込んで、規定の遊び量（5～10㎜）があるかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、お買い上げいただいた販売店で調整してください。





ブレーキオイルの点検

点検窓からオイルの有無を点検します。
点検窓にオイルが見えない場合は、上部の給油栓を外して、オイル量が点検窓のほぼ中央になるまで指定オイルを追加してください。

19.駐車ブレーキレバーの点検のしかた

駐車ブレーキを押し下げた状態で、駐車ブレーキ先端のあそび量が20～25㎜の範囲にあるか調べてください。
遊び量が適正でないときは、お買い上げいただいた販売店、農協で整備してください。

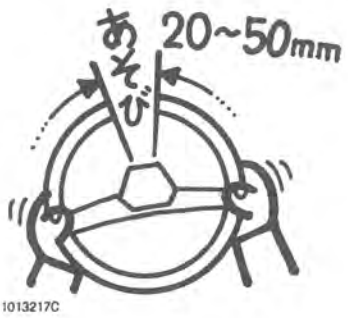


20.ハンドルの点検について

⚠警告

- **ハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が20～50㎜の範囲にあるか調べてください。遊び量が適正でないと、ハンドルが重くなったり、直進性が悪くなります。

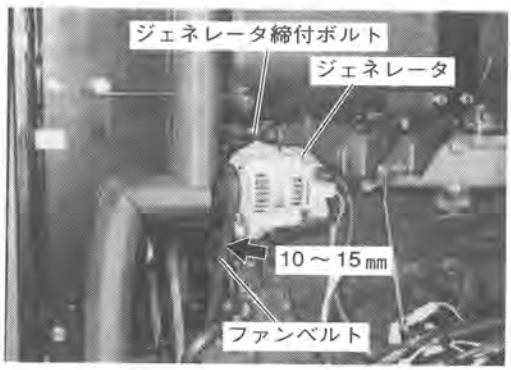


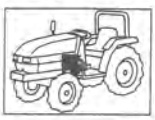
21.ファンベルトの点検・調整について

⚠注意

- **エンジンが十分冷えた状態で行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。**

エンジンサイドカバーを外し、ファンベルトの中間を指で押え、ベルトのたわみが10㎜～15㎜あるか、ベルトが損傷していないか調べてください。たわみが適正でないときは、ジェネレータ締付ボルトをゆるめ、ジェネレータを移動させて張りを調節します。また、ジェネレータをいっぱいに動かしてもベルトがスリップするようでしたら、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。





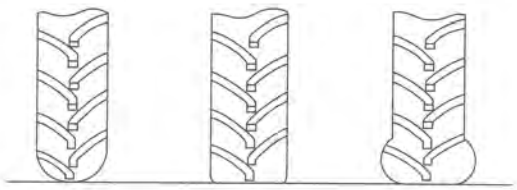
22.タイヤの点検について

前・後輪の空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがないか確認してください。

フロントウイエト・フロントローダなど前輪に荷重がかかるときは、前輪の空気圧を下表の最大圧でご使用ください。

タイヤ空気圧

		空気圧（kgf/cm²）
ロータリー装着時（標準）	前輪	2.0
	後輪	1.0
ローダ装着時	前輪	3.0
	後輪	2.0



23.排気ガスの色について

エンジン始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色…燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

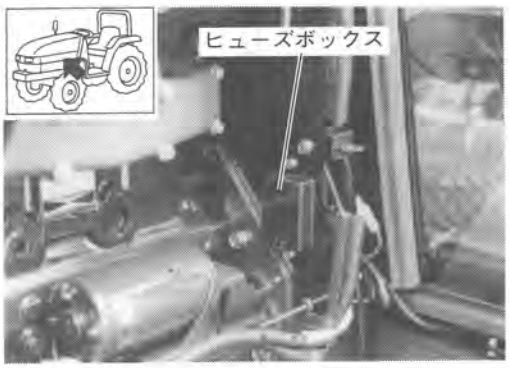
白色…エンジンオイルが燃焼しています。

ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

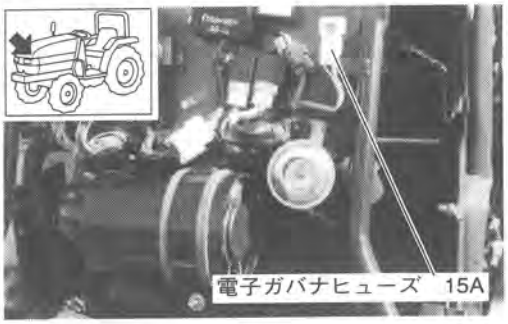
黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、販売店で整備してください。

24.ヒューズ・ヒュージブルリンクの点検・交換について

ヒューズボックスの蓋を外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。
また、エンジンを停止して、メインヒューズ（ヒュージブルリンク）を点検してください。ヒュージブルリンクはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したら外被（ビニール）が変色しますので、購入先で点検を受けてください。



エンジンコントローラ5A	予備	ブレーキランプ10A
メータパネル10A	5A	クイックターンバルブ10A
フラッシャランプ10A	予備	PTOバルブ10A
ヘッドランプ10A	10A	コントローラ電源10A
スタータリレー5A	予備	ワークランプ10A
	20A	外部電源20A

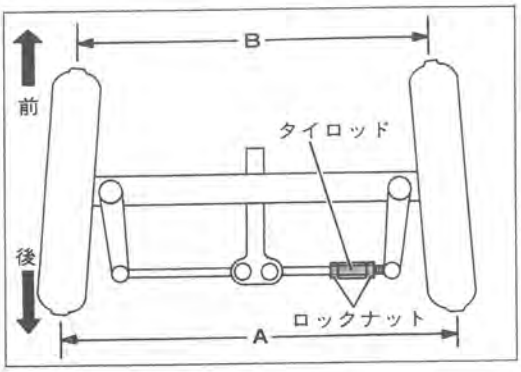


【取扱いの注意】

- **ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のものを使用し、他のものは使用しないでください。**

25.トーインの点検・調整について

トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり異常に振れることがあります。調整は前輪のA寸法とB寸法を測定し、A-Bが4～8㎜であるか調べてください。
規定寸法でない場合は、タイロッドエンドのロックナットをゆるめ、ターンバックルで調節します。トーインが4～8㎜になったらロックナットを締付けてください。

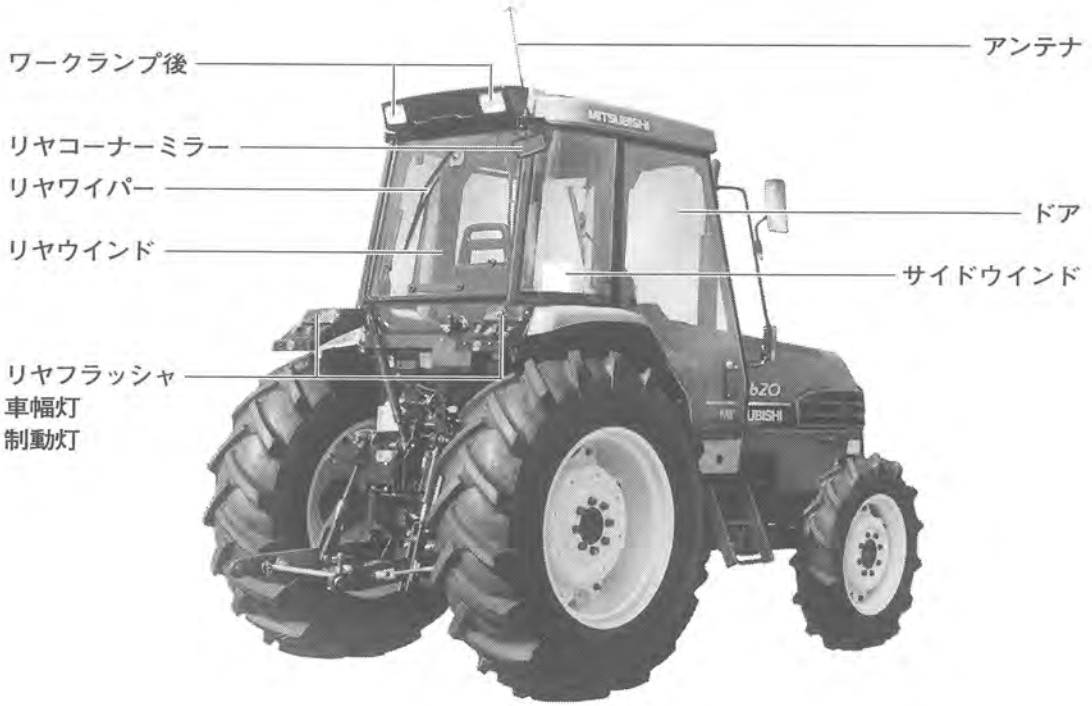


キャビン仕様について

説明図は、本機MT620を基準にしています。

1．各部のなまえ





2．ドアの開閉のしかた

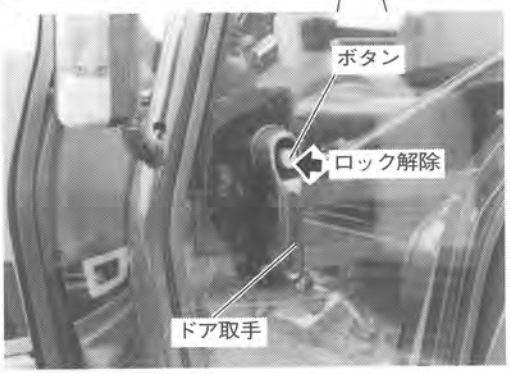
⚠注意

- **ドアウインドを閉めるときに、ドアウインドに手や指をはさまないように注意してください。ケガをするおそれがあります。**

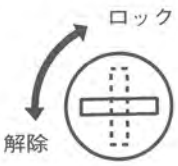
車外から

左右とも、ドア取手のボタンを押すとロックが解除されて、ドアが開けられます。





ドアロックと解除

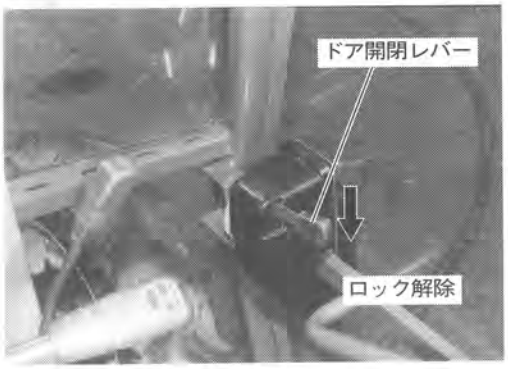


車外からスタータキーを差込み90°右へ回すとロックします。キーを水平の方に回すと解除します。

(注) 車内でのドアロックはできません。

車内から

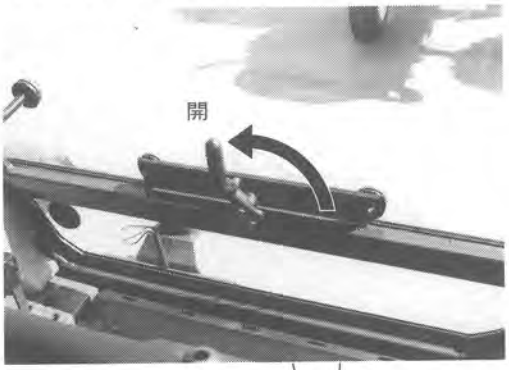
左右とも、ドア開閉レバーを下方向に押すと開閉できます。

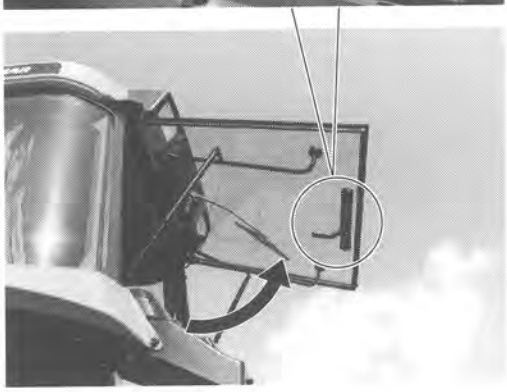


3．リヤウインド・サンルーフの開閉のしかた

リヤウインドの開閉のしかた

リヤウインドストッパーを開方向に回し、リヤウインドを上に押し上げてください。





サンルーフの開閉のしかた



ストッパーを「開」方向に引き上げサンルーフを持ち上げてください。

【取扱いの注意】

- サンルーフを開状態にするとトラクターの全高が上がります。
  必ず道路走行時には閉状態にしてください。また、車庫などの出入り時には充分注意してください。

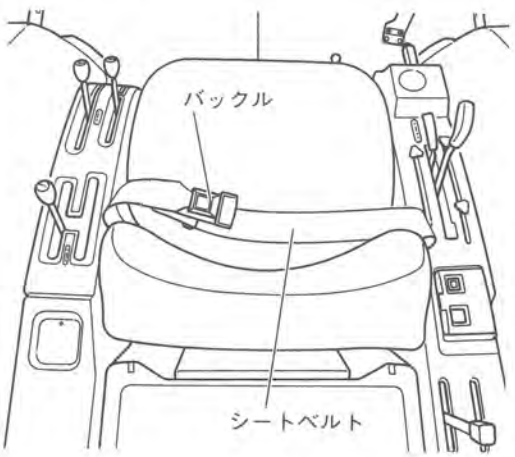
シートベルト

⚠警告

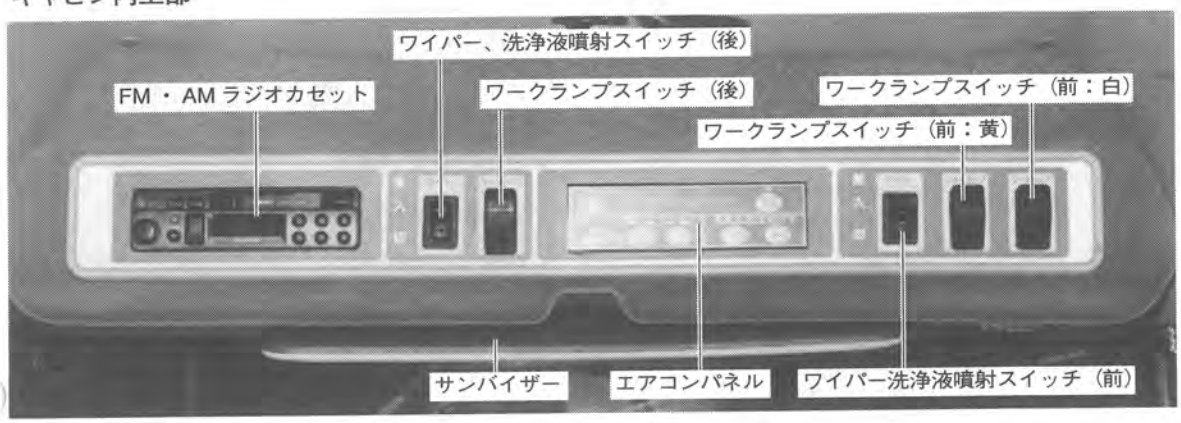
- トラクターを運転するときには、かならず安全フレームを立てた上で、シートベルトを着用してください。

守らないと、転落・転倒事故のとき、死亡または重傷を負うおそれがあります。

- シートベルトは、運転する前にかならず装着してください。
  ドライバーシートを正しい運転姿勢位置にし、上体を起こしてすわります。腰骨にかかる位置にベルトがねじれないようタングプレートをバックルの中へ「カチリ」と音がするまで差し込みます。
  外すときは、バックルのPRESSボタンを押します。



キャビン内上部



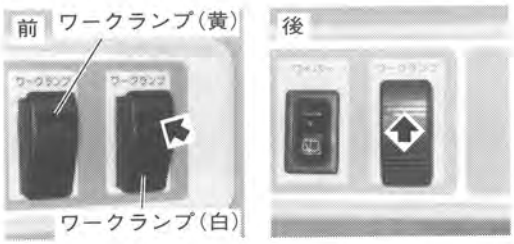
4．スイッチの使いかた

ワークランプスイッチ（前・後）

⚠注意

- **道路走行時は、ワークランプを消灯してください。守らないと道路交通法違反となり、事故をおこすおそれがあります。**

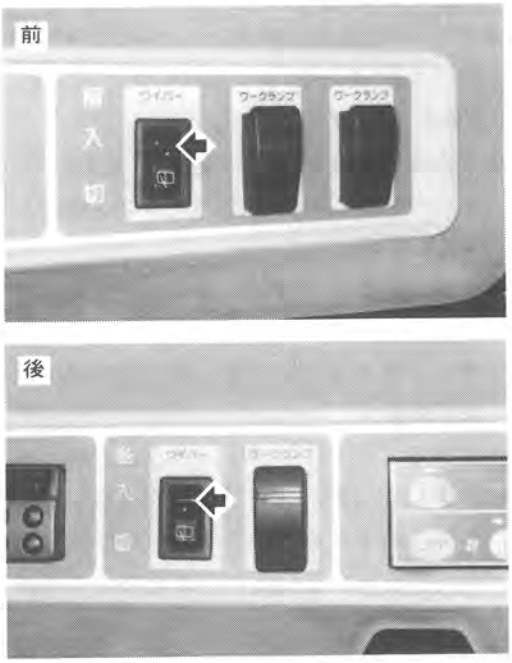
スイッチを「入」方向へ押すと、ワークランプが点灯します。（インジケータランプも点灯）

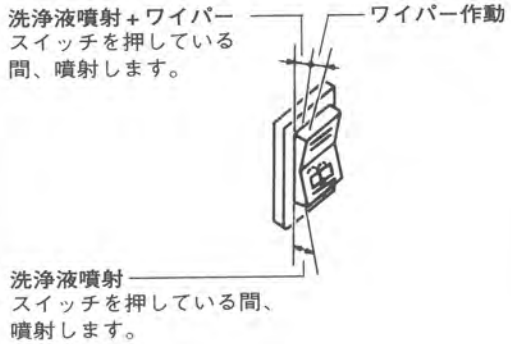


【取扱いの注意】

- **道交法により道路走行時、ワークランプの点灯は違反になりますので必ず消灯してください。**
- **エンジン停止状態および、エンジン低回転時でワークランプを長時間使用すると、バッテリ容量が低下しエンジンの始動ができなくなります。**

ワイパー、洗浄液噴射スイッチ

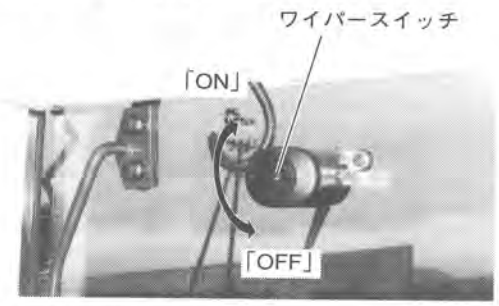




〈リヤワイパー〉

ワイパースイッチを「ON」にすると、ワイパーが作動します。

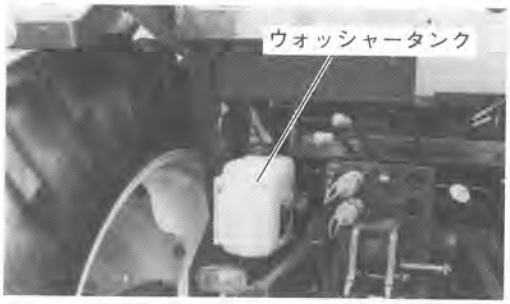
自動停止にて作動停止させるには、本体のスイッチを「OFF」にしてください。



【取扱いの注意】

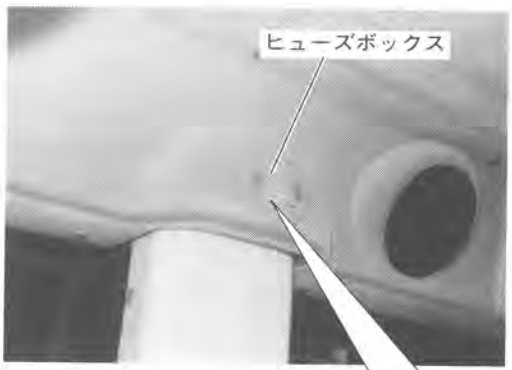
- ワイパーを止めるときは、メーンスイッチが「ON」の状態でワイパースイッチを、「OFF」にしてください。
- 空ぶきは、ガラス面に傷をつけたり、ワイパーをいためますので洗浄液を噴出してください。
- 洗浄液が出ない時は、スイッチを切ってください。洗浄液が出ない状態で作動させるとウォッシャーモータの故障原因になります。
- 寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面は張りつくことがあります。このまま作動させると、ワイパーが破損しますのでヒータで前面ガラスを暖めてください。
- エンジン停止状態で、ワイパーを長時間使用するとバッテリ容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

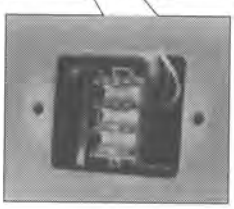
ウォッシャータンクは、フレーム本体後側（左側）に取付けられています。タンク容量は約3.4 ℓ で、水と液の割合は約1：1にします。



5．ヒューズの点検・交換について

ヒューズボックスの蓋を外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。

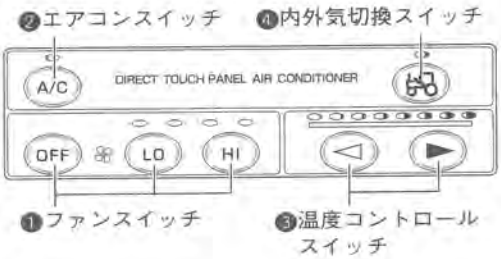




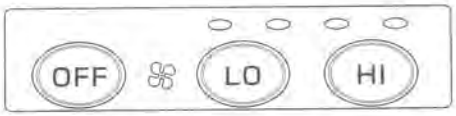
ヒューズ	
ルームランプ	5A
エアコン	10A
ワイパーモーター	15A
ワークランプ	15A
ラジカセ(本体裏側)	
バックアップ	7A
アクセサリー	1A

ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店、または農協で点検を受けてください。

6．エアコンの使いかた



❶ファンスイッチ



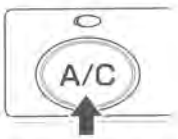
風量を4段階に調節できます。
「OFF」 ･･･ファン停止します。
「LO」 ･････ファンの回転を一段下げます。
(OFF時に押すと最弱より始まります)
「HI」 ･････ファンの回転を一段上げます。
(OFF時に押すと最強より始まります)

【取扱いの注意】

- **メインスイッチを切ってもファンの風量は記憶されています。**

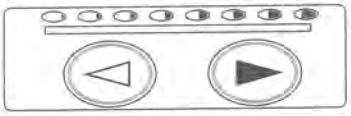
❷エアコンスイッチ

エアコン電源の「ON」「OFF」に使用します。



※「OFF」の状態からスイッチを押すと「ON」となり、再び押すと「OFF」になります。またファンスイッチが切の位置になっているとエアコンスイッチを「ON」にしてもエアコンは働きません。

❸温度コントロールスイッチ



一番左位置（青）で吹き出し温度が一番低くなり、右側に移動することにより吹き出し温度は上昇します。

【取扱いの注意】

- **一番右位置から約4目盛の間は、除湿暖房用の温風が吹き出します。**
  (コンプレッサが作動します)

❹内外気切換スイッチ



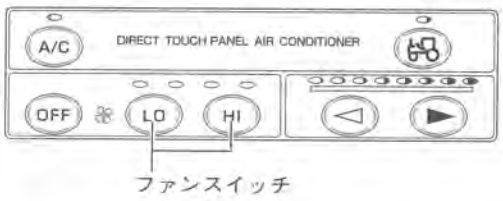
ランプ点灯 ････外気導入
消灯 ････内気循環

【取扱いの注意】

- **内気循環は早く冷房・暖房したいときや、外気が汚れている時に使用してください。エアコンを使用しないときに内気循環で使いつづけるとウィンドウガラスの曇りの原因になります。**

エアコン冷暖房のしかた

①ファンスイッチで希望の風量位置にセットします。



②温度コントロールスイッチをセットします。

冬：暖房のとき

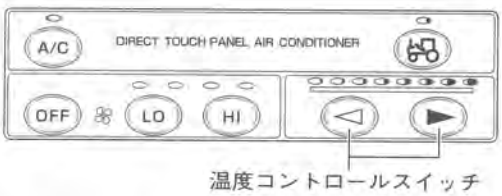
スイッチを右方向▶に押します。

夏：冷房のとき

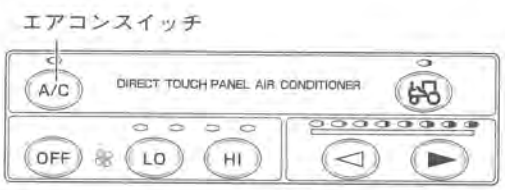
スイッチを左方向◁に押します。

春、秋：除湿のとき

スイッチで中間位置にセットします。



③エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にします。



※キャビン内の温度が低いとき（約5℃以下）は、エアコンスイッチを「ON」にしてもコンプレッサが作動せず、除湿できないことがあります。

除湿暖房のしかた

（除湿をしながらキャビン内を暖めたい時）

①ファンスイッチで風量を、希望の位置にします。

②温度コントロールスイッチで、右側いっぱいから3～4目盛戻した位置にします。

③エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）します。

④室内が暖まったら温度コントロールスイッチを左側に動かし、希望する温度に調整してください。

エアコン使用時の注意

●エアコン使用時に煙草を吸ったとき、目が痛くなることがあります。このようなときは窓を少し開け、外のきれいな空気を入れるようにしてください。
(サンルーフを利用すると便利です。)

●湿度の高いときは窓ガラスが曇りやすくなります。エアコン除湿運転をすると便利です。

●吹き出し口から霧が吹き出すことがあります。これは湿った空気がエアコンユニットを通過する際、水粒子が凍って吹き出されるもので、異常ではありません。

【取扱いの注意】

- **エアコンスイッチはコンプレッサなどに無理な力をかけないため、エンジンを始動した後「ON」させるようにしてください。**
- **炎天下の放置状態からエアコンを使う場合には一度、ドア、窓を開けて室内空気を入れかえてからおこなってください。**
- **長時間使用しないときも、エアコン内の冷媒ガスは規定量入れておきます。**
- **２～３週間ごとに１～２回、数分程度エアコンを作動させてください。コンプレッサやエアコン部品の油切れによるトラブルを防止できます。**
- **クーラースイッチ「ON」の状態で風が出ない、風力が弱い状態が続いたり、または冷房不良の場合はクーラースイッチを「OFF」にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた販売店または、農協で点検を受けてください。**

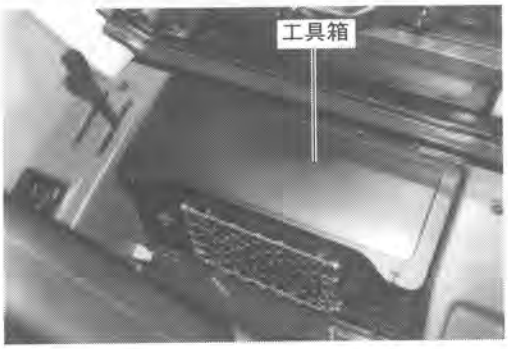
7．FM・AM付ラジオカセットの使いかた

ＦＭ・ＡＭ付ラジオカセットの取扱説明書をお読みください。

8．その他

工具箱

シート後部にあります。



灰皿

キャビン右側のドアピラー部にあります。

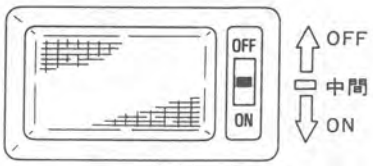


小物入れ

シートの背面にあります。



ルームランプ



1015003C

「OFF」 ･･･ドアの開閉に関係なく消灯します。

「中間」 ･･･ドアを開くと点灯、閉じると消灯します。

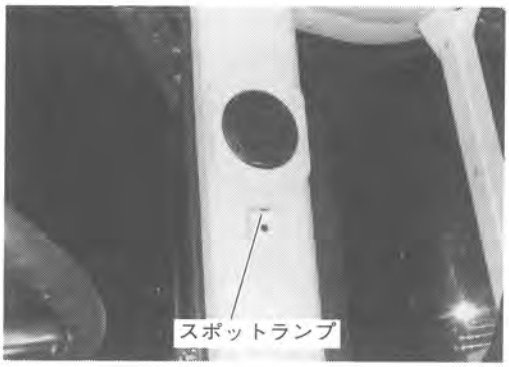
「ON」 ････ドアの開閉に関係なく点灯します。

【取扱いの注意】

- **エンジン停止状態で、ルームランプを長時間使用するとバッテリ容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。**

スポットランプ

スポットランプはヘッドランプと連動して点灯します。



キャビン仕様の手入れと点検・調整

⚠警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 1年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。
- 点検・整備・修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、かならず取付けてください。
  守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

エアコンを最適な状態で使用していただくために、また、機械の整備不良による事故などを未然に防止するため、お客様による日常点検、および1年毎に整備工場で定期点検・整備を受けてください。
特にゴムホース類や電気配線は2年毎に交換するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行なえるようにしてください。

1．エアコン定期点検一覧表

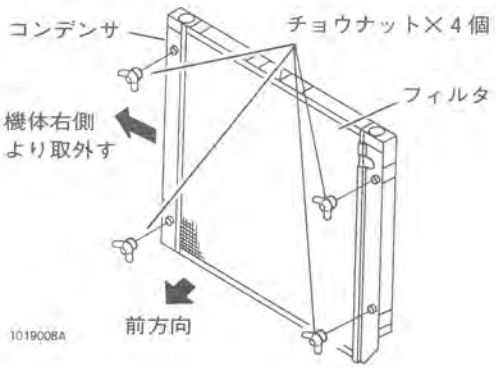
点検項目	内容	整備	参照ページ
コンデンサ	汚れ・つまり	清掃	110
フィルター	汚れ・つまり・はずれ	清掃	110
Vベルト	張り具合・破損	調整または交換	110
配管とその接続部	冷媒漏れ		110
サイトグラス	冷媒の量		111

※1　Vベルトは6ケ月毎の点検、または約50時間毎の点検を行ってください。

2．日常点検のしかた

コンデンサとフィルタの点検・清掃

●コンデンサに泥・ゴミ・切り草が付着していると、エアコン能力が発揮できないので、やわらかいブラシを使用して水で洗い落します。



●コンデンサフィンがつぶれているときは、放熱効果を防げるので⊖ドライバなどで修正する。

コンデンサ前側と後側にあるフィルタの点検をし、泥・ゴミ・切り草が付着している場合は、フィルタを取外して、やわらかいブラシを使用して水で洗い落とします。

Vベルトの点検・調整

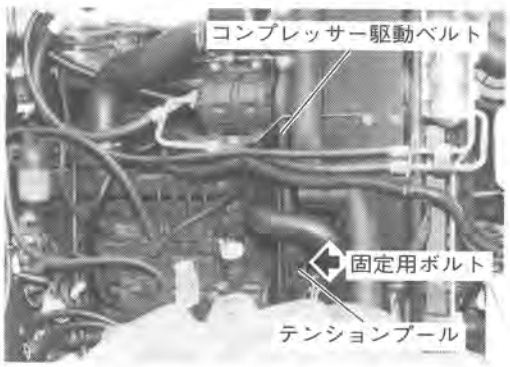
ベルトテンションとコンプレッサーの中間位置を指で押え、たわみ量が10～15㎜であることを確認します。

〈調整方法〉

①テンションプーリの固定用ボルトをゆるめます。

②テンションプーリを移動させて張り調節します。

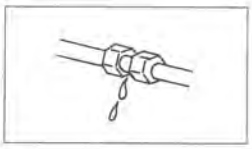
③調整後テンションプーリの固定用ボルトを締めます。



配管とその接続部

●配管とその接続部にオイルのにじみ・ゴミ・ホコリの付着がないか目視にて確認してください。

●配管接続部の増締めを行なう際は、必ずダブルスパナを用いて行ってください。



冷媒量の点検

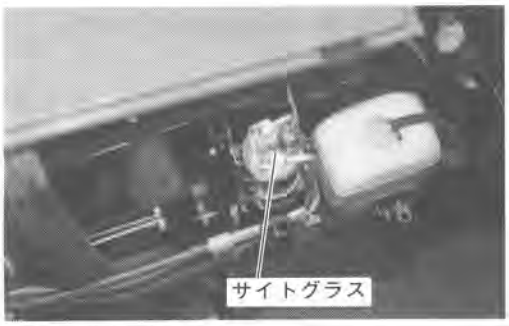
リキッドタンクのサイトグラス（点検窓）から冷媒の気泡の流れを見て冷媒量の点検を行います。

〈準備作業〉

①エンジン「ON」でエンジン回転数を2000rpm以上にします。

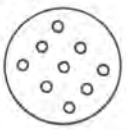
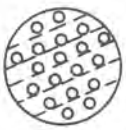
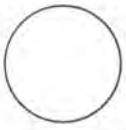
②エアコンスイッチ「ON」（ランプ点灯）、ファンスイッチ「入」にします。

③コントロールパネルの温度コントロールスイッチを「冷」位置にします。





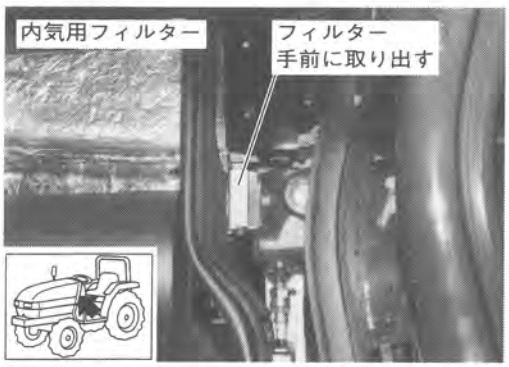
冷媒量チエック表

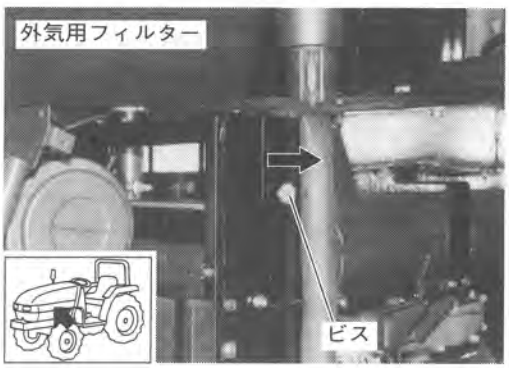
エアコンの状態	異常なし	異常あり		
高・低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい温度差がはっきりある。 コンプレッサ吐出側 温度 70℃ コンプレッサ吸入側 温度 5℃	高圧パイプはあたたかく、低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。	高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く、低圧パイプはやや温かいが温度差はある。
サイトグラスの状態	ほとんど透明、泡の流れが見えてもエンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1 	いつも気泡の流れるのが見える。透明または白泡のときもある。 	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。 	ファンを最大で回し、窓を全開にしアイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2 
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。	油の汚れがはなはだしい所がある。	異常なし。
このエアコンの状態は	冷媒量も不足なく異常はない。	どこか少し漏れがあるかも知れない。	冷媒がほとんど漏れてなくなってしまったようである。	冷媒が過充填になっている。

※1　外気温度が低い時には、媒媒充填量が適正でも気泡が見えることがありますので、ご注意ください。
※2　冷媒がゼロ（無）の場合があるので、高・低圧パイプの温度差（無）を確認のこと…全々冷えない状態にある。

3．フィルターの清掃のしかた

フィルタが汚れて目づまりすると、吹き出し風量が少なくなりますので、フィルター部を取り外し、圧縮エアで汚れを落としてください。汚れがひどい場合は交換してください。





ビスを外して、フィルターを外側に引き出してください。

4．ドアストッパーの調整について

〈ドア開き角度調節ボルト〉

ロックナットを緩めて調節ボルトを回し、手前へ出すとドアの開き角度が小さくなります。左右ドアヒンジの上下にあります。タイヤトレッドを広げたり、水田補助車輪などを付けた場合などに、調節ボルトでドアの開き角度を調節すると便利です。





不調診断

※もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

1.エンジン関係

状　況	点検箇所	処　置
キースイッチを回してもスタータが回らない。	リバーサレバーがニュートラル位置でパネル上のNランプが点灯していますか。	Nランプの点灯を確認して、メインスイッチを「START」位置に回してください。
	PTOクラッチレバーは「OFF」（エンジンスタート）になっていますか。	「OFF」の位置にしてから、メインスイッチを「START」位置に回してください。
	バッテリ液は規定量入ってますか。または放電してはいませんか。	バッテリ液を規定量補給し、満充電してください。（93ページ参照）
	バッテリ端子部のゆるみ外れ、腐蝕していませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。
	メインヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
	キースイッチが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
	セルモータが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きをしてください。
	燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行なってください。
	ウォーターセパレータ、燃料こし器のコックが「閉」位置になっていませんか。	「開」位置にしてください。
エンジンが不規則に回転する。	燃料系統にエア混入していませんか。	エア抜きをしてください。
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。
	噴射ノズルが詰まっていませんか。	修理、または交換してください。
	燃料フィルタが目詰りしていませんか。	洗浄、または交換してください。

状　況	点検箇所	処　置
エンジンが過熱する（オーバーヒート）	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。
	ファンベルトはゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。
	ラジエータフィンが目詰りしていませんか。	清掃してください。
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。（86ページ参照）
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。
エンジンの力が出ない。	エアクリーナが目詰りしていませんか。	エアクリーナを点検してください。
	ノズルが焼付きついていませんか。	サービス工場で修理をしてください。
	圧縮力が不足していませんか。	
	バルブクリアランスの調整は適正ですか。	
	噴射時期が悪くありませんか。	
運転中にエンジン油圧ランプが点灯した	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	オイルを規定量まで補給してください。（86ページ参照）
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適正粘度のオイルと交換してください。
	プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理をしてください。
運転中にチャージランプが点灯した	レギュレターが故障していませんか。	サービス工場で修理をしてください。
	ファンベルトのゆるみ、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。

2.クラッチ・ブレーキ関係

状　況	点検箇所	処　置
クラッチがすべる、または切れない。	ペダルの遊び量は適正ですか。	規定値でない場合はサービス工場で修理してください。
ブレーキのききが悪い、または片ぎきする。	ブレーキの遊び量は適正ですか。	規定値でない場合はサービス工場で修理してください。

3.油圧関係

状　況	点検箇所	処　置
作業機が上がらない	油圧ストップ、フローコントロールバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、フローコントロールバルブを「開」にしてください。
	ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルタケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。
	オイルフィルタが目詰りしていませんか。	清掃または交換してください。
	油圧ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。またはOリングは破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
作業機が下がらない	油圧ストップ、フローコントロールバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、フローコントロールバルブを「開」にしてください。
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。	サービス工場で修理してください。

4.電装関係

状　況	点検箇所	処　置
ヘッドランプが点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ソケットから配線が外れていませんか。	点検セットしてください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
フラッシャーランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	フラッシャーユニットが故障していませんか。	フラッシャーユニットを交換してください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
ランプ類が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	配線の接触が悪くありませんか。	点検し確実に接続してください。
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	アースの状態が悪くありません。	アース線を確実に車体に締めつけてください。
	バッテリが放電していませんか。	充電してください。
ホーンが鳴らない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ホーンスイッチの接触が悪くありませんか。	ホーンスイッチを確認してください。

用語解説

あ行

安全スイッチ
PTOクラッチをOFFにして、クラッチを踏まないと、エンジンがかからないようにするためのスイッチ

安全キャブ
トラクター転倒時、作業者を保護するための国の検査に合格したキャブ

インデペンデントPTO
走行関係とは無関係のPTO軸の変速装置

か行

クリープ
超低速の作業速度

耕深
耕うんする深さ

さ行

3点リンク
トラクターに作業機を装着する為の3点で支持を行なうリンク

JAC
作業機の左右の傾きや耕深をコンピュータにより全自動で行なう装置

スーパーヒッチ
トラクターに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

サーモスタート
寒冷時、エンジンの始動性を良くするための補助装置

ジェネレータ
エンジンからの動力で電気を発生させる装置

軸距（ホイールベース）
前車軸と後車軸の距離

た行

チェックチェーン
トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン

チルトペダル
運転者に合せてハンドルの前後角度を調節するためのペダル

トップリンク
作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の上部をつり下げているリンク

ドライブシャフト
トラクターの動力を作業機へ伝達するための軸

は行

ヒュージブルリンク
電気配線に規定以上の電流が流れた場合に、電気系統の保護をする部品

PTO（パワー テイク オフ）
作業機の動力を取り出すための軸

PTOクラッチ
走行とは無関係にエンジンの動力をPTO軸に取出す装置

や行

揚力
トラクターが作業機を上昇させるための力

ら行

リフトアーム
トラクターの作業機を上げるためのアーム

リフトロッド
リフトアームとロアリンクを連結しているロッド

リリーフ弁
油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

輪距（トレッド）
左右のタイヤ中心間の距離

ロアリンク
作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の下部をつり下げているリンクで左右1本ずつある

仕様

MT520

項目			形式 MT520	備考
重量	車両重量 (kg)		2260[2470]	3P付
	荷重(kg)	前輪	970[1060]	
		後輪	1290[1410]	
	附荷重量 (kg)	後輪	25×2+25×8=250	アタッチメント
		本体	30×8=240	アタッチメント
機関出力 (PS/rpm)			52/2500	
形状			ホイールトラクタ	
車種			大型特殊自動車	

性能 走行速度 km/h (m/sec)		クリープ入	クリープ切	
前進	1速	0.18(0.050)	1.92(0.532)	
	2速	0.23(0.066)	2.48(0.689)	
	3速	0.30(0.083)	3.16(0.879)	
	4速	0.38(0.105)	4.01(1.114)	
	5速	0.47(0.131)	5.01(1.393)	
	6速	0.61(0.171)	6.49(1.803)	
	7速	0.79(0.217)	8.28(2.299)	
	8速	0.99(0.276)	10.49(2.913)	
	9速	1.25(0.347)	13.18(3.661)	
	10速	1.62(0.449)	17.12(4.740)	
	11速	2.06(0.573)	21.76(6.045)	
	12速	2.61(0.725)	27.56(7.655)	
後進	1速	0.18(0.049)	1.89(0.522)	
	2速	0.23(0.065)	2.44(0.677)	
	3速	0.29(0.082)	3.10(0.863)	
	4速	0.37(0.103)	3.94(1.094)	
	5速	0.46(0.129)	4.92(1.368)	
	6速	0.60(0.168)	6.37(1.771)	
	7速	0.78(0.213)	8.13(2.258)	
	8速	0.97(0.271)	10.30(2.861)	
	9速	1.23(0.341)	12.94(3.595)	
	10速	1.59(0.441)	16.81(4.655)	
	11速	2.02(0.563)	21.37(5.936)	
	12速	2.56(0.712)	27.06(7.517)	

機体寸法				
全長 (mm)			3870	ロアリンクまで
全幅(標準仕様) (mm)			1670	
全高 (mm)			2545[2500]	安全フレーム
軸距 (mm)			2170	
輪距	前輪 (mm)		1320	
	後輪 (mm)		1340	
最低地上高 (mm)			360 (フロントアクスル)	

項目			形式 MT520	備考
機関	銘柄型式		3TNE100	
	種類		直噴ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエター	
	シリンダ数		3	
	内径×行程 (mm)		100×110	
	総排気量 (cc)		2591	
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	列形	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)		100	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	6.3	
	冷却水量 (ℓ)		11.5	サブタンクを含まず
	電気系統	充電発電機 (V-A)	12—55	
		始動発電機 (V-KW)	12—2.5	
		蓄電池 (V-Ah)	12—120	
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板	
	変速機潤滑油量 (ℓ)		40	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		平歯車式	
走行装置	車輪	前輪	8.3—20	
		後輪	12.4—32	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		油圧式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシャパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、パイロットランプ、サーモパイロットランプ、駐車ブレーキ警報灯、作業灯	
動力取出軸	回転方向		右回り	
	軸寸法 (mm)		35(JIS軸)	
	軸回転速度(rpm)		583、745、1025、1319	
	けん引装置形式		ドローバーヒッチ	
作業機昇降装置	装着装置の種類規格		カテゴリ JIS2(1)	
	油圧制御方式		・ポジションコントロール付 ・PAC付 ・ドラフトコントロール付	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります
※[ ] 内はキャビン仕様です。

MT620

項目			形式 MT620	備考
重量	車両重量 (kg)		2390[2600]	3P付
	荷重(kg)	前輪	1025[1120]	
		後輪	1365[1480]	
	附荷重量 (kg)	後輪	25×2+25×8=250	アタッチメント
		本体	30×8=240	アタッチメント
機関出力 (PS/rpm)			62/2500	
形状			ホイールトラクタ	
車種			大型特殊自動車	
性能 走行速度 km/h (m/sec)	前進	1速	0.19(0.054) クリープ入	2.07(0.575) クリープ切
		2速	0.25(0.071)	2.68(0.745)
		3速	0.32(0.090)	3.42(0.950)
		4速	0.41(0.114)	4.33(1.204)
		5速	0.51(0.142)	5.42(1.506)
		6速	0.66(0.185)	7.02(1.949)
		7速	0.85(0.235)	8.95(2.486)
		8速	1.07(0.298)	11.34(3.149)
		9速	1.35(0.375)	14.25(3.958)
		10速	1.75(0.485)	18.51(5.124)
		11速	2.23(0.619)	23.52(6.535)
		12速	2.82(0.784)	29.79(8.276)
	後進	1速	0.19(0.053) クリープ入	2.03(0.565) クリープ切
		2速	0.25(0.070)	2.63(0.732)
		3速	0.31(0.088)	3.36(0.933)
		4速	0.40(0.112)	4.25(1.182)
		5速	0.50(0.139)	5.32(1.479)
		6速	0.65(0.182)	6.89(1.914)
		7速	0.83(0.231)	8.79(2.441)
		8速	1.05(0.293)	11.14(3.092)
		9速	1.33(0.368)	13.99(3.887)
		10速	1.72(0.476)	18.18(5.032)
		11速	2.19(0.608)	23.10(6.417)
		12速	2.77(0.770)	29.25(8.127)
機体寸法	全長 (mm)		3870	ロアリンクまで
	全幅(標準仕様) (mm)		1760	
	全高 (mm)		2585[2540]	安全フレーム
	軸距 (mm)		2170	
	輪距	前輪 (mm)	1370	
		後輪 (mm)	1440	
	最低地上高 (mm)		400 (フロントアクスル)	

項目			形式 MT620	備考
機関	銘柄型式		4TNE100	
	種類		直噴ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエター	
	シリンダ数		4	
	内径×行程 (mm)		100×110	
	総排気量 (cc)		3455	
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	列形	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)		100	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	8.2	
	冷却水量 (ℓ)		12	サブタンクを含まず
	電気系統	充電発電機 (V-A)	12—55	
		始動発電機 (V-KW)	12—2.5	
		蓄電池 (V-Ah)	12—140	
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板	
	変速機潤滑油量 (ℓ)		40	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		平歯車式	
走行装置	車輪	前輪	8.3—24	
		後輪	12.4—36	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		油圧式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシャパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、パイロットランプ、サーモパイロットランプ、駐車ブレーキ警報灯、作業灯	
動力取出軸	回転方向		右回り	
	軸寸法 (mm)		35(JIS軸)	
	軸回転速度(rpm)		583、745、1025、1319	
	けん引装置形式		ドローバーヒッチ	
昇降作業装置	装着装置の種類規格		カテゴリ JIS2(1)	
	油圧制御方式		・ポジションコントロール付 ・PAC付 ・ドラフトコントロール付	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります
※[ ] 内はキャビン仕様です。

MT720

項目			形式 MT720	備考
重量	車両重量 (kg)		2440[2650]	3P付
	荷重(kg)	前輪	1050[1140]	
		後輪	1390[1510]	
	附荷重量 (kg)	後輪	25×2+25×8=250	アタッチメント
		本体	30×8=240	アタッチメント
機関出力 (PS/rpm)			72/2500	
形状			ホイールトラクタ	
車種			大型特殊自動車	
性能 走行速度 km/h (m/sec)	前進	1速 クリープ入	0.19(0.054)	2.07(0.575)
		2速 クリープ入	0.25(0.071)	2.68(0.745)
		3速 クリープ入	0.32(0.090)	3.42(0.950)
		4速 クリープ入	0.41(0.114)	4.33(1.204)
		5速 クリープ入	0.51(0.142)	5.42(1.506)
		6速 クリープ入	0.66(0.185)	7.02(1.949)
		7速 クリープ入	0.85(0.235)	8.95(2.486)
		8速 クリープ入	1.07(0.298)	11.34(3.149)
		9速 クリープ入	1.35(0.375)	14.25(3.958)
		10速 クリープ入	1.75(0.485)	18.51(5.124)
		11速 クリープ入	2.23(0.619)	23.52(6.535)
		12速 クリープ入	2.82(0.784)	29.79(8.276)
	後進	1速 クリープ入	0.19(0.053)	2.03(0.565)
		2速 クリープ入	0.25(0.070)	2.63(0.732)
		3速 クリープ入	0.31(0.088)	3.36(0.933)
		4速 クリープ入	0.40(0.112)	4.25(1.182)
		5速 クリープ入	0.50(0.139)	5.32(1.479)
		6速 クリープ入	0.65(0.182)	6.89(1.914)
		7速 クリープ入	0.83(0.231)	8.79(2.441)
		8速 クリープ入	1.05(0.293)	11.14(3.092)
		9速 クリープ入	1.33(0.368)	13.99(3.887)
		10速 クリープ入	1.72(0.476)	18.18(5.032)
		11速 クリープ入	2.19(0.608)	23.10(6.417)
		12速 クリープ入	2.77(0.770)	29.25(8.127)
機体寸法	全長 (mm)		3870	ロアリンクまで
	全幅(標準仕様) (mm)		1865	
	全高 (mm)		2585[2540]	安全フレーム
	軸距 (mm)		2170	
	輪距	前輪 (mm)	1370	
		後輪 (mm)	1440	
	最低地上高 (mm)		400 (フロントアクスル)	

項目			形式 MT720	備考
機関	銘柄型式		4TNE100	
	種類		直噴ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエター	
	シリンダ数		4	
	内径×行程 (mm)		100×110	
	総排気量 (cc)		3455	
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	列形	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)		100	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	8.2	
	冷却水量 (ℓ)		12	サブタンクを含まず
	電気系統	充電発電機 (V-A)	12—55	
		始動発電機 (V-KW)	12—2.5	
		蓄電池 (V-Ah)	12—140	
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板	
	変速機潤滑油量 (ℓ)		40	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		平歯車式	
走行装置	車輪	前輪	9.5—22	
		後輪	16.9—30	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		油圧式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシャパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、パイロットランプ、サーモパイロットランプ、駐車ブレーキ警報灯、作業灯	
動力取出軸	回転方向		右回り	
	軸寸法 (mm)		35(JIS軸)	
	軸回転速度(rpm)		583、745、1025、1319	
	けん引装置形式		ドローバーヒッチ	
作業昇降装置	装着装置の種類規格		カテゴリ JIS2(1)	
	油圧制御方式		・ポジションコントロール付 ・PAC付 ・ドラフトコントロール付	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります
※[ ] 内はキャビン仕様です。

標準付属品

品　　名	個　数	備　　考
両口スパナ　8×10	1	
両口スパナ　12×14	1	
両口スパナ　17×19	1	
両口スパナ　22×24	1	
両口スパナ　27×30	1	
両口スパナ　26×32	1	
メガネレンチ　17×19	1	
キセルレンチ　26	1	
プライヤー　150	1	
ドライバ（差換式）	1	
グリースポンプ	1	
タイヤゲージ	1	
ハンマー（1lb）	1	
ジャッキ（2ton）	1	
取扱説明書	1	
検査合格書	2	
スタータキイ		